京城日報

大正十年を迎ふ

[illegible]

京城日報を通じて我朝鮮の同胞に寄す

内閣總理大臣　原　敬

成功の花を開き

[illegible]

内鮮の共存共榮

[illegible]

温情を以て接し

[illegible]

大詔の中にも明

[illegible]

官民一般に望む

[illegible]

朝鮮統治の大方針

朝鮮總督男爵　齋藤　實

[illegible]

内外多事の秋

[illegible]

本年度の計畫

[illegible]

優渥なる二大恩典

[illegible]

無限の親愛と同情

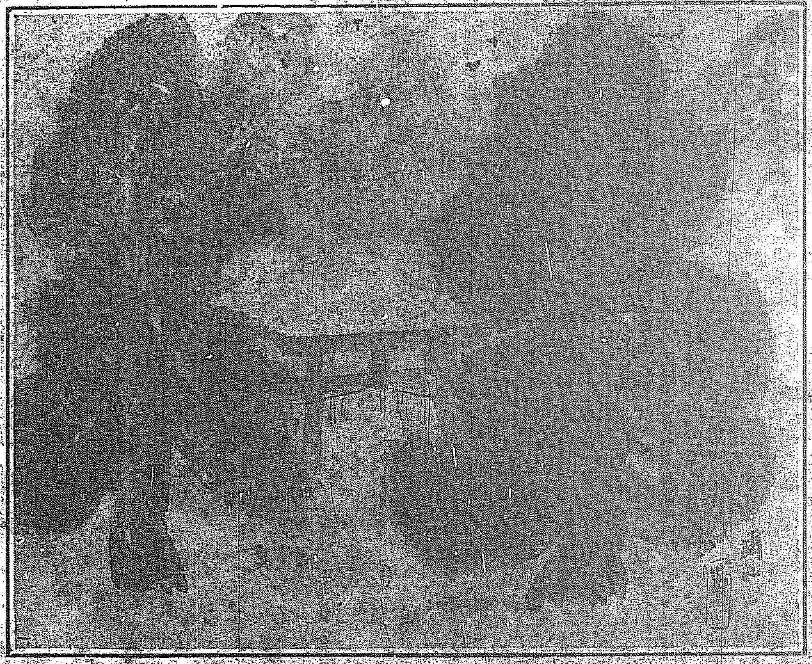
[illegible]

明日に富期した

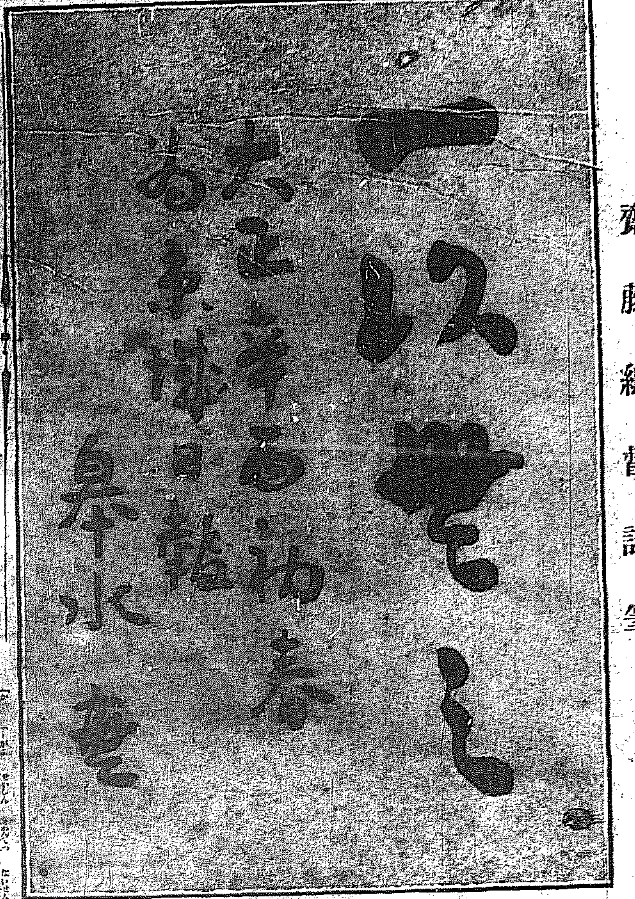
[illegible]

同人旬より見

[illegible]



社頭曉　飛田周山筆



齋藤總督試筆

聖旨を奉行するのみ

政務總監　水野錬太郎氏談

朝鮮併合の大精神は其當時煥發せられたる明治大帝の聖詔に頒かなる如く一に日鮮兩國民の幸福安寧を維持し以て東洋永遠の平和を保障するにあるのであつて朝鮮統治の根本方針も畢竟此の御趣旨を實現せんとするに外ならないのである即ち新附の民たる朝鮮の人士も舊來の帝國臣民と同じく陛下の赤子にして其間何等の差別が無い、是れ一視同仁と仰せられたる次第であつて局に當る者は此の聖旨を奉體し朝鮮をして寺頑なる日本の領土たらしめ又朝鮮の人々をして陛下の恩澤に浴する我同胞たらしむることを以て念とせなければならぬは固よりである、統治の細目は時に應じ變に隨ひ改更することあるべきもその根本義に至りては儼として不變なのである、世人動もすれば寺内前總督の統治を武斷主義と稱し現總督の施政を[illegible]

寺内伯、前總督長谷川伯の意が此に在り現總督の方針亦此に在ることは言ふ迄も無く將來朝鮮統治の任に膺るもの、亦意を此に致す可きは言を俟たぬのである、故に武斷と言ひ文治と稱し時に或は多少施政に變更を加ふることあらんも根本の主義に至りては何等の動搖も無いのである、即ち一に朝鮮の安寧幸福を念とし民衆を愛撫し陛下の忠良なる臣民たらしめ東洋平和の基礎を確立するに在るのであつて此の方針は永遠に亘つて不易不變と稱して差支ない

一昨年の總督府官制改正以後各般の施設に改革を加へ或は内鮮人間の差別待遇を撤廢し警察制度を改正し教育方針を確立し産業の發展を計り形式主義の政治を改めたる如きは皆此の趣旨を[illegible]

しめて之を旅任するの主旨でないことは固よりである又彼の世間で稱して武斷政治なるものとても決して威力を以て強む事のみを主としたるのでない否、寧ろ民衆に對しては極めて懇切なる民衆に對しては極めて[illegible]を以て之に接し教育産業等文化政治を施し決して武力のみを以て政治の根本方針としたものではないとは明かである、世人或は之を誤解し若くは曲解し所謂文化政策を以て軟弱主義なりとし迎合政策なりとするものあらばそれは大なる誤謬であると思ふ、昨年の制度の改正は特に從來の政策に變革を加へたものでもなく唯時運の趨勢に應じて併合の大精神を貫徹せんとする途に出たに外ならんのである

昨年八月以來朝鮮の人心に多少の變化を生じたのは事實である是に於ける世界思潮の[illegible]民族自決の誤れる觀[illegible]れるものであらうが[illegible]

彼の併合の精神を貫徹せしむる事の觀念を認識すべく之に至るは以後に於て之に至るまた今日以後に於て即ちなる時期に到達するも[illegible]せなければならぬ、即ち内鮮一家の觀を爲さしめて日本帝國臣民たる統治下に利益幸福を享有しても日本國民たる光榮に誇らしむるの偉大なる精神の下に併合の大精神を共榮の利益に齎起せしめを得べきがにある、之が爲には併合の大理想を常に[illegible]の施設に一視同仁の聖旨を徹底せしめて之を[illegible]に於ては寸毫の疑ひをからしめねばならぬめには教育の向上と普及めその完全なる施設を徹底せる國民的知識を[illegible]

[illegible]

水野政務總監試筆

李完用侯試筆

[illegible]如何に朝鮮をして我が領土たらしめ眞に内鮮を擧げるかに着眼せなあらぬ、此の見地に亘るき熱情ある雅量と無くの時日に於て朝鮮統治を望む如きものあればこを惡るもので作合を斷に反するのみならず際熊度の大使命を阻のことは言はねばならぬ、此機會に於て我鮮民にる大襟度と熱烈なめる大國民的態度をいのである

大正九年は獨り東洋に於てのみならず世界にも最も出來事多き不幸なる年であつたが今しかも大正十一年の平和なる新年を迎ふるに當りて光明あり希望ある幸福が我朝鮮にも見舞ひ來つて千七百萬の半島の人士が愉快にして洋々たる前途を祝福すべき幸ある年たらんことを希望し我々局に當るものは此の一體となりて以上の大目的に向つて獻身の誠意を捧げて努力することを誓ふと同時に國民全體も此の大精神に適應す可き援助と奮鬪とを吝まざらんことを切望に堪へぬのである

又復撤兵の要求

支那政府から帝國へ

間島に駐する支那軍隊の配置完全となりたるを以て日本の聲明通り撤兵を實行されたしと要求したるに對し日本政府は未だ之に回答を與へざりしが外交部は二十八日重ねて當初の要求を小幡公使に提出せり（北京二十九日發電）

樂觀し難い財界

一巡整理を終つた朝鮮は多幸

美濃部鮮銀總裁の談

東上中なりし美濃部鮮銀總裁は去る三十日朝歸城した其の談に曰く

内地の景氣も表面無事に經過しるに減つた資産で減らない債務の整理をどうするかと云ふ點にある左様な意味に於て朝鮮は[illegible]

日本の對米通告

新條約の内容に關して

日米新條約締結に關するモーリス大使對幣原大使の交涉は多大の進捗を見該交涉は近く日本政府及び國務省の双方に同時に發表さるべき內容なりと該條約の大綱につきての細目は未だ發表されざるも日本は在米日本人の權利に對し妥當の制限を設くる事には反對せざる事を認めかも居るが併し之を日本人に適用して他國民に適用せざるが如きは不平等なる事あるべからずと通告せりと解せらる（紐育二十八日發電）

ダ氏戰死說否認

ローマ來電はダヌンチオ氏の戰死又は負傷說は公式に否認せられたりと報ぜり（倫敦二十八日發電）

ダヌンチオ氏宣傳飛行

ミラン來電は二十六日伊太利正規軍はフューメに對して進撃を企てたるがダヌンチオ軍の頑強なる抵抗に會ひ多大の損害を蒙れりダヌンチオ氏は飛行機にて戰場の上を飛び廻り伊太利軍の脫走を煽動する小冊子を投下せり（倫敦二十八日發電）

表面無事　だと云ふので

一巡整理　し盡された形

唯その內實は澤山見たやうに、いつ凄じい噴火をするか分らない狀態にある十年の財界も決して樂觀を許さぬ先つよく行つてヂリ〳〵整理を進める位が落ちであらう何しろ生糸は殆ど輸出杜絕の狀態であり綿絲も前途の安定は中々困難であり米價の暴落で地方の景氣の沈衰を來してゐる各主要地に於ける莫大な商品の停滯をどうするか一日本銀行筋では頻りに停滯商品の對外輸出を奬勵してゐる極めて良い事であるが偖てドコに賣り込むかドコで買つて吳れるかゞ問題である或は商品を

支那に搬出　し廊して

需要先を見出す方法を執つたらと云ふ計畫もあるかに聞くが夫れが萬全なものか怎うかは疑問の餘地あり要するに今日の經過は轉々しく豫測は出來ないのである米國の景氣もよくない同國の日本産業需要は何れ復活同國されるであらうが大統領選擧終了後とかクリスマスを過ぎたらばとか云ふ豫想は時によつて出てゐたけれど一向その豫想は實現せぬ今日の所見込みは立たぬ何分世界の大國たる獨逸と露國が事實上に於て壞滅に等しい現狀より觀て大きい不況來は之れは

避け難い　成程金融は變態的ながら益々緩慢になつて行く金利の低下も當然來るであらう然し乍らその利下は新に商賣でもやらうと云ふ人にとり利益だが財界の動搖によつて損害を受けた向にとつては殆ど問題でなく大勢の逆向と云ふやうな運びは投交渉とまでは行かぬにしても關係は薄からう問題は金利でなく二分の一若くは三分一

と目すべきものも云ふに足らず各方面共に

受けた商社[illegible]の整理は中々大したものだ大體がでたら安いのは相場ちであるから來の安いのは相場に於て當行の總督府事業公債十年度の調理其他合計一億

大祓と除夜祭

宮中最終の御祭典

三十一日午後一時より祓所を新設し祓具を備へ午後三時九條掌典長は各掌典を從へて順次著床續いて主任式部官の誘導に依り各府廳勅任奏任及び判任官各總代著床御恒例に依り莊嚴なる大祓の儀を御擧行相成りたりるが更に午後四時より賢所皇靈殿に於て除夜祭を舉行せらる定刻伶人奏樂の裡に御開扉神饌を供し終つて九條掌典長は恭しく祝詞を奏し再び奏樂中に撤饌御閉扉茲に大正九年最終の御祭典を終らせられたり（東京特電）

總督受賀

齋藤總督は一日午前十一時半より倭城臺官邸に於いて在城文武百官の祝賀を受ける筈であるが是より先き官邸内第二應接室に於て兩陛下の御眞影を奉安し定刻總督は陸軍大將の大禮服で官房職員を從へ御眞影の前に侍立の上親しく賀辭を受る事になつて居る此日祝賀の爲參集すべきものは總督府並に所屬官署の勅任官全部、總督官房及び各局に於ける高等官三等以上の各總代、同判任官の各總代で所屬官署（李王職も含む）の長官は各自部下より祝賀を受けた後總督官邸に參集其旨總督に申報する等尚中樞院副議長、顧問、贊議、副贊議、朝鮮貴族等も亦祝賀の爲參集する事になつて居る

御用始め式

四日午前擧行

總督府にては來る四日午前十一時より第二會議室に於て御用始式を擧行すべく本府高等官及び府内所屬官署の長官は全部參列すべしと

內地—朝鮮間

電信不通となる

復舊の見込立たず

三十一日朝來電報不通となりたるに就き下關局より京城郵便局へ左の通り通知ありたり

岡山、福山、三原の三ヶ所に於て電柱倒れ（雪害の爲めならむ）下關以東大阪東京方面通信杜絕し電報は下關より東京方面へ送の手配中元山釜山よりも同樣杜絕し急速恢復の見込立たざる由

千萬圓を超ゆるかに記臆する尚は年度末に全重役會合行務の協議をやる例となつてゐるが本年は之れを開かず在城重役で略決定する方針何分ドコにも大きな問題がゴロ〳〵轉がつてゐて皆揃ふと云ふやうな事は出來難い事となつた云々

寸碧

▲元日や神代の事も思はるゝ、祝の儀式も上古の遺俗を傳へて至つて素樸な内になか〳〵のゆかしさが見ゆる▲其の儀式の中に屠蘇の酒を三獻つつ酌むが全國を通じての習ひで、江家次第に依れば、此の式は嵯峨天皇の弘仁年中から始まつた樣に記されてあるがもとは支那から傳はつた風習であらう▲本草綱目に屠蘇酒は疱の方で元旦之を飲めば疫癘一切不正の氣を却くとある▲屠蘇酒に限つて先づ少者より飲み次第に長者に及ぶのが習慣で之を藍尾酒ともいふ、本邦でも同じく少者より長者に及ぼすことが多くの物の本に見ゆる▲屠蘇の製造法は七味九味等いろ〳〵であるが本草綱目には赤朮、桂心、防風、菝葜、蜀椒、桔梗、大黃、赤小豆で製すである▲屠蘇といふ言葉は外には餘り見ねないが本來は『庵』と同樣の方言で『平屋』といふ意味だそうだ▲此の平屋は寒を防ぐに適して居るので臘末に其處に一家相會して屠蘇酒を酌む風習が起りそれが遂に屠蘇の酒と唱へる樣になつたと見ゆる▲されば朝鮮式でいへば之を溫突酒とでもいふべきであらう

人事消息

▲加古貞太郎氏（辯護士）三十一日朝東上

▲赤井春海氏（參謀本部課長歩兵大佐）三十一日朝釜山上陸九時五十分發急行列車にて北行（釜山電話）

銀行下半決算

各銀行は大正九年度の下半期決算を三十一日午後三時締切りたり

判事懲戒免職

警觀末左の通り辭令ありたり（東京特電）

朝鮮總督府判事　淺原甫右エ門

懲戒免職

拓殖次長來鮮

教育調査會列席

後藤拓殖局次長は落職三十日附を以て朝鮮へ出張を命ぜられたるが右は教育調査會議へ列席の爲にて來る六日頃入城すべし

後藤　前明

朝鮮へ出張を命ず

大節季の金融

大節季の金融界は格別の變化なく鮮銀發行高も三十日締切一億一千二百二十六萬圓にて之れを月初に比し約一千三百萬圓の增發を示せり銀行側の回收は商人側の貿掛金殘莫困難の點あるやにて豫期の如き收納を示さゝる向もあり唯小賣りは存外に繁昌せし模樣は各地を通じ不景氣は甚だらざりしと

喪中に付年末年始
欠禮仕候
京城明治町二丁目
阪井峯太郎

小生去月以來腎臟炎に罹り臥床中の爲め年末年始の禮を缺き候に付此段御斷申上候
忠淸南道大田郡大田
茶谷榮治郎

旅行中に付年末年始
欠禮仕候
京城黃金町三丁目將棊指南所
溝呂木光治

京阪地方旅行中に付年末年始共缺禮仕候
黃金町二ノ五一
府協議員　方奎煥

病氣中歲末歲首の御挨拶缺禮仕候
福岡大學病院內
川崎藤太郎
全羅北道沃溝郡開井面

東上中に付年末年始缺禮仕候
黃海社社長
松山常次郎

謹賀新年
麻生鑛業株式會社
朝鮮鐵山株式會社
京城南山町一丁目十三番地
麻生音波

喪中に付年賀缺禮仕候
京城南大門通り一丁目
北村商店
北村正夫
外
店員一同

謹賀新年
一月一日より
東京落語大演藝會
正午後六時開演
京城府明治町二丁目
浪花館
電話二六〇番
館主　西田嘉三

謹賀新年
大正十年元旦
京城日報社
每日申報社
社長　加藤房藏
[illegible]

元日は晴れ
溫度は五度內外
元日から四日までは[illegible]でした十年の元日の天候は未だ電報が入りませんから確定した事は申し上げられませんが[illegible]

北京政府對南策

[illegible]

日の出づる國に幸あれ！
一九二一年に幸あれ！！

フユーメ市長講和提議

[illegible]軍艦及び探照燈[illegible]以て海上よりの救援を妨げ[illegible]市内には僅に二週間の食糧[illegible]を有するのみなりと 二名の委員は[illegible]を齎して羅馬に向ひ居れりと傳へらる（倫敦二十八日發電）

フユーメに於ける戰鬪は[illegible]

關税增徴財決定

支那政府は外交團の提議に[illegible]六日[illegible]する事に決し 從ひ關税一割附加税徴收[illegible]たりと 而して之に依りて得る金額を支那政府が共に附加徴收の條件の如く單に全額を飢饉救濟のみに用ふるや否やを監視するため外人より成る監督委員會組織さるべし（北京三十日發電）

[illegible]の大火

（北京三十日發電）[illegible]牛込區早稲田鶴巻町[illegible]より卅日午前[illegible]時市發火約百三十戸[illegible]

基隆の[illegible]

二十六日基隆大沙灣漁間[illegible]より[illegible]失せり[illegible]

瑞雲靉靆く大内山
四方拜の儀と文武官の拜賀

大内山の曙、春霞立ち罩めて宛然平和の象徴の如く拜せられ宮城前廣場には市民堵を爲し、拜賀參内の文武臣僚は車馬を驅騙して織るが如し 此日 聖上陛下には黎明玉床を離れさせ給ひ宮中に於て[illegible]の御袍神々しく天神[illegible]に對し四方拜の儀を行は[illegible]午前六時賢所大前に[illegible]日祭には御親ら玉串を[illegible]ひて御告文を奏させら[illegible]皇宗の大前に國民の[illegible]祈らせらる、斯て七時三十分皇后陛下と御同列正殿に出御御晴れの御膳を食召されたる後十時鳳凰の間に於て東宮殿下を始め各皇族殿下の拜賀を受けさせられ更に上陛下には大元帥の御正裝に大勳位菊花大綬章御佩用、皇后陛下にはローブデ、コルテを召され伏見元帥宮より王子李垠同妃の各殿下正親町侍從長、中村宮相、内山侍從武官長、千種典侍以下侍從女官供奉の上正殿に出御あり佛國中古の宮廷に於ける御小姓姿の紫天鵞絨の洋服に黄金作りの短劍を帯びたる廿名の小公子は交代に各妃殿下の長き御裳裾を捧持して徐々と進む。正殿に於ては原首相以下大勳位親任官の諸員は侍從侍立の上順次に玉座の前に進みて拜賀を仰付られ午前十一時よりは[illegible]

勅任官内奏任官又午後二時よりは露國大使クルペンスキー氏以下駐京の各國大公使に對し拜賀の謁見を賜ひ御機嫌麗しく入御あらせらる

二日祭

十時御正裝にて伯子男爵以下に拜賀を仰付けられたるが貴衆兩院議員等も織るが如く參内し御車寄より式部官の指導にて正殿に參進し一々陛下の萬歳を壽ぎ奉る、斯て二重橋、坂下、乾の各御門に於て[illegible]

元旦の京城

李王家

昌徳宮の宮深く多の日を籠らせ給ふ李王殿下並に妃殿下には今尚ほ心靜かなる心喪中に被在らせられ一般の祝賀は御受けさせられず只皇室への御祝電を發せらる。由右に就き李王家よりは總督府に宛て執奏方を御依頼ある筈なり

軍司令部

朝鮮軍司令部の元旦は午前十時半司令官々邸に將校高等官參集して大野軍參謀長司令官代理で年賀を受け十一時御眞影拜賀式を了へ十一時半三鞭酒を擧げて天皇皇后兩陛下の萬歳を三唱し、朝鮮軍の萬歳等を三唱して散會それより龍山階行社に於て午前十一時半各隊の將校等と會集して年賀の祝盃を擧げて散會する

第二十師團

第二十師團司令部では淨法寺中將師團司令部樓上に於て將校高等文官等の年賀を受け御眞影拜賀式を了へて直に偕行社に參集し一般將校等と共に年賀の祝盃を擧げて散會

憲兵司令部

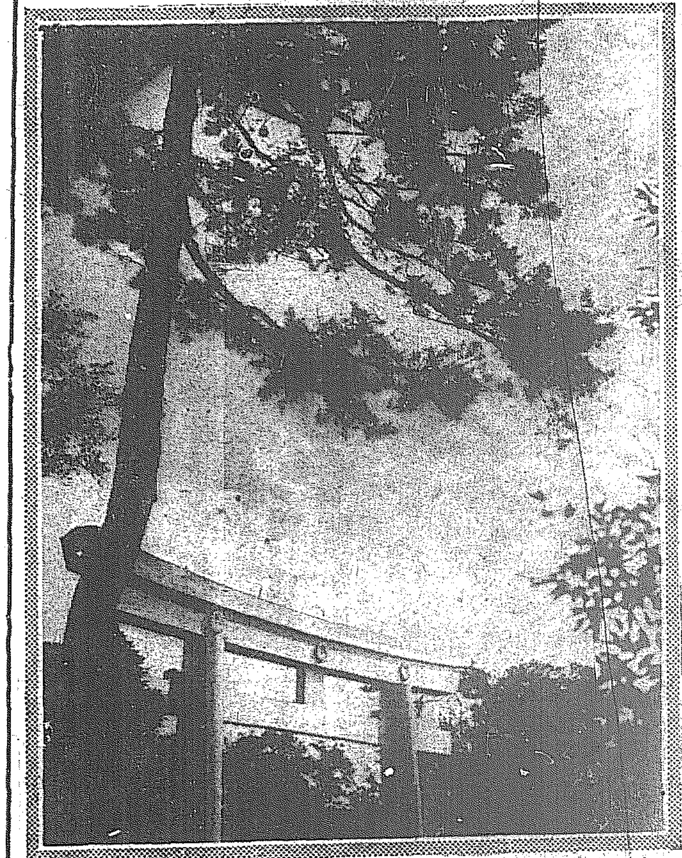
朝鮮憲兵司令部では前田司令官が司令部樓上に於て年賀を受け各將校下士及高等、判任文官等會同して御眞影拜賀式を行ひ兩陛下の萬歳を三唱終つて三鞭酒を擧げ散會

名刺交換會

京城府民新年祝賀名刺交換會は一日午前十一時より京城公會堂に於て催される

京城神社

新玉の年の初めの御賀の詣で社參る爲め京城神社にては元旦の朝目の曙祭暮る午前九時より中祭式に依り歳旦祭が執行され又三日の元始祭も同樣當日の午前十一時から行はれる今其の式次第を聞くに垣目社殿を裝飾し宮司祢宜人及氏子總代等參列先づ修祓を受け一同着席し齋主昇殿御扉開き神饌を獻じ祝詞を奉上し一同玉串を奉りて撤饌終つて齋主再び昇殿し御扉を閉め上げ式を終るべし



◆社頭の曉◆

瑞祥の春を迎へて
感慨無量……更に聖恩を懐ふ

朝鮮軍司令官陸軍大將 大庭二郎

自分は新春を迎ふるに當り、感慨に堪へないものがある、自分は實に本年を以て五十八歳に達するから

都合五十七回 門松を潜つた

譯になるのだが其の五十七回の春を迎へた中でも今猶忘られ難き深い印象を止めてゐるのは實に明治卅八年の元旦である。その頃自分は乃木軍の參謀であつた。乃木軍は金州南山の戰鬪後旅順を攻略する目的を以て旅順に向つて勇往邁進した。バルチツク艦隊が回航するとの情報もあつたので一日も早く攻略しなければならぬ、夫れで

萬難を排して 第一回第二回

の總攻撃を敢行したが敵も去るもの天險に據つて頑强に死守して不幸にして二回共失敗に終つた多大の死傷者を出したので國内では乃木軍に對する批難の聲も起つた、將軍は死を決して飽迄國民の期待に報ゆべく惡戰苦鬪し十一月以來着々功を收めて旅順に迫つた、この間には敵にも味方にも武士道の神髄を發揮した幾多のエピソードがある。元旦の夕

ステツセル將軍から軍使が來

て開城を申込んだ時は悲壯の感に堪へなかつたが、遂に目的を貫徹したので自分は譯も無く熱い涙に咽んだ。當時の露軍は洵に强く其一兵卒の勇敢なる行動にも吾人の範とするものがあつた。春を迎ふる毎に自分は其當時の事を思ひ出さずには居らぬ 大正四年の正月は自分は露國出征軍武官として波蘭のバラノウヰツチと云ふ小驛の列車内で迎へた。聯合國の從軍武官もゐたので

太陽暦の元旦も露暦の元旦

も二度迎へたが當時露國は獨軍を國境に粉碎した頃で意氣天を衝くの慨があつた、自分は列車内から露國の皇帝に祝電を捧げた。ロマノフ朝廷も旺んな頃で戰勝國の春は更に瑞氣に閉され總ての人の口々から露國の萬歳が唱へられた、それが數年にして瓦解しやうとは誰か思はう全く夢にも思はぬ事であつた。次いで

大正八年の春 は西伯利の雪

深き斧多の中で自分は出征第三師團長として迎へた露國はもうその頃全く瓦解して慘澹たるものであつた。自分は露國の復興を祈りロマノフ朝を滅亡せしめた赤色過激派を敵として相對峙してゐた。大正四年露國から歸朝の途次チタに着いた時恰度露軍が埃國の要塞プレミツセルを攻略したとの情報が齎した計りの時だつたのでチタからロマノフ皇帝に對し祝電を發した事がある

齊々で春を迎へた時自分は

其時の光景が浮んで無量の感に堪へなかつた、祝電を送つた皇帝はもうその時過激派の毒手に敢ない最後を遂げられてゐた。皇威八荒に輝く帝國の春を迎へながらも慘澹たる友邦露國の末路を思ふては潸々として涙の下るを禁し得なかつたのである。大正十年自分は朝鮮軍司令官として此の春を迎へる。日露戰爭以來自分を通じて露國の

現狀を懐ふと 轉た慄然たる

ものがある良民は塗炭に苦しみ食ふに食無く寝るに衣無く寧くに靴さへ無いと云ふ有樣である

欣幸に堪へざるものがある

一時北歐の一角に歐洲列國をして脅威せしめた大露國、[illegible]せした大露西亞大帝國、それが一朝にして滅亡したのである。自分は今茲に紀元二千五百八十一年の春を迎へ、紫雲靉靆、群鶴九重に舞うて、老松樹油を奏し皇威赫々、昭として江河光澤ある皇國の天地を懐ふと この聖世に遭へる我々は天恩[illegible]と云はねばならぬ 天朗氣清し、東向跪拜、皇室の安寧と國運の隆昌とを祝福せざるんやである。この瑞祥の[illegible]民は聖恩に謝し、勤儉努力、聖恩で[illegible]へ得るのも全く擧つて國家に酬ゆる處がなければならぬ ——（文責在記者）

『新年おめでたう！』
と京城から出した年賀状 京城に來た年賀状
大變な數、大變な嵩

[illegible]と云ふ譯になる、處で各方面から『謹賀新正』とやつて來たもの、京城から各方面に發した賀状へ[illegible]御目出度うと云ふのは約二百萬通で昨年に比較して五割九分の増加になる[illegible]三十日までに總數[illegible]百六十四通で昨年に比較する[illegible]三十三萬六千四百〇五通の増加となつてゐる、これを全部官製はがきと假定して其の長さを計算して見るならば三百五十町に達し南大門驛から大邱驛迄並べて尚行き過ぎる位である、積み重ねた時には恐らく千六百十七尺に達すると云ふ實に京城郵便局の廣大な建築物を位として其の廿七倍餘もある

つてゐる是等の郵便物は元日早朝七八十人の遞送夫が午前九時までに京城郵便局に勢揃ひをして三十五區に分かつた京城市内各町洞の街々へ一齊に配達されるのだが配達夫は各二名宛で平常と變つて豫備配達夫を從へ、それこそ各戸へ『御目出度う』ドサツと云つた具合に配達されるそれは元日が午前九時と午後三時の二回で二百萬と云ふから郵便局の元旦が如何に多忙であるかが察するに餘りある

旅行中年末年始[illegible]

愛らしい春の音信
内鮮兒童親交の路は 斯くして永へに開かれたり
本社斡旋の下に結ばれた美しい心と心

日韓併合の大精神を飽まで徹底せしむる上に於て常に内鮮融和をはかり、内鮮一家の實を擧ぐるやう、相互に努力するの必要あることは、今更申すまでもありませぬが單に朝鮮に於ける内地人ばかりでなく内地に於ける

我が同胞も すべて此の大精神を常に考慮の中に置いて相和し、相親み、何處までも手を携へて進むことを忘れなかつたならば、やがては永久の平和が、雞林八道を見舞うであらうことは何人も信じて疑はないところであります併し乍ら世に

内鮮融和を 說くものは甚だ少くありませぬが其の多くは大人にか、はつた所論であつて彼の愛らしき子供！やがては第二の大人たるべき同志の融和を說くものは甚だ尠いかに見ねるのであります、我が社は此の意味から出發して、これまで殆ど

忘られても ゐたかの如き内鮮兒童融和の路を開き、内鮮融和の根本義に深く食ひ入りたいとの考へから先づ繪葉書若しくは手紙によりて内鮮兒童の親交を厚くしたいと、差し當り本社下關支局と相談して色々斡旋した結果大正十年の

新春劈頭に 於て左に掲ぐるやうな無邪氣で眞に愛らしい内鮮兒童の初音信を發表し得ることになつたのを衷心から歡ぶものであります、此の事は勿論内鮮兒童の双方にも同じ樣に歡迎され永續的に此の交りを推し廣めたいとの希望はその

愛らしい口 々から漏れたので本社は更に進んで東京大阪は言ふ迄もなく内地の津々浦々の兒童と鮮内各地の兒童との親交を結ぶ上にも出來るだけの努力を惜まない決心であります、さあ皆さん、皆さんと共に和なる年のはじめに此の神の如な

内鮮小兒の 美しく愛らしい眞情を讀みませう

新年お目出度う御座います。僕は何歳ですか、僕は十二歳になりました。僕は時に朝鮮へ行きたくあります。君は内地に來たくありませんか。これからのちは皆仲善くしておたがひにたすけ合ひませう。さようなら

下關市立[illegible]常小學校第五學年 吉松俊男

李容均樣

新年御目出度御座います。僕は善い歳を取りました。君の御年は御報によつて知りました。僕は今年十四歳になりますが、[illegible]かしいことには何にもよく出來ませんから、餘計に年數のふるのが恐ろしいです。君出來るなら朝鮮へ一度おいで下さい。僕は待つて居ます。僕も何時か内地に行きたいですが、さあどうなるでせうか。これからは手紙でも時々上げやうと思つて居ます。さようなら

京城梅洞公立普通學校四學年生 李容均

吉松俊男殿

拜啓、新しい年を御迎へになつて御目出度う御座います。内地はまだ雪が降りませんから雪遊びは出來ませんが雪が降りますから雪達磨を作る事が出來ませう。私達は凧を上げたり獨樂を廻したりして遊んで居ます。

下關市立[illegible]常小學校第五學年 神村政一

金壽範殿

拜復新しい年を迎へて私達もよろこんでゐます京城では雪がたいへん降りました内地でも正月内には雪が降りませう此葉書の繪は昔の時子供が本を讀んで居る有樣です

朝鮮京城梅洞公立普通學校第四學年 金壽範

神村政一殿

政務總監邸の新年

ありつたけの御家族お揃ひで朝鮮では初めてのお正月を迎へらる、水野政務總監のお家庭は賑やかで殊にお目出度いお正月です。お子様方は平素は東京で御勉强ですがこのうちお休みになつたので早速京城のお兩親のおそばへお迎へやらおめもじにいらつしやいましたので御家庭の空氣も一しほ長閑れやかです、それにこれ迄内地での新年は元日だけはによつてお屠蘇や御雜煮と御祝後は大抵御旅行なさつてゐられましたが、今年は東京から折角樂んで御子様方がいらしたので、たのしい團欒の中に新年をお過ごしになるさうです、お正月のお遊びとしては歌加留多や雙六追羽子といろいろ御催しがありますが歌加留多はお子様方の幼い加減からまた知らず々々夜更しになり勝なものであまりなされず、寒い時分で自然運動不足になり健康上よろしくない所から羽子つき大奬勵の方で時としては御家族中で御父様も仲間に入つてお遊びださうです、ここまでもおめでたい總監邸のお正月（婦人記者）

空家から發火

[illegible]發火同時に常備消防隊京城、龍山消防隊出動せ付けたが猛火は見る見る内に[illegible]日本公論の二階天井[illegible]部を[illegible]木下賀市男方を舐め盡くし更に[illegible] 發火原因は空家からで或は乞食の焚火したものらしく損害三千[illegible]

本紙休刊

元日・三日、五日は祭日に付定例休刊

[illegible]の雪も[illegible]なれば大丈夫だらうと思ひます[illegible]ご解けて來たが元日の天候は一般の氣温ふ迄で京城測候所に聞へば『九年の元日は小雨後晴れ又卅一日正午温度は五度一分で明日も亦大差無からうと存じます（卅一日午後一時）

法人登記
金城金融組合登記事項變更大正九年十二月八日理事千楊貞次郎辭職を發せられ同日左者理事に就任す
金化郡金城面芳忠里九十七番地 [illegible]
右大正九年十二月二十七日登記
京城地方法院金化出張所

謹告火御見舞
京城太平通二丁目
紙函製造 木村勘商店
電話二[illegible]九七番

謹告火御見舞
京城太平通一丁目
富田屋洋服部 羅紗部
電話七貳貳

謹告火御見舞
京城太平通二丁目二六
七福館
志田方

謹告火御見舞
京城太平通二丁目
太陽ゴム商會
岸川澄勇

商業登記公告
株式會社朝鮮殖産銀行（變更）[illegible]
京城府南米倉町百八拾[illegible]番地 [illegible]
右大正九年拾貳月拾七日登記
京城地方法院仁川支廳

時期の御知らせ
防寒箱形
貸自動車
電話壹貳九〇番へ御掛け下さい
◆一時間五圓◆貳圓五十錢◆市外は御相談申上候
京城太平通一丁目
堀商店

今曉近火の際は早速御馳付被下候段難有奉感謝候混雑中御尊名伺洩れ有之やも難計不取敢以紙上御厚禮申上候
十二月三十一日
京城太平通一丁目
官報 諸新聞 盛文堂
電話四二六番

今曉類燒の際は早速御馳付け被下御盡力に預り候段奉感謝候混雑中御貴名伺洩有之やも難計不取敢以紙上御厚禮申上候
大正九年十二月三十一日
京城太平通二丁目
新炭 石炭商 内田吉次郎
避難所 太平通 西崎商會内
電話貳壹五〇番

今曉類燒の際は早速御馳付け被下御盡力に預り候段奉感謝候混雑中御貴名伺洩有之やも難計不取敢以紙上御厚禮申上候
大正九年十二月三十一日
京城太平通二丁目一六
日本公債株式會社朝鮮支部
鈴木重成
電話一六〇二番

今曉類燒の際は早速御馳付け被下御盡力に預り候段奉感謝候混雑中御貴名伺洩有之やも難計不取敢以紙上御厚禮申上候
大正九年十二月三十一日
京城太平通二丁目
ミシン機械商 木下嘉壽男

謹賀新年
羽田調帶株式會社
大阪支店
大阪市西區北通一丁目

京城府南大門外
特約店
白神洋行

曙（あけぼの）

第三十三回　徳田秋聲　（挿畫）近藤紫雲

温泉へ（2）

居衛が東京へ立つて歸つてからは、絢子は急に寂しくなつた。乳母や子供を相手に闘球盤を持出して遊んだりしたが、そんなことでは此寂しさは癒やされないと思つた。しかし、二三日經つうちに、どうやら宿にも落ち著くことが出來て初めて旅へ來てゐるような氣がした。

六月初めなので、東京からの浴客はまだ左程でもなかつた。そして絢子が泊つてゐる温泉宿の廣い幾棟かの建物からは、其所此所に少しづゝ客の顔が見られた。

『廢頽でございますね』お篠は此處へ來て『旦那さまがお歸りになりましたら何ですか急にお寂しくなつたようでございますね』

『然うですよ』

『旦那さまも、東京では矢つ張り、あの、お寂しくてゐらつしやるでございませうよ。お嬢さまがゐらつしやらないから、どんなにねえ、つまらないか知れませんでございませう』

『然うね』と、絢子は笑つて『旦那さまは子供が好きですからね』

るだけで、日暮れになると庭先を流れる水の音ばかり耳について、心細いほどもの寂しいことがあつた。が、中には爪彈の音などの洩れる部屋もあつて、温泉場の空氣は何となく婀めかしかつた。

ある日、晩飯が濟んでから、絢子は電燈の影の薄暗い自分の部屋を出て地味な柄のセルの上に單衣羽織を引つかけながら、お篠に貞子を負はせてぶら〳〵町へ出て見た。明かりの薄暗い町は、川の音に一層の寂しさを添へて、淡い旅愁が胸に滲むばかりであつた。

やがて、絢子はとある橋の上に立つて、水に映る星影などを眺めながら、乳母と温泉の話をしてゐたが、ふと『何だか心細いような所ね』咳くように言つ

『その代り、お須磨さんが帽を利かしてゐるでございませうよ』

『それは何うしてもね』

『奥さまは餘り温順しくてゐらつしやいますから、あんな人が威張るんでございますよ。今度お歸りになりましたらば、少し調子をお變へになつて、偶には、あのう、何とか言つておやりになると可うございますわ』

『まあ、そんなことを言ふもんぢやありませんよ。あれでも私の姑だもの』

絢子の顔には皮肉な、それでゐて暗い表情がちらと現たが、お篠には感じられなかつた。

『まあ、もう少し彼方へ行つて見ませう』然う言つて絢子は歩を移したが『おや、此子はもう睡たらしいわ』とお篠の背後へ廻しく手をやつて、すや〳〵眠つてゐる貞子の頭を直したりした。

二人は暫く默つて歩いてゐた。絢子は邸のことなどを話してゐると、自然氣持が惡くなるので成るべく話を他へ外さうとしたが、お篠は例の洋館の一件…勿論それは絢子が彼女に話したのではなく、お篠の想察であるが…などを持出して、絢子にもつい破壞れなことを言つたりしたので

『何だかもう疲びれたから、歸りませうよ』

暫らくして然う言ひながら、絢子は元來た路へと引返した。と、其途端に修善寺の門の前邊で、宿の貸浴衣を著て、絲靴を鳴らしながらぶら〳〵歩いてゐる一人の紳士が、絢子と擦違つた。そして、紳士はふと振顧つて、薄明りに絢子の顔を透し見ながら行過ぎた。絢子も思はず振顧つていたが、其時はもう遅かつた。男は莨の火を散らしながら、さつさと向ふへ行つて了つた。

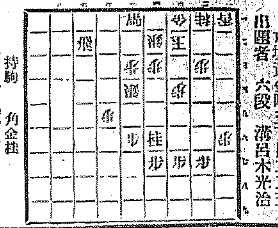
それは、絢子が淡い初戀の印象を頭脳に刻まれたことのある白井に、そつくり其儘の風彩であつた。そして、其顔が濁くなつて、瞼の下の隈が濃く見えたが、絢子の敏い目は、どこかに殘つてゐる若い頃の彼の面影を見逃すことは出來なかつた。

『あの人、欽吾さんぢやなかつたかしら？』

絢子は心の中で然う呟いで、今一度懷しげに振顧つて見たが四邊は暗くて其男の影さへもう眼に入らなかつた。

懸賞詰將棋（第廿七回）

京城黄金町三丁目二二五　出題者　六段　溝呂木光治



持駒　角金桂

募集規定

賞品　金壹圓
入賞者　一名　但正解者多數の時は抽籤とす
締切　一月二十日
注意　京城日報社將棋係宛の事

詰將棋正解（第廿六回）

（正解棋譜）
二二飛ナル同角五四桂打同香五三銀打同桂同と玉六三飛打四四玉五五金打同玉六五飛ナル三四玉三五銀打二五玉二六銀一六玉二五龍二七玉一七銀三八玉二八龍四九玉三九龍五八玉五九龍六七玉六八龍五六玉五七銀四九玉五四馬同玉五六香打四五九五歩合同香同玉二六桂打二四玉二五歩打一五玉一六香打迄四十七手

今回は是までにない難題であつた爲にや山なす回答中一名の正解者もなかりしは掉尾の一振たり得ず一寸淋しいといふの外なし、非常に殘念とするところである。幸出度い新春を迎ふると同時に更に一層奮勵されんことを希望する（係）

演藝案内

大正館　櫻井町一丁目　電話八七三
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店　一月元旦より新春特別大興行　喜劇『小さき瓶』『自轉車乘』の實況　日活向島派山本嘉一藤野一派新撮影
◎新派悲劇　**春駒**　全六卷　父の顔を知らず薄命の少女が家により成長せる可憐な青年の苦學と母子とさせる悲劇
◎情劇　**女は魔性**　全五卷　パラマウント名映畫
◎日活京都派　**岩見重太郎**　全六卷　日活第二部長市川姉藏大飛躍　前篇十二卷の内
◎元旦より九日迄晝夜開館　◎本興行中從來發行の招待券御斷

黄金館　黄金町　電話一六三七
一月元旦よりキネマ界レコード破りの大連續大活劇　**魔人**　全三十卷の内每週四卷上場
△連續大活劇的　**世界の眼**　全三十卷の内
△現代劇新派　**緣**　全五卷
△大問題の舊劇　**井伊大老**　全五卷　中村吉藏氏傑作

喜樂館　本町一丁目　電話五九七番
新年特別三大映畫封切實演旅行
日活向島派特作品
新派悲劇　**相合傘**　全五卷　名優伊井河合一派當り狂言
虎の足跡　全卅一卷　説明者小石、旭、花、大阪日日新聞連載小説講談
連續大活劇　**尾張三郎丸**　全十八卷の内
活動大寫眞の一丹後天の獨立男三郎丸が槍の下に漫遊する痛快無比の新連劇

壽館　本町七丁目　電話七八五
正月元日より三遊亭一行
一　つき御目出度　第壹場
一　御一輪挿　第貳場

浪花館　明治町　電話一一六〇番
一月一日より開演　橘家圓三一行來る
三遊亭遊玉、同若遊、橘家圓三…

浪花座　本町五丁目　電車終點　電話二三一八番
嵐璃一座

喪中に付年末年始欠禮仕候
京城旭町二丁目
金谷敏郎

旅行中に付年末年始の禮を缺く
志岐信太郎

喪中に付年末年始缺禮仕候
鎭南浦
馬場嘉藏

喪中ニ付年賀缺禮
平山正祥

▲紳士的新職業▼
男女 拾八歲以上
▲學力小學卒業程度自宅で
▲若ながら立身出來る
課一貫無資力可能で成功できる
文明の響手んで紳士的新職業は自動車運轉手の内容省合簡要る今
會員を運轉手成の教授を
中途得れる若き速成の資格をす
此東西を通じて
多數あるが東京で
最も有る適齢は男女不問
年以上ある八年で八間
齡齡卒業今年度の
小學卒兼は本グ八
學見込無代送スベキ
がは見込込代見本
規則でも申送る
○東京牛込區通寺町廿二
東京自動車協會事務所

於各博覽會金牌數個受領
新案特許　中村式無砂精米機
一本機ハ純無砂搗ニシテ半搗米ニ最モ適當ス
一本機ハ精米多量搗減僅少ニシテ酒造精米ニ最適ス

◎説明書御申越次第進呈ス
最新式　中村式二輪印製粉機製作
大阪市東區京橋二丁目（八軒家）
製造元　中村製作所本店
福岡市博多驛前
中村製作所九州支店　電話長三〇九一番

謹賀新年
名古屋市中區東瓦町拾貳番地
毛布角卷製造業
合名會社　圜尾紡織合名會社
電話本局四九二六番、三番　振替口座大阪三四六二番

病中ニ付年賀缺禮
朝鮮總督秘書官　伊藤武彦

賀正

大阪市西區立賣堀
日本一藥館
本舖主　塚田日郎
釜山府寶水町
釜山支局長　高松熊五郎
大邱府京町
大邱支局長　兼吉堺
仁川府花町
仁川支局長　山本太市郎
元山府驛前通
元山支局長　吉野吉次

恭賀新年

清酒東洋一釀造元
大阪府堺市九間町
柴谷合名會社
清酒東洋一特約店
京城岡崎町
平島屋總本店　電話長九〇三番、一三〇番
平壤府大和町
江口支店　電話六一番
清津大和町
徳田商店　電話一五〇番

謹賀新年
一月元日
キネマ界レコード
神秘的連續
奇々快々!!
世界の眼
全二十三卷の内每週五卷上場
中村吉藏傑作

大問題の舊劇
井伊大老

國活會社秘藏映畫
名優フランシス・フォード氏
連續大活劇
魔人
全三十卷の内每週四卷上場
五味國太郎劇
新派 緣 全五卷
黄金館

謹賀新年
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
新田演藝部
京城櫻井町一丁目
元日より公開の特別大寫眞
大阪每日新聞連載小説
日活京都派第二部長市川姉藏の大飛躍
連續大舊劇。大成功映畫
岩見重太郎
全十二篇の内前篇六卷上場
雌伏半歲偉大の抱負を以てキネマ界に投じたる姉藏が絶大の努力と非凡の奮鬪は茲に連續大舊劇として本篇の完成を告げたる自慢の大雄篇
（つゞき）は一月六日より
佐藤紅綠氏著新派大悲劇　春駒　全六卷
パラマウント映畫人情大活劇　女は魔性　全五卷
元日より九日迄晝夜開館可仕候
大正館

新春壁頭の三大映畫
賀正
本町壹丁目
日活直營　喜樂館　館員一同
日活京派特別傑作
新派悲劇　**相あい傘**　全五卷
浮世が浮世か戀か義理の柵み情けのきづな情緒纏綿波瀾萬疊全篇血と涙よりなる新派劇
連續冒險猛獸大活劇
虎の足跡　三十一卷ノ内
五回九、十篇四卷上場
説明者　小石田、園田、石田
大阪日日新聞連載講談
連續豪傑劇
尾張三郎丸　前篇十六卷の内前篇上場
豪傑中の豪傑尾張大納言の三男三郎丸が槍の半藏と唄われた渡邊半藏を引連れ天下漫遊痛快無比の松扇舊劇
○每日晝夜二回開館○料金普通
本町壹丁目
日活直營　**喜樂館**　電五九七番

謹賀新年
お正月の家庭御樂しみは歌舞伎芝居です
嵐中村 信松 三松
中村時 助時 三
市川 本村 錦之助
阪東 調 瓢
松本 いて 調
阪川 東村 珊
中阪 東村 儀
市 村 玉
中 六調
嵐 藏郎 幸 う 藏 糸 郎 助 枝 京 郎 助 藏
本町電車終點
浪花座　電話二三一八番

▲製繩機半價▼
新型大正十年式
賓屋式製繩機
○大正十年一月ヨリ半價提供
○當千キタ中千トテ一ス
○難モ堂ニ復活ニ定ハ價
○顧シ使ナル堅牢
○快ナ作ナル
○至極容易ナレ

賓藥式
屋打機
バ何人ニモ使用シ得ラル
大阪市西區南堀江通三丁目
製繩機製造元　賓屋商店

謹賀新年
本町二丁目
壽館　電話七八五番
新年の初興行トシテ京阪ニ於ケル喜劇界の親玉
ニコ〳〵會一行
男女優合同四十餘名大一座

賀正
大方各位の御多祥を祈り舊に倍する御眷顧願上候
大正十年元旦
大阪高麗橋四丁目
廣告代理業　株式會社　萬年社
支店　東京　京都
取締役社長　高木貞衛
取締役　大橋富藏
同　米澤熊之進
同　栗原仲
同　中川謙三
監査役　澁川千之助

謹賀新年
營業科目
吸入瓦斯發動機
無點火石油發動機
高壓石油發動機

株式會社　伏田鐵工所
大阪市北區上福島北二丁目百三十番地
電話土佐堀　九三二番　九七三番　三二六番

專賣特許
技術顧問　英國工學士　岩根友愛
木屑、鋸屑、籾殻、麻殻、綿實殻、有煙炭、無煙炭、瓦斯コークス木炭燃料
吸入瓦斯發生裝置

其の一

新しき國策を宣す

盃を擧げて出陣を祝す
敢て惡魔の歡聲に聽くものは誰ぞ　吾人は今轉機に立てり

侯爵　大隈重信氏談

新しき歲の曉が來た、吾國民が新しき試練を受くべき曉が來た、率直に言へば我輩は本年も相當面白くない年であると思ふ、之を世界的に達觀するならば國際聯盟は其形式は成立したもの、之に依つて世界永久の和平が果して保證さるゝであらうか、聯盟の發頭人たる米國は今尚之に加入せぬと云ふやうな有樣で露國は內亂未だ熄まず、統一の見込もなく其過激思想を世界の各方面に撒布するのみ、更に巴爾幹、波羅的方面に至つては小邦の興亡相次ぎ、各國には大小の同盟罷業頻々として起り產業界を脅かして居る、世界の形勢既に斯の如くなる以上、我國にでも到底此影響を逸がるゝ事は不可能である。かゝる四圍の形勢を見つゝ、こうして此新年を單に世間並の儀禮的に御目出度うと云つて嬉しがつて居る事が出來るか、吾々國民としては此御目出度ふと云ふ禮儀を交換した後に於て、少くとも之と同時に今年は我日本帝國に採つて果して如何なる年であるかを考慮する丈の餘裕がなければならぬと思ふ、之と同時に此四圍の形勢を見て徒らに驚き迷ふ事は禁物である、今や歐洲大戰の後を受けたる世界各國の識者は之れ等の不安を掀ふ爲めに盛に改造論を唱へて何とか斯る危機を含んで居る不祥の天地より逸れやうと努力して居る何れの國が第一に此難關を切り拔けて先驅者の名譽を擔ふか我國としては歐米各國の後に附隨する事のみを能事とせずに其先驅者たる事を心掛けねばならぬ我國民は此新年の劈頭に於て此大勇猛心を發揮せねば駄目である。一年の計は正に新年の劈頭にあるのであつて、國家百年の長計は此時に於て定まるのである。從つて吾國民一般が此大勢を自覺して大いに爲す決心があるならば今年は決して悲觀すべき年ではないかも知れぬ。否此の意味に於ては不幸なる年を轉じて幸福なる年となさうとする勇者の門出である、何人も世界の狀態、我國の狀勢を見て結構なりと喜ぶ者はあるまい、若し斯の如き際に歡喜の聲を放つものありとせば、それは惡魔の笑ひ聲であらねばならぬ。かゝる徒輩に對しては之れを敵として、大いに戰はねばならぬ。吾輩は此の大正十一年をして、意義あらしめん爲に其戰士たるべき國民全體と共に今や汲むべき此杯の酒に元氣を養ひ、此勇者の出陣を祝するものである。此の意味に於てのみ我輩は此の新年を祝するのである。

國策樹立の基礎
戰後の國家改造は實際政治の最高目標

東京市長　後藤新平男談

大正十年は果して如何なる運命の年であらうか、之を世界の大勢に繫するならば、各國は今尚戰後の經營に就いて不斷の努力を絕つの遑が無い程で其後始末はなか〳〵容易なものでない、世界の狀勢は混沌たる有樣であつてまだ安定する所がなく名は平和の天地であつても其實に於ては四海同胞が之を安んじて其堵に居ると云ふ譯には行かない狀態である、從つて國家としても其施設經營に對しては此世界の大勢を洞察して之に適應すべき方策を講じ、以て他列强に先んじて此難局を切り拔け平和競爭の先驅者たるの努力をなすの必要がある、而して此の戰後の國家改造は最近國家の緊要なる高標的となつて居るものであるが而も此のモツトーに達せんとするが爲には之を世界の大勢に充分理解し研究すると共に之を國內の狀勢に照して尤も其宜しきに叶ふべき施設をなすの必要上先づ以て組織的調查研究の確立を必要とする國家として常設的の大規模なる調查研究の途を講ずる所なくして、國家の改造發展を說くも其施設をして肯綮に待せしめ、其有終の美を濟さしむる事は到底望み難き所である、之れ我輩の持論として大產業調查機關設置案の提唱を叫んで已まない次第である、調查研究の方式には分析的と、綜合的の二種類がある。そこで前者の進步したものは直に綜合的に進步し優秀なるものを創造し得る事容易であるが之に反して分析的の未だ完備せないものが直に綜合的のものを作らんとしても能く其目的を達する事は不可能である。戰後の獨逸に於ては政治的議會の外に或は將來議會の諮問機關として或は將來議會の補助機關として經濟會議の前身即ち假帝國經濟會議が昨年開設されたのであるが、之等は何れも國策樹立の根本方針を調查研究の機關として設立され極めて大規模であつて且完備せる組織の下に成立したものである、之は單に獨逸に於ける一例に過ぎないのであるが、其他の諸外國に於ては何れも此種の調查研究の機關が設けられて一時的ではなく永久的に產業其他百般の國富國力增進に資すべき研究題目に就いて調查の步を進め以て國策樹立の根幹たらしめつゝある次第である、然るに我國に於ては隨つて大小の調查會なるものは開かれて居るが歐米に見るが如き進步せる調查研究の機關を有しないのである。之れは帝國の發展上甚だ遺憾な事と云はねばならぬ此點は國家の爲め當局者が此點に就いて速かに考慮さるゝ所あると共に國民又此新春に際して之が爲に當局を鞭撻し官民一途、力を協せて之が目的の貫徹に努められん事を望むものである。

大勇猛心を奮つて局面を打開せよ
國民は先づ經濟的に覺醒するを要す

憲政會總裁　加藤高明子談

改造の聲は今や世界を通じての流行となつて居るが而も之は單に戰爭によつて受けた災害から免がれ樣と云ふ樣な消極的の議論が多いのであつて未だ大に其聽するに足るものがなく、又、其實力に就いて見るべきものもない如くである、然し歐米各國が戰後の經營について一方ならぬ心を勞し又大に之が爲努力をなして居る事は事實である、我國は歐洲大戰の直接的災害は之を受ける事が少く却て其爲に經濟界には一時的にせよ好影響とも云ふべき狀勢を齎したのであるが實際上から云へば之は惡影響であるか好影響であつたかは判斷に苦しむ次第ではあるが何れにしても歐洲大戰の影響として一時我經濟界は異常の盛況を呈したのである若し此時に於て我國民が大に戒心して此大勢を利する事に重きを用いたならば其好影響を永久に持續し得たかも知れないが一部の輕佻浮薄なる徒輩が一時の利慾の爲に之に應せなかつたが爲に一度其反動來に際會するや俄然として悲慘なる產業界の恐慌時代を現出せしむるに至つたのである、是が爲に各方面に甚大なる惡影響を及ぼすに至り折角健全なる產業界の發達を期し得べき道程のあつたにも拘はらず其功を逸するに至り延いては我國力の發展をも阻止するに至つた事は甚だ遺憾とする事で之が爲め更に失業者の激增による生活不安の發產物を生ずるに至りさらでだに社會問題の難問題が發生せんとしつゝあるに際して更に難問を加重するに至つたのである。斯の如く大正十年は甚だ多事多難たる年であると云ふ事になつた次第であるから國民は此新年に際して餘程の覺悟が必要な次第である我等は過去の罪科や錯誤を辨へた所で何の役にも立たない若し之を責め之に感傷をこぼした所で何の役にも立たない若し政治上に過失があつたならば爲政者は此新春に於て過去を三省し將來に於て其過を再びせざるべく且過去の過を償うて尚餘りあるの効績を擧る事に努力すべきである若し實業家にしてたゞ己を利するならば之亦其過を悟つて其罪科を償ふ丈の覺悟が必要である今後の我經濟界の勢力範圍は單に一國乃至東洋の一局部ではなく正に全世界に跨して居る事を忘れてはならぬ。我產業界は此時此際、努めて大資本の結合に依て其新大地を開拓し以て其雄偉を全世界に示し經濟的地位の確立をなさねばならぬ我輩は此際國民が先づ以て經濟的捷利に向つて邁進せんことを切望するものである。

我が商權の確立
財界は恢復期に入らんとす

農商務大臣　山本達雄男談

歐洲大戰中我國の貿易は非常なる發展を告げたのであるが昨年三月以來の不景氣來によつて我財界は多大の打擊を被つたのである然し乍ら此現象は戰前二億に止まりし正貨が昨年は廿億となり戰時中三箇年間の各會社の增資及新設會社の資本が百卅億餘の巨額に膨脹せる等の結果戰爭の終熄と共に財界は脂肪過多症に罹つて一時心臟痲痺を起したのである、即ち戰時中に於ては我商權は東西到る處に發展擴張せられて、從來逆境に沈淪して居つた我貿易が一朝にして急激なる發展を見るに至つたが擧に各方面の企業家は事業の勃興に弁るの傾向があつたと同時に貿易業者又不知不識警戒を忘り又投機に走るの過をなした之を一言にして表せば一時の勢ひに乘じて暴進し機宜の節制を誤つた結果に外ならぬのである、從つて今後に於ても此點に就いては當業者は此過を再びせざるべく大いに

警戒するの必要

があると思ふ彼の歐米各國は我國が三月以來の反動來によつて對外貿易上多大の打擊を蒙り前年に比べて減退を來して居るにも拘はらず、其恢復の程度は識に顯著なるものがあつて英國の如きは前年に比し輸入に於いて三割、輸出に於て八割を增加し佛國又輸入に於いて二割輸出に於て十九割以上の增大を示したのである、之を我國が大正九年度に於ける貿易の減退に比較して甚だ遺憾に堪へざる狀態と云はねばならぬ。昨年三月來の恐慌に對しては政府は勿論それ〴〵適當なる方策を講じて之が對應の手段を講じた結果漸く之が恢復期に入らんとする狀勢を來しつゝあるのであるが之が完全なる恢復狀態となつて再び財界の

盛況時代を出現

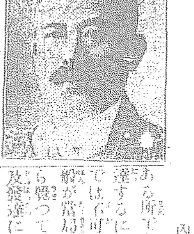
する迄には尚相當の時日を要する次第である、從つて此點に關しては獨り政府當局者の努力に待つのみでは不可ない。國民一般が好く政府の意のある所を[illegible]して各自適當なる方策の下に大的努力をなすの必要があるのである。就中歐洲各國は戰爭中に於ける多大の國力上の創痍を癒す爲に對外貿易に向つて其全勢力を傾倒する事は勿論であると共に戰時中多く其戰禍を蒙る事の少かつた東洋方面に對し其發展の地を求め得る事は勿論である、從つて今後東洋方面就中支那及南洋方面は此世界的貿易戰の中樞舞臺と化す事は豫想し得る所であるが、此方面は何れも我國の對外貿易上の重要なる市場であるから從つて此方面に於て歐洲各國の爲に其市場を奪はるゝ事になれば我對外貿易は一層不振の度を加ふる事になり延いては我財界は一大打擊を蒙るのである從つて我國力の發展上

其貿易戰に優勝

して之が防禦策を講じて我商權の獨立し益々其勢力範圍を擴大する事は獨り貿易業者乃至製造工業家自家存立の大問題たるのみならず實に帝國國力の充實發展上の重大問題である、從つて此方面に於いて我國が其地位を獲得せんが爲には出來得る限り商品の品位改良に努め苟くも粗製濫造品を出さず專ら廉價良質を旨とし以て海外市場に於ける信用の向上に努めねばならぬ。又之と同時に內にあつては製造業者貿易業者乃至銀行業者海運業者は心を一にして能く連絡と意思の疏通を圖り以て、商機の敏活を圖る事が最大急務である

立憲政治思想の普及發達
公民教育、地方中心人物の養成　青年團誘導都市研究會

內務大臣　床次竹次郎氏談



思ふに歐洲大戰は既に終局を告げて世は平和克復の狀態にあるのであるが今尚各國は戰後の不安狀態にあるのである。從つて我國民は外に對しては能く世界の大勢を洞察し內にあつては深く國情を察して其國步を誤らず其國力の充實を期す時である。我國は歐洲大戰の結果として名實共に一等國の班に列するに至つたのであつて其責務も到底從前の比ではないのである、從つて此の責務を果すにしても公明正大の主張を以て終始せねばならぬのである。而も東洋永遠の平和を保持し延いては世界平和の關鍵たらしむるは實に我帝國の責務であつて、我國民は能く此間の事情を諒察して遺憾なからしむるは實力が之に伴はねばならぬのである、而も此責任の遂行を期して今後に於ては其文化の向上を促進すると共に國民の一般的健全なる發達を圖り國力の充實を完ふせねばならぬのである而して政治思想の發達を期して憲政有終の美を濟すには其法制の整備と之が運用宜しきを得る事は固より必要な事ではあるが而も之が基礎となるものは前述せる如く立憲思想の普及發達にあるのである。而して此立憲思想の根本としては更に自治制度の完璧を必要とするのである。此點に就ても當局に於ては之が改善に向つて漸々其步を進めつゝある所であるが之が成の目的を一にし戶主會、自治會等の會合に於いては機會ある每に選擧或は自治に關する事項等に就いて講演又は研究をなし能く國民をして立憲思想の普及に努め國民をして自發的に其責任を知らしむる事

一、公民教育を盛ならしめて自治精神の普及涵養に努むる事

二、自治講習所其他適當の施設を實行して地方中心人物を養成する事

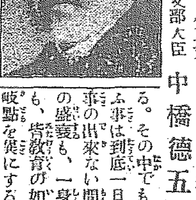
三、青年團體の自治自立を促し役員の選定及事務事業等の遂行を自治的にする事

四、自治の進步、發達に關係ある公私團體の活動を盛にし又都市にあつては都市行政研究會の團體を組織して大に活動する事

即ち之等は其の大綱を示したものに過ぎないが何れにするも國民をして開滿に進捗せしめ國力の充實發展を期して其國威の伸長を期すべき最大原動力は國民の健全なる政治思想の發達によつて之を惹起すべき活火力は國民の自覺と此活動とに基き活動であらねばならぬ、又此自覺と此活動を求め得るのみである、而も之が目的の達成は獨り當局の努力のみによる事は不可能であつて官民一致心を一にして之が目的の貫徹に努めねばならぬのである、予は國家の爲に國民が能く思ひを茲に致して立憲治下の國民としての實を示し以て國利民福の招來に資せられん事を切望して已まないものである。

戰後教育の要諦
澎湃たる外來思潮の誘導　國家盛衰の分岐點

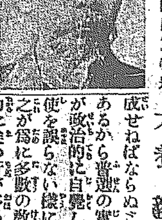
文部大臣　中橋德五郎氏談



現下我國の時局は世界の大勢より之を推斷するならば頗る多事多端で徒らに屠蘇の醉に前後を忘却して居る時ではない、國民として國家として解決せねばならぬ、重大問題は踵をついで吾々國民の眼前に展開されて居る。その中でも戰後の教育と云ふ事は到底一日も之を閑却する事の出來ない問題である。一國の盛衰も、一身一家の榮達立身も、皆教育の如何に依つて其分岐點を異にするのである。今や歐洲大戰亂の影響は我國の各方面に及び國民思想の上にも一大變化を見る事となつた。此外來思想を如何に善導利用するかが刻下の緊急問題で文教の府にある我輩は此點に多大の注意と努力とを拂つてるのである。青年子弟が血氣に逸り是非善惡の判別を正確ならしむる事能はず。一時の奇を好む結果其率ゐる所で惡風に染み易きは免れ難き所で爲政者教育者は勿論一般の父兄乃至監督者なる者は子弟を充分指導する事が必要である。我國には古來からの思想が有之によつて今日の文明をなし來つた事を忘れてはならぬ然し、日本思想と外來思想とは決して一致し難いとは限らぬ日本古來の思想が必ずしも時代遲れでないが如く外來思想必ずしも悉く危險であるとは限らぬ。要は吾の短を補ひ能く其の長所を採つて吾の短を三省し之を改むると共に彼の長所を採り能く其の調和融合の節度を得て時代に順應せしむる一大思潮となし以て其精華を發現す事を心掛くるのが肝要である。此の能力を養ふにはどうしても敎養によつて之を充分に充實せしむるの外はないのである、益其度を高むるのである而して吾輩の所で健全なる敎育の必要を說いて居るは精神的敎育と物質的文明の關係に就いて一の希望を有して居る何れの國を問はず、精神的物質的との兩方が相協調して發達し得るならば其の安泰隆昌を期するは云ふ迄もない、若し其一方に變調を來すならば社會に一大混亂を惹起するに至る事は勿論である從つて敎育の根幹を精神敎育の上に置き物質的文明の進步と併行を保たしめ人格の敎養によつて各國民が各其所に活動するやうにするならば社會の秩序は整然として亂る[illegible]べきであると思ふ。斯くしてこそ敎育の精華を充分に發揮せしめ得るのである、吾輩は此說を[illegible]すべき新春の初頭に於て國民一般に此の精神を服膺して其運用を誤らざる事を切望するのである。

政界革新の鍵は
教養ある青年の手に在り

國民黨總理　犬養毅氏談



世界交戰が齎した所の有形無形の變化は恐らく前古未曾有であつた我國も又此世界的波動外に超然たる事は出來ず今や全國民は現在の落伍制度其儘では滿足が出來ず世界の進運に隨伸して各方面の革新を要求するの聲が旺盛となりつゝあるのである我國今日の急務は政界の革新である而して此政界の大革新をなすには先づ第一步として國民が政治的に自發して現在の政黨の一大革新を圖るべく之が爲には彼の普選の實行をも期せねばならぬ勿論普通選擧を實行した所で空腹の時は飯を食つた樣に直に現實に效果が表はれて直に政界の革新は其第一步を普通選擧の實行に置かねばならぬ事は云ふ迄もない然し乍ら國民の參政權を擴張しても國民の多數が其權利の尊重すべき事を解せず之を活用善處する事がないならば何等の效果を齎す事もなく却て幾多の弊害を釀さ[illegible]成せねばならぬとも限らぬのであるから普選の實行と共に國民が政治的に自覺して其權利の行使を誤らない樣にせねばならぬ之が爲に多數の敎養ある青年の力に俟つ所が多い換言すれば選擧界に於ける玄人の力ではなく新しいもの、力に俟つ所が多いのである又現時の狀態に於て心を用ゆべきは目下の人心動搖である之は各階級の要求が達せらるべき希望と光明とを認め得るならば決して騷擾する事なく之を未然に防止する事を得るのである、而して其一方法としては前述の如く普選の遂行を主張するものであるが更に永久の方法としては敎育問題に重きを置き一般國民の敎育程度を向上せしめて政治的自覺を促すにあるのである而も此敎育費の財源としては稅制の根本的改革を以て之を補はしむる事が必要である斯の如くして我帝國として能く世界の大勢に順應し其國利民福の向上增進を期せんとせば各方面に向つて合理的にして且秩序ある一大革新を必要とするのであるから國民は此點に留意して充分に努力を吝まざらん事を望むのである

我輩の提唱する　不景氣風一掃の方策
國力充實のために貿易立國主義　我が貿易政策上の一大缺陷

大藏大臣　高橋是清子談

歐洲大戰の結果として獨り交戰國と云はず全世界を擧げて各方面に一大變革を來し就中交戰國の商工業機關は殆ど破壞の狀態に陷ッたのであるが各國は平和克復國際聯盟成立によつて將來再び斯の如き戰禍を見る事無かる可きを豫想し且各國の產業も必ず速かに恢復されるものと信じた樣である然るに國際聯盟提唱の發頭人たる米國は國民國家に超越した所の機關を設くる事は米國の主義主張に反するといふ見地から反對の聲が起り今日に至るも尚米國の聯盟參加を見ない次第で此國際聯盟による

世界永遠の平和を期待せる事も全然裏切られた形である

一方歐洲各國は戰後の經濟に對して着々努力の步を進めて居るけれ共恢復の度は纔かに遲々として進まない之の結果世界は擧げて不景氣風に打擊を蒙り不景氣風は世界各國を吹き捲くッて居る有樣で我國の如きも昨春三月以來の反動來の影響を受け今日尚財界の充分なる恢復を見ない次第である、而して今後此世界的の不景氣風を一掃するには種々なる手段方法を講ぜねばならぬ事である先づ第一に米國の力に俟たねばならぬ事がある米國は國際聯盟の示旨には反對ではあるが貿易の隆昌を期する事に就いては賛成する事勿論である之が爲には貿易立國主義を後に大いに發展を期せねばならぬのである然るに大戰の結果世界の富力一國に集中し、歐洲の各國は戰亂の爲に多大の打擊を受けて其購買力を著しく喪失したのである從ッて我國が之等の諸國に對して物品を販賣せんとするには相當の期間內は掛賣をなすの必要がある之をなすにはそれ丈の餘裕がなければ之れを充分ならしむる事は出來ない然るに米國は此の點に於いて他の歐洲諸國とは異つて購買力の點に於いて甚だ優越である從ッて我貿易の市場としては甚だ好市場と云はねばならぬ、然るに歐洲の各國は勿論此米國も又其國力の恢復上又は之が充實上競ッて今後は益々貿易の進展を以て其國是とし今後は狹小なる購買國に對して其市場を求むるの勢ひ列國の勢力が或る特定の市場に集中さるゝ樣な結果となるのである此時に際し我國も亦此の同一市場に於いて其貿易上の地步を占むる事に努むるの必要上當然の結果として此有力なる歐米の列强を向ふに廻して之と競爭をせねばならぬのであるが此場合に於ける我國民の努力は戰前

戰時に於けるそれの如く生やさしきものではなく之に數十倍せる激烈なる競爭

をなさねばならぬのである、從ッて此競爭に於いて我貿易上優越なる地步を占むるが爲には、實力なくしては到底其目的を達する事は出來ないのである。然るに我國の製造業者及貿易業者の狀勢を見るのに實に遺憾な餘りに乏しく排他的の精神に富み協同一致の傾向の乏しきは誠に遺憾に堪へざる次第である。かゝる狀態に於ては此世界的競爭裡に於て其資本に於いても其物資に於いても我に優るものゝ數多ある際に至ッては之に打勝つ事は出來ないのみでなく之は獨り我貿易政策上の一大缺陷たるのみでなく延いては國家の盛衰に關する大事である、從ッて此際製造業者は勿論貿易業者にあッても合同若しくは組合組織を獎勵し、以て其資本を豐富ならしめ其基礎を鞏固ならしめ以て其生產力の增大を圖り又品質の改善を計ると共に製造業者と貿易業者とをして其連絡を充分圓滿ならしめて互に有機的聯關を以て世界的市場に臨み以て其强敵に打勝ッの方策を講ぜねばならぬのである。之れ實に我國の刻下の急務なのである。若し斯の如くに統一ある節制ある團結の下に其目的に向ッて邁進するならば、我對外貿易の伸長は敢て難事ならず、從ッて我國力は爲に充實して待ッべく財界の不況の如きは幾ならずして恢復を見るべきは勿論である。

募集漢詩
課題『新年寄友』　高野竹隱選

一等　仁川　[illegible]

[illegible]

二等　[illegible]

[illegible]

三等　論山　金容學

[illegible]

酉年に渡らせらるゝ 王世子垠殿下
軍務、學問共に御精勵 妃殿下との御仲も睦じ

李王世子垠殿下には今年御年二十五歳にて恰度酉年に當らせらるので殿下の御近狀を偲びて御話申上げやう

專心御勉學

殿下には昨春陸軍大學入學試驗に優等の御成績を以て及第せられたので昨冬十二月初に於ける再試驗にも必ず優等及第の御決心を以て專心御勉學あらせられてゐた。然し近衞步兵第一聯隊の少隊長であらせらるゝこととて御繁忙なる聯隊勤務の餘暇を以て御勉學あらせらるゝことなれば其の御奮勵も一層のことで朝は毎朝早くから御起床あらせられて只管體育に心を致され聯隊御出勤後は營內に於て細心の御注意のもとに實地の御見學をなされ

演習等に際

しても自ら小隊長として小隊の用兵に心を用ひられてゐるが昨春以來は大部隊の用兵に就て御研究せられ昨秋十一月筑波山下に於ける二十日間の演習に際しては當初聯隊對抗演習の時は聯隊本部にて又旅團對抗に際しては旅團本部にて只管實地の御研究に心を碎かれてゐた。御歸邸後も亦青勉學の事に勵められて

寸暇も空し

く過ごさせらるゝこともなく妃殿下方子女王との御仲も極めて睦まじく常の日には兩殿下の趣味を同じうせらるゝ庭より或は御讀書のことに就て又は音樂の事等に就て共に打興じられ殿下の英語を御研究あらせらるゝ際に妃殿下には玉學習院教授に就て佛蘭西語を御勉強あらせられ夜等は殿下自ら御指南役とならせられて

妃殿下に

朝鮮語を御指導あらせられてゐるさうして瑞氣滿ち充ちたる鳥居坂御邸の春はいよいよ芽出度彌榮ゆまして李花の薫りは彌々高い

五百萬羽の鷄から
二億二千顆の卵を産む＝朝鮮農家の財源
飼育上斯くの如き改良の餘地あり

殖產局農務課 吉田雄次郎

酉年の初頭に當り朝鮮養鷄の發展を說くは、自分の義務であり、又責任であると信じ茲に一言を述べたいと思ふのである。即ち養鷄は農家の副業としては最も適當なもので、地面には餘裕あり飼料には米麥の秕、糠等の屑もあり、其他蔬菜等の屑を以て之れに充てれば、別に何物をも要せないので、些の失費なく手數も掛らぬと云ふ、至極簡單な事業であるから、世界各國到る處皆農家の副業として養鷄を遣つてゐるが、殊に朝鮮の如き古來鷄に經驗ある國には最も適當して居ると思ふ。而して各國共鷄卵肉の需用は年一年と增加し、之に對する養鷄業も漸次發達してゐる。然るに我朝鮮の現況はどうかと云ふに、同じく需要は年々多大の增加を示しつゝあるも其の增加に養鷄業の之に伴はないのは甚だ遺憾とする處である。

鷄卵肉の消費

現在朝鮮に於ける鷄の總數は四百九十九萬八千餘羽、產卵の數は總羽數の六〇パーセントを成鷄と見做し、成鷄の六〇パーセントを雌鷄と假定し、一ヶ年七十顆を生產するものとすれば一億二千三百八十一萬餘顆で、之を朝鮮農家二百六十六萬餘戶に配當すれば平均一戶に付一羽八分許り飼養して居る勘定である。而して鷄卵の消費高は前記產卵より孵化用卵約二千萬顆を引去り、殘りの一億千三百八十一萬顆と支那より輸入する生卵約七萬斤(大正九年一月より十一月までに朝鮮に輸移入せし生卵は五萬三千四百五十八斤、其の代金一萬五千二十圓なり)を合算したるものが即ち消費高であらう。夫れから鷄肉の消費高は一ヶ年內に孵化生成するものを八百五十一萬と見做し、之れだけは無論鷄肉としての消費高と認めらるゝが、此の數量を以て鷄肉の需要を充したものとは云はれない。現に鷄肉の高價なるを以ても之を證する事が出來る斯くの如く需用は增加すれども供給之に伴はざる觀あるは、結局養鷄業の發達せざるのではなからうか。

鷄卵肉の需用

國民生活の程度が增進するに從ひ卵肉需用の增加は免れない。現在朝鮮の鷄卵消費高を年の一億二千萬顆と見做し之を一顆四錢に見積れば四百八十萬圓、之れに鷄肉の消費數一羽七十錢と見積るときは五百九十五萬七千圓、即ち朝鮮內に於ける鷄卵肉の需用は一ヶ年間に一千萬圓以上に達するのである。而して最近の調査に依れば內地では人口一人に付一ヶ年間に二十顆餘の鷄卵を消費し、朝鮮では僅々七顆位の消費量である。然るに英國にては百顆乃至百三十顆も消費され我國よりは七、八倍乃至二十倍も多く消費して居るが。元來英國は自國の使用食糧品四分の三は他より輸入せしものなるが故に、先年の戰亂にては突然其の輸入を杜絕せしめられたがため、鷄に自國內の若い鳥を食用にする事を禁じ、デンマークに對して輸入を仰いだと云ふ仕末であつたが、

齋藤地方法院長試筆

鷄改良增殖法

歐米各國の鷄肉、鷄卵需要高は驚くべきものである。而して需用は年々大速力を以て增加して居るから、之に應ずる爲めには各國とも農家の副業として養鷄業の改良發達を圖つて居るのである。故に我朝鮮の農家も依然舊習に安じては居れないと思ふ。元來朝鮮で鷄を飼ふのは單に廢物の整理を給はせ、自家用にして之を飼ふが其の主義で、之を改良發達せしめて立派なる副業にせんとするの考へはなかつたのである。從つて之が經營の機關は絕無で、只世の需用に伴ひ婦女子が自ら市日に持出して賣却するか、仲買行商人の手を經て市場に出る位いで進步發達せないのも無理はない。然し今後は國勢の向上に伴ひ、生活程度が將來益增進すると同時に、鷄卵、肉の需要は非常な勢ひを以て增加して行くのであるから、朝鮮の農家も進んで改良增殖の方法を講じ之が供給を計るは勿論、上海卵を壓して朝鮮卵の內地移入を圖り、以て鷄林八道の卵名聲を發揚せねばならないではないか。即ち之が改良增殖の方法を一口に云へば左の三項となるのである。

(一)在來種鷄を改良種鷄に改むる事

(二)農家の鷄飼養數を增さしむる事

(三)鷄卵、肉を產業組合等の機關に依つて其の販路を廣むる事

卵の移出奬勵

前にも述べたる如く朝鮮農家の副業中、最も簡易なのは何と云ふても養鷄で、鷄を飼ひ卵を賣ると云ふが如き最も單純にして且つ効を收め易きものはない。而して內地の鷄卵消費高は、一ヶ年に生產せし十一億顆と支那上海より輸入せらるゝ六百五十餘萬斤(其の價額百八十萬餘圓)等であるが、若し我朝鮮から鷄卵を內地に移出するとすれば其の輸送運賃及輸送時間等有らゆる點に於て上海卵に優る事は言を俟たないのである。彼の巴爾幹の一隅ルーメニアが世界の產卵國として其の名高く、倫敦市に優新鮮良の卵を供給して居つたのは、同國の養鷄業が非常に盛であつて、しかも產業組合組織が頗る完全であつて、國內の卵は快速に整理荷造せられてボトウオロチエスカ停車場より特別列車で各國に輸送せられたからである。即ち朝鮮の養鷄家が茲に寄せ深く鑑むべき事ではないか。

懸賞俳句
新年雜詠 內藤鳴雪選

一等 正月は皆鶯の心かな 大邱 小林眞三

二等 八道の山宵々と初日影 京城 寺田沈默子

三等 八十の我健にして初鶯かな 平壤 小牧細月

秀逸

元朝の捨立てさせて馬上哉 大田 松本十亭

やむなくば此の藥來と踏ればや 平壤 近藤晚江

井開きの柱の齒朶や雪明り 仁川 丁藤想仙

初子の日千代の古道辿るなり 平壤 吉田克三

若水を銀の甕に湛へばや 德島市 大谷

元日の女は小さき顏ひかな 京城 竹內ちよ

松立てゝめでたき右京左京哉 全南麗水 河野榮一

大原や小路を京へ初若菜 京城 小谷津芳樓

御降りや松の庵の這入口 全南麗水 河野嵬二樓

居もよく物食む音や御代の春 撫順 日高秋峯

三千の威儀嚴かや君が春 龍山 十八公

よき衣に曉寒し初詣 釜山 岩男しづか

萬歲や習ぶくれし背の老大夫 京城 茂呂

初明り鷄鳴く鳥の見に來る 井邑 上原香楓

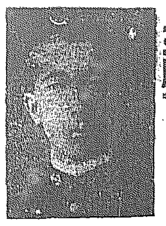
初鷄も聞かずに酒徒の朝哉 晉州 鎌倉風帶子

朝月や若水井戸の底深し 鎭海 吉村飛洲

酉年の宮樣

久邇宮邦彥王殿下

(明治六年七月御誕生)故一品朝彥親王の第三王子にましまし、明治六年七月二十三日御誕生あらせらる。御幼名を彥と申し、明治十九年邦彥王と名を改められ、翌二十年三月久邇宮を御相續あらせられたり。殿下御幼年御當時は京都に於て御成長遊ばされ、初め今出川の平安義黌に學ばせられ、次いで京都府立中學校に進み給ひ、同校卒業の後二十三年四月御上京遊ばされ成城學校に御入學廿六年卒業の上、同年士官候補生として第三師團第六聯隊第九中隊に御入營相成り三十年一月陸軍步兵少尉に任ぜられ爾來累進あらせられ現に陸軍中將大勳位功四級近衞師團長の職に就かせらる



伏見宮博義王殿下

(明治三十年十二月御誕生)勳一等大勳位海軍中將伏見宮博恭王の第一王子に在しく明治三十年十二月八日を以て御誕生あらせられ、現に海軍少尉の職に就かせらる。殿下には一昨大正八年十二月二十三日一條公爵の第三女朝子姬と御結婚の式を擧げさせ給へり

竹田宮恒德王殿下

(明治四十二年三月御誕生)故大勳位恒久王の第一王子にましく明治四十二年三月四日を以て御誕生あらせらる、御母は明治天皇第六皇女昌子內親王なり

酉年の名流

男爵 大倉喜八郎氏

(天保八年生八十五歲)大倉男が當代實業界の巨頭として居る事は何人も知らぬ者は無い、今更履歷の紹介にも及ばぬと思ふが、特に記したいと思ふのは、男が普通の實業家と聊か毛色を異にし、時に感ずる事あれば必ず狂歌となつて現はれる事である。利殖に掛けては拔目のない算盤から割出された頭腦の中に諧謔趣味の三十一文字が續々として餘裕の座を占めて居るのは頗る面白く感ぜられる。

子爵 牧野伸顯氏

(文久元年生六十一歲)東京に生れ大久保利通卿の次男なり英國留學、外務省三等書記生、大政官權少書記官、參事院議官補、法制局參事官、內閣記錄局長、官報局長、首相秘書官、兵庫縣大書記官、福井、茨城兩縣知事、伊墺兩國公使、文部、農商務、外務各省大臣、平和會議全權委員を歷任現に宮內大臣也

侯爵 井上勝之助氏

(文久元年生六十一歲)山口縣に生れ歐米留學後駐英大使館參事官、外務省書記官、駐獨公使、駐英大使等に歷任

子爵 平田東助氏

米澤に生れ大學南校大舍長、大政官書記官、樞密院書記官長、樞密顧問官、農商務、內務兩大臣に歷任、現に宮內省御用掛、貴族院議員にして法學博士の稱號あり

三井八郎次郎男

(嘉永二年生七十三歲)高保、八郎右衛門、養之助、源右衛門、元之助、得右衛門、守之助と三井一門の實業家として代表的に知られて居る者はあるが就中八郎次郎男は最も高齡者として同族一門中に推服されて居る、男は故高福氏の四男で古くから第一銀行の取締役として實業界に知られて居る、男は同銀行の外に三井の各會社の業務執行に關して仰がれて居る、若し夫れ過去の經歷に至つては第三第四の內國勸業博覽會の審查官、臨時全國寶物調查局監查掛其他に公職を歷、明治四十四年に男爵に敍せられたのである、其の照子夫人は主殿頭侯爵伊達宗陳氏の叔母に當り琴瑟和合して多くの子女を有して居る。

陸軍大將 宇都宮太郎氏

(文久元年生六十一歲)佐賀縣に生れ陸軍大學出身參謀本部員、在英大使館附武官、陸軍大學校教官、第十師團長、朝鮮軍司令官等に歷任

代議士 河野廣中氏

(嘉永二年生七十三歲)福島縣に生れ戊辰の役の勤王黨なり初期以來代議士に當選、自由黨、政本黨、國民黨、同志會等の領袖に歷任し第十九議會に議長に當選し奉答文に桂內閣を彈劾し日露講和條約反對の急先鋒たり大隈內閣に農商相に任じ現に憲政會の領袖たり

富士瓦斯紡績社長 和田豐治氏

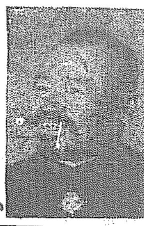
(文久元年生六十一歲)一千八百萬圓と云ふ大資本を擁する富士瓦斯紡績會社の社長として夙に實業界に名を馳せて居る和田豐治氏が平生の經歷は多くの後進に學ぶべきものがある、氏は豐後中津の人で郷里を同じうする福澤翁が三田の慶應義塾に學び明治十七年に卒業して[illegible]米國に遊學した、歸國後直ちに職工と爲つて[illegible]、其後中上川彥次郎の知遇を得て鐘ヶ淵紡績會社に入り[illegible]紳士であつた、歸國富士瓦斯紡の社運甚だ振はず[illegible](へ森村、日比谷の二氏の勸誘に感じて決然起つて同社に入り鋭意全力を傾けて經營し三十九年東京瓦斯紡と合併し資本を增し錘數を加へ躍然たる一大會社と爲し富士瓦斯紡績會社の今日の隆盛を見るに至つたのである、年齡還曆に達した氏は今や實業界の元老として後進者崇仰の的となつてゐるのも偶然ではない

法學博士 美濃部達吉氏

(明治六年生四十九歲)東京帝國大學の教授として行政法を講じ其の明晰なる頭腦、該博なる學識は殆んど天下獨步と稱せらる美濃部博士は兵庫縣の出身前北海拓殖銀行頭取鮮銀總裁美濃部俊吉氏の弟である明治卅年帝大を出てから比較法制度研究の爲め獨、佛、英の三國に留學を命ぜられ歸朝後帝大法科の教授に任ぜられ兼ねて高等商業學校の教授となりて憲法及行政法を講じ今尚其職に在る博士が當時の學說に反して憲法學の議論に當時の學界に注意を與へた事は今尚ほ世人の記憶する所である。

女流作家 伊藤燁子夫人

(明治十八年生三十七歲)現代女流作家として殊に詩人として盛名ある燁子女史は柳原義光伯の妹で嘗て九州の石炭業者として富豪の聞へある伊藤傳右衛門氏に嫁し今は實業家の夫人であるが女史は幼より文藻に多大の嗜好を有し華族女學校卒業後佐々木博士の竹柏會に入り秀詠傑作尠なからず其公にした歌集として『踏繪』『幻の華』及詩集として『白蓮』『几帳のかげ』などである殊に脚本『指鬘外道』を著して讀書界の青年男女に讀まれて居る女史は最近年女子社界を賑はした。



海軍大將 加藤定吉氏

(文久元年生六十一歲)東京府生れ海軍兵學校出身、日露戰役には橋立、春日兩艦長、出雲、鹿島兩艦長、海軍省人事局員、舞鶴鎭守府參謀長、佐世保、横須賀兩海軍工廠長、練習艦隊司令官、第二艦隊司令長官、教育本部長、吳鎭守府司令長官等歷任日獨戰役に功有り

俳優 尾上菊五郎氏

(明治十八年生三十七歲)一代の名優と言はれし五代目菊五郎の實子と生れ幼名を丑之助と呼ばれしが四、五歲の頃から早くも既に舞臺の人となつた明治三十六年父歿して後其年襲名して六代目菊五郎と名乘り今や我劇壇の五郎に扮し瓜の蔓に茄子は生らぬ好評を博した[illegible]性格の一端を[illegible]して其技藝は益々精進し其十八番とする所は先代と同じく世話物に妙腕を揮ひて今や歌舞伎劇界の第一流として名聲嘖々。

法學博士 江木翼氏

(明治六年生四十九歲)憲政會內閣崩壞の後け頭領に立ちて唯だ貴族院議員として議席を有する外憲政會の顧問として政界の風雲を觀望の位置に立つて居る江木博士が胸中には定めし現內閣の政績に慊焉なるものがあるであらう若し夫れ政變一と度循環して局面憲政の舞臺に展開する時機あらんには曾て時めいた內閣書記官どころは言ふ迄も無からうか、[illegible]將來のことは隱忍何時まで必要するか博士が敏腕を揮ふの舞臺は果して何時廻り來るであらうか

畫家 川合玉堂氏

(明治六年生四十九歲)帝室技藝員として兼ては帝展審查員として現代日本畫家の一流階級と稱せらるゝ川合玉堂氏が作品の優麗物靜山水を描いても路があれば人が步行し流があれば舟が泛んで居ると云ふ周到な者もせぬ點に氏の性格の一端を窺はれる、殊に氏は先代の四條派を究めて更に雅邦の古人の畫風を味ひ斯くして遂に氏獨特の一新機軸を出したのであつて其出世作の『二十日月』は今に畫壇の傑作として傳へられて居る氏は又門生を導くこと誠實熱心で秀才も尠からず輩出して居るが就中山內多門の如きは最も出色の一である。

海軍大臣 加藤友三郎氏

(文久元年生六十一歲)廣島縣に生れ海軍兵學校出身、日露戰役に上村及び聯合艦隊參謀長、海軍兵學校教授海軍次官、吳軍鎭守府司令長官、第一艦隊司令長官等に歷任

閨秀畫家 荒木月畝氏

(明治六年生四十九年)故帝室技藝員であつた荒木寬畝翁の[illegible]本名を荒木末と稱し幼少より南北の畫法を研究し夙に翁の門に入り[illegible]日本美術協會等に出品して[illegible]

理學博士 石川千代松氏

(文久元年生六十一歲)東京に生れ獨逸に留學し現に東京帝國大學農科教授にして帝國學士院會員也

賀正 京城永樂町一丁目三十三番地 住友林業詰所

賀正 鮎貝房之進

賀正 早川商會 早川利正 京城南大門通五丁目六十三番地 電話二七六四番

賀正 京城府明治町 小林藤右衛門

賀正 獨逸國ユールデンゲン市 ウアイテーテルメーア化學品製造會社 染料朝鮮一手販賣所 德國顏料廠 朝鮮京城府 電話長一二一番

賀正 京城旭町一ノ三〇 日之丸水產株式會社 電話長一〇八一番

賀正 京城南大門通三ノ一〇九 株式會社ホーン商會 電話一八二六番

賀正 京城黃金町一丁目一七 日華木材株式會社 電話一〇六六番

賀正 石原磯次郎 電話(龍山)八〇〇番

賀正 專賣特許 宮崎式ペーチカ 京城府龍山停車場 宮崎組 宮崎吉太郎 電話八四二番

賀正 陣內茂吉 龍山漢江通十一番地 電話長一四七番

賀正 貿易商 三好和商店 朝鮮京城府南大門通五丁目 電話長 五一三/五四三 番

賀正 京城府南大門通五ノ一七 安川松本商店京城支店 電話長二六六番

賀正 京城旭町一丁目 齋藤齒科醫院 電話一四一四番

賀正 三中井吳服店 京城本町一丁目 電話三十七番

賀正 石炭商 近藤謙助商店 滿鐵撫順炭特約販賣所 官營撫炭特約販賣所 朝鮮京城府義州通一丁目 電話八三五番

賀正 橫山隆一支店 朝鮮京城本町一丁目四十八番地 西洋家具並金庫火消器 室內裝飾品・毛織物類 電話長一六七番

賀正 大首票詳傘 便票果メリヤス 特約販賣元 朝鮮京城府南大門通一丁目 ㋑泉屋號 吉田卯之助 電話營業八六番 振替京城九四番 電信略號(イ)

小說

奇遇

江見水蔭

（一）

神聖な元旦を明治神宮の大前に額いて、國運の隆盛を祈り次ぎに一家の安泰を願ひ而て一年生活の第一日を更に／＼清く嚴肅ならしめる目的を以て未だ暗い間から參詣道を行く者が次ぎから次ぎと打續いて殆ど鎭座式御當日の盛觀にも劣らぬ程の人の出方、其の砂利を踏む數萬の人の足音は一種の音律を成して恐れ多くも大神の御耳根に奉達するかに思はれた、此中に民子は混つてゐて神宮橋附近を進んでゐた。

實に難有い事だと考へつゝ歩いた、此人々の大神に對する清い／＼心こそ日本國の誇であると氣が著くとまだ神前に達せぬ前から知らず／＼頭が下がるのである、民子は年末に田舍から出て東京の叔母の家に入つた、然うして市中を各方面に案内された。月並の行方ではあるが二重橋、日比谷、上野、淺草、銀座、或は三越、白木、或は帝劇、歌舞伎、いろ／＼見物さして貰つた、建築の壯麗、裝飾の華美、見る物皆目を驚かさぬは無かつたけれど上京第一の目的は實に此明治神宮の參拜なのであつた。

『元日の朝早くお參りして來なさい、然うして幸野一家を代表して、神前に玉串を捧げて來るが好い、殘念ながら、私はお詣りが出來ないのだからな』中氣で體の不自由な父が臥ながらそれを言渡したので有つた。それ故上京すると直にも參拜したかつたのを此元旦まで延ばしてゐたのである、父は日露戰爭にも出た、但しそれは後備兵の一人としてで有つた、軍曹に成つて無事に凱旋して其後は農事に一身をゆだねてゐた。

『幸野の家は代々大御寶である卽ち百姓である、併し、私は一度軍人として御奉公をした、舉國皆兵の其實を擧したのだ』父の誇は是なので有つた。

然るに兄の武之助は去年の春から行方知れずに成つて了ッた此事を兩親はどの位心配してゐるか知れないのだ、それを民子は不圖思出した、兄の武之助は他の青年團員と共に神宮御造營の際内苑の土工の勞力を奉獻して勇んで鍬を取つた一人で有つた其上京の儘行方が分からなくなつてしまつたのである、他の青年團員は恐く歸村したのだけれど、武之助一人が何處へやら行つて故郷へは歸つて來なかつた。

『どうも私の考へでは、武之助さんは都會生活に憧憬して踏留まッたのでは無いかと思ふのです、私はどうも然うらしく考へて居ります』と最も武之助と親しかッた一青年は云ッた、これが如何も事實らしい、民子は今斯うして神苑に入ッてゐると兄其人に逢ふ事は出來なくても何處かに兄が眞心を籠めた、鍬の先の力が遺ッてゐる筈だと考へて、神聖な御苑内にも非常な懷しみを覺ゑずには居られなかッた。

（二）

御手洗の近くまで來た時には初日の出に近くそろ／＼人の顔が見分けられる樣に成ッた、我を先に爭ッて柄杓を取るなんどそんな淺猿しい事をする人は、一人も無かッた、これ丈でも民子には神聖に感じられた、靈域に入ると自然と人心が善良に化するのだらうと思ッた。

口を漱ぎ手を洗ひ、それからいよ／＼神々しき廣前に出で恙なく神前に參拜する事を得て、幸野一家の眞心を御玉串と共に捧げ終ッた、幣は父が不自由な手で剪ッたのである、榊の小枝は叔母の庭から持ッて來たのである、此れで漸く今回上京の責任を盡したと思ふと肩が輕くなッた樣に思はれた、然うして此樣に神々しい新年の迎へ方はないとさへ考へられた。

北參道の方へ向て歸り掛つた途中で此方からの參拜者とすれ違ふ事は勿論である、其多數の人の中から特に鮮明に見出された一人がある、それは若い紳士風の人であつた。

唯それだけでは無かつた意外にもそれは行方不明で有つた兄の武之助であつた。

『兄さん！』

『お、民子！』双方から走り寄つた、堅く／＼握手は交された

『まあ兄さん何うしたのです』民子の眼には早や嬉涙が輝いた

『民さん、濟まなかつた！、併し安心してお呉れ、非常に好い都合なんだ』と武之助は云つた

『いくら好い都合でゐらつしやつても家へお便りが無いのでは困りますわ、阿父樣や阿母樣がどんなに心配してゐらつしやるでせう』と怨みを並べずにはゐられなかつた。

『いや民さん、今朝の參拜を濟ましたらそれから直ぐと故郷へ歸る心算でゐたんだよ、如何しても僕は今朝明治神宮へ參拜しなければ成らない譯があるんだからね、其話を今しては居られない、兎に角お詣りをして來やう民さんも、今一度僕と一緒にお詣りに行つて呉れないか』と武之助は言出した『それでは詣りませう』

民子は兄と共に二度目の參拜に向つた、其途々兄の立派な姿を見るにつけて民子は疑はずにはゐられなかつた、僅か一年足らずの間に斯んなに立派な姿の出來る程成功するといふにはどうしたのであらうか。

（三）

兄妹揃つて參拜して、それから原宿の停車場に出た。

『まア兄さん、今まで如何してゐたのです』と民子は問掛た。

『や、實に何とも早申譯が無かつたよ、全く僕が惡かつたのでね、實は東京へ出て、神宮の工事に奉仕してゐる間に空中へ飛行機の現れるのを度々見てね、此からの男子の事業として、空中の任務に就くのは最も男子だと考へてね』と武之助は語り出した

『まあ飛行機？』『だが僕が飛行家に成るなんて云ひ出して御覽、お父樣は許して下さつても迚もお母樣は承諾して下さらない、それは僕には能く分つてゐるんでね、それで濟まぬ事とは知りながら青年團を脫して唯一人東京へ踏み留まつたのだよ』

『でも學資がなかつたでせう』

『だから僕は苦學したよ、夕刊賣もやつたよ、牛乳配達もしたよ、然うしてあらゆる艱難と闘つてゐる間に去年の十一月一日と成つたのだ、僕は是非明治神宮へ參拜しなければならないと思つて未だ暗い間から出掛けたのだ、大變な群集だつたといふでは有りませんか』『や、それは物凄い人出なんだ、怪我人も出た位で……話は之からなんだよ……民さん、運といふものは何處で來るか分らないもので、其大群集の中で危く踏み潰されやうとした少年が有つたのだ、や、それを助けたいとは思つたのだけれど、如何して／＼自分の身が自分でどうする事も出來ない上げた手は上げた切り下げた手は下げた切りなんだからね……それが併し運だね、押されて／＼て少しの隙間が出來たので、突然僕は其仆れた少年を引ッ攫んで高々と差上げたのだ殆ど奇蹟だね、そんな事が、あの群集の中で出來る譯は無かつたのだが……然うして僕は救つたのだ』

『まあ、能く救つてお上げなすつたわね……』

『其少年が誰だと思ふ、光山伯爵の令息だつたのさ』『ねつ、光山伯爵！』

『當日は群集で危險だから參拜は後日にといふ御言ひ渡しがあつたのだらうが、令息はお友達に誘はれて無斷で行かれたので……それを僕が救つたものだから、非常に喜ばれてね、それが縁となつて、光山邸に入つてそれから自動車の運轉手の見習ひといふ樣な事をしてゐる間に、僕が飛行家志願といふ事が伯爵のお耳に入つて然ういふ事ならその心算で勉強さしてやる、日本で飛行學校に入るのもいゝだらうが、それよりも佛蘭西あたりの飛行學校を卒業した方が好いであらうから洋行費其他は出してやると仰しやつて下すつたので……』

『まあ本當ですか兄さん！』民子は喜びの聲を發せずには居られなかつた。

『實に夢ではないかと疑はずにはゐられなかつたよ』と武之助は今も其時の伯の聲を耳底に浮かべて喜びの輝きを胸に躍らした。

斯うした奇遇が明治神宮の社頭であつた、武之助が御禮參りの飛行を代々木の原に試みるのはいづれ二三年の後であらう！

謹賀新年

營業科目 豆粕製造 豆油製造 特産物賣買 精白米卸小賣
大連市東濱町 ㊥ 齋藤油房 電話長六二九・二二番
店主 齋藤久太郎

營業科目 大豆、豆粕、豆油製造及輸出
大連市東濱町 小寺洋行大連製油所 電話一三八九番・一六八〇番 二七〇二番・二七六八番
店主 小寺壯吉

安東縣江岸通 海産物商 伊佐奈商會支店 電話一二〇番

鴨綠江製材無限公司
安東縣大和橋通 電話長四五〇番（事務所）四一一番（工場）
振替貯金 大阪 六〇六番 大連 一二六九四番 二一二三番

朝鮮新義州 ㊇ 朝鮮材木株式會社
電話二四五（庶務）八（チ）ヽ八（チ）
振替口座京城四七三〇番
製材工場 新義州鴨川町 電話六二番
安東縣 店 京城黃金町三丁目 電話二四六四番
出張所 義州郡北下洞江岸 電話北下洞三六番

滿鮮坑木株式會社 安東縣六道溝 電話六一、三六、〇〇番

富田儀作

大連汽船株式會社安東縣出張所
安東縣財神廟街 電話二一二番
安東倉庫 安東縣江岸通五丁目 電話三六〇番
新義州倉庫 新義州濱町 電話二五七番

京城本町三丁目 金物商 近藤安吉商店 電話一五六六番

和洋金物商 佐藤半次郎 京城本町三丁目 長電話一四三番

漆器製造販賣業 天甚權兵衛
本店 石川縣能登國輪島町 天神屋號 振替東京一六二一七
支店 福岡市上小山町三一電車通り 天甚支店 振替福岡一二〇二〇

熊野商會 材木商 店主 松本豐作
本店 朝鮮京城古市町十四番地 電話光化門一二八二番 振替口座京城一三八五番
出張所 新義州濱町一二一番地 電話新義州一番

通川炭鑛

中島京城支店 京城長谷川町 電話長四九六番

和洋文房具 測量製圖器 活版石版印刷 和洋帳簿製本
合資會社 町田商店 京城府本町二丁目 電話二〇九・一七五番 振替京城一〇四番

京城大漢門前 朝鮮總督府官報並諸新聞賣捌 合名會社 盛文堂 電話四一六番
龍山驛前 盛文堂支店 電話四一四番

株式會社 新義州銀行 平北新義州 電話五〇番

活版印刷 帳簿製造 石版印刷 材料販賣
株式會社 安東印刷所 安東縣四番通 電話一五四番

安東商事信託株式會社 安東縣四番通七丁目 電話三四四番 電話三五八番

木材商 宏泰號 安東縣五番通二丁目 電話二八四番

南滿洲製材公司 安東縣六道溝 電話八四番

鑛業特産物商 和盛公司 大連市松山臺 電話長一一八・一七八・二二八番 店主 石本鏆太郎

營 品質良好 價格低廉 期限確實 寸法正確
安くて美しい 營林廠の木材 廠
新義州 朝鮮總督府營林廠

鴨綠江採木公司
電話二一番（受付）五九番（秘書課）一一六番（事務室）三七二番（同上）一七五番（總務課）一四五番（貯木所）二六五番（漂流木整理局）

京城電氣株式會社

東亞煙草株式會社

謹賀新年

大邱府東雲町
大興電氣株式會社
電話四六二番
同 八四八番

京城南大門 松前商店京城出張所
釜山本町 松前商店釜山出張所
金泉本町 松前商店金泉出張所
大邱 松前商店
大邱本町 松前商店保險部
大邱驛前 松前商店倉庫部
大邱本町 松前商店金融部

資本金 三百萬圓
拂込資本金 二百五十萬圓
諸積立金 四十四萬五千圓
大連市軍用地二區二號地
大連取引所信託株式會社
電話代表番號五二二〇番
受信略號トリヒキシンタク

釜山本店 電話二五番二六番
朝鮮皮革株式會社
京城南大門通 電話一〇八二番
朝鮮皮革株式會社販賣店

京城土木建築業
間組
西本組
北陸土木會社
堀内組
鹿島組
松本組
荒井組
阿川組
秋山組
志岐組
合資會社清水組
盛陽社

大邱元町
株式會社 大正商會

株式會社大邱銀行
株式會社慶尚共立銀行
株式會社鮮南銀行
朝鮮銀行大邱支店
殖産銀行大邱支店
漢城銀行大邱支店
東洋拓殖會社大邱支店

奉天
滿蒙毛織株式會社

大邱府元町
伊藤呉服店

大連市大山通
株式會社 遼東銀行
頭取 武田愛次

朝鮮殖産銀行

京城旭町一丁目
御料理 **千代本**
電話 長一二三五 二二七五番

大連市大山通
株式會社 大連株式商品取引所
門田新松

京城印刷業組合

大邱穀物賣買組合

教育圖書出版業、理化學器械類
理化學實驗用藥品、生理博物標本模型
學校用器具製造販賣、教育雜誌學園發行所
帝國大學御用達
東京山越工作所代理店
福岡椎橋工作所代理店
中田普成社
京城府長谷川町百五番地
電話一九四八番
振替京城四六二七番

京城本町三丁目
御料理 **花月**
電話 三五〇七番

京城日報

其の二

金融界の前途

日本銀行理事 井上準之助氏談

金融梗塞の所因

昨春以來の金融の梗塞を見たるは過度の營業、過度の投機の結果こ言ふべし蓋し歐洲大戰以來我が財界の好況なるや物資の需要増進し物價の騰貴甚しくして生産の擴張物資の買占投機思惑等盛に行はれ恐く巨利を加ふる爲め資力を擧げて之に投じ殊に一昨年の後半より昨年の春に亘りては投機熱の絶頂に達し徒らに資力を抱いて死藏するは愚者ご看做され資力信用の限りを盡して商品に有價證券に全部之を化したる爲め最早信用の餘力なく茲に消化力涸渇するや流石に常斷を導じたる機關も俄然行詰りて資金運用及ち之が所有者は忽ち償用減縮し處分の途は杜絶して空しく巨額の滯貨を抱きて資金回收の策を失ひ然ひ銀行家の警戒こなり金融梗塞ごなれるなり

金融救濟策

されば金融の梗塞は或る意味に於て營業者が自業自得のおりたるも之が爲めに恐慌を惹起し健實なる事業家等の共に倒壞するに至らば由々敷大なるを以て救濟策を講ずる要あり然も漫然資金の融通をなすは却て弊害ある方面へ用ひられ必要なる方面に普及するを得ざるを恐る救濟の爲めなる以上梗塞の原因をなす滯貨の處分を根本こす即ち生産業者には製造を短縮すべく取引業者は捌き方を考究すべきを慫慂しその方策の立たる所に融通の途を開け同時に甚不穩なる銀行の破綻を見んか時機に恐慌を加ふるを恐れ支那準備資金爲替資金及び市場金融の緩和に努めたる爲め之を日露戰後の反動に比すれば銀行の破綻極めて少く財界の動搖をして割合に甚大ならしめず日本興業銀行を通ずる政府の事業資金融通こ相俟つて大に梗塞を緩和され今や漸く安定に歸するを得たるは喜ぶべし

金融の前途

即ち今や使用資金は大に回收され銀行の手許も潤澤を加へたるが尚ほ之を以て恢復期に入りたるものこは見るを得ず蓋し今日資金需要の減退は事業不振取引減少の爲めこ一は銀行の警戒の爲めにして更に今後に於て事業緊縮に依る失職者の増加農民の窮乏及び世界的財界の不安なる時は更に物價は低落して取引の減[illegible]する[illegible]に於ては資金の需要も未だ大に起らざるべし然しながら斯くの如き不景氣を座して待つこさを屑しこせざれば須らく海外に捌口を擴張して事業の縮小取引の減退を防遏する手段に出でざるべからず斯くの如くにして事業家の心機一轉し積極的輸出貿易運動に出づるに於ては相當長期資金の需要も起るべく銀行家は充分之に備へて協力援助するを要す

金融機關の整備

斯くの如く見る時は若し財界の不振を加へんこする場合は之を既倒に回らす爲め若し財界の繼服發展を加へんこする場合は之に策應する爲め共に金融機關の完備を緊要こするもの少からずその第一は資力の充實なり資力薄弱なる時は恐慌に際しては維持耐久力乏しくして遂に破綻を招くせんか基本機關の動搖に依り經濟界の恐慌は一層激甚を加ふべく活況に際しては大資本の需要に對し融通に應ずるを得ず事業及び取引の發展に資すを得ず然るに我が金融機關は最近合同の傾向あるも尚ほ多數小銀行の分立する狀況にて經濟界の發展して殆ご面目を一新せし際の動搖に際しても充分機能を發揮するを得ざりしは實に此の缺陷に因らずんばあらず[illegible]銀行の合同は實に刻下の急務こすべく且合同の方法たる[illegible]を考慮する地方に[illegible]むるを忘却する[illegible]

金融方法の[illegible]

その第二は一人一行主義なり從來我が銀行ご取引者ごは未だ充分なる了解を有さざる弊あり其の結果銀行は專ら擔保を目的ごして融通しその人こその事業こを顧みざる故資金は必ずしも有效に投資されず一度擔保の價落ある時は直に追徵ずるを要し經濟界の動搖をして愈激成するこ同時に追徵困難なる時は忽ち銀行の損失こなり自ら破綻を招く弊あり又取引者は有望なる如何なる事業を有するも擔保を有さざる時は金融の途を失ひその[illegible]

梅ト鴛鴦 心畝 金彰桓君筆

財界 人物の新陳代謝

朝鮮銀行＝朝鮮郵船＝漢城銀行＝東拓支店＝三井物産＝韓一銀行＝朝鮮實業銀行＝第一銀行＝殖産銀行

▲時代の進運は瞬々乎ごして止まない從つてその時代を遣る人物の變移を見るも當然である又官界に財界に將た敎育界に宗教界に――記者は大正十年初頭の本紙上に於て京城財界に於ける人物變遷の一斑を覗る事ごした、その人物の新陳代謝は大正九年中の事實に探る、蓋し事業は人によつて動く前年中に於ける人物の變遷移動により十年の京城財界が如何に動いて行くかをおぼろげ乍らでも知りたいからである

▲――ご云つて京城財界の全部に向つて筆を進むる事は紙面の都合ご筆者の多忙が許さない乃ち主なる方面の主なる人物のみに留める範圍は此位にして直ちに本文に入るが總して前年に於ける京城財界の人物異動は新出老退の形を成してる爲一之が反對に行き老出新退こでもなつたら財界の大正十年以降が案じらるけれごマア／＼そんなものでもない

▲初に鮮銀に於ける鮮銀では理事に吉田總務部長ご掛井大阪支店長ごが昇任した共に同行の生え拔きで兩君の進路を拓くために三島太郎君は退任し木村雄次君は近き新理事兩名を出すために止したのでなく三島木村兩君の退任勇鬪ありしため兩君の新任こなつたご云つた方が當つてゐやう

▲鮮銀ご云へば久しく三島木村の兩君を連想させた夫れ程兩君は鮮銀の人ごして古い關係をもつてゐるのである夫に鮮銀の前身たる一銀時代から鮮銀にゐた人で鮮銀理事たる事正に十餘年鮮銀のために少からぬ功勞は[illegible]

ご云つてよからう三島木村の兩君は共に同行では人物ある共に細心周密の人ごして所有者である[illegible]頭ご腕ご手腕を有し掛井君に[illegible]い[illegible]吉田掛井を得た事は同行にやつて必らずしも損失であるまいご云つて行務の中心こ稱せらい[illegible]の資行共に前行の計畫の立案行務れてゐる太田片山の二先任理事に比するも何の遜色もない唯何程か艶を消す事ごその鋭さを稍かす必要はあるであらう

▲新調査部長の提醫三君は勝田前總裁の乾兒だが人物も好いご云ふ文書部長の松田義雄君總務部調査課長の宗像球夫君經理部長武安福男君の如き同行新人物ごして將來はある方だらう八年末でイヤ九年ト半まで鮮銀の本店に人物少しこの評ありしが

＝鷄＝ 伊藤若仲畫

であるがもう／＼いくらか古い氣がせぬでもないのであつたのである

▲吉田君は三十九年三十八年の東大出身[illegible]

▲朝鮮郵船の取締役には石田營業課長ご川田文書部長が引上げられた漢城銀行の取締役には支配人の韓翼教君ご總務課長張弘植君の昇任こなつた何れも重役當選前の職務を當選後も掌つてゐる所に共通點を見る之等四君の重役昇任は必ずしも朝郵なり漢銀なりの空氣を一新し業態を變化させるものこは云ひ得ざるも社員登庸の途を拓きたるは好い事である

▲東拓支店は職制改正の結果小さくなつた松平君ご鈴木君ごが更はつたご云ふこ或は語弊もあるが少なくも京城に於ける東拓代表者は更任してゐる乃ち松平子ご鈴木君ご老退新出である

▲鈴木一來君は[illegible]

▲三井物産も穀肥部を廢止し綿布部を東洋棉花に移したから營業は餘程小さいものこなつて來た住井君の人物材幹は筆者も未だ知らぬが細心周密の人らしい支店長の格も落したのではないかこ、思はるゝ三井の如き有力な筋が朝鮮より漸次手を引く傾向あるは遺憾である筆者は住井君の現制に於ける最大限度の活動を求めたい

▲韓一銀行も京城協業會社この合併成立ご共にその如く頭取の交迭を見た子爵閔泳徽老は退しその長男閔大植君が父老に代つたのである前頭取は退任の際六十九歲――今年七十歲の高齡新頭取は卅代の若手である韓一銀行は純鮮人の經營に成る銀行の[illegible]

▲新支店長の[illegible]君は卅八年の東大出で青木鮮銀理事等の同掛井鮮銀[illegible]の同期だ素朴敦厚[illegible]ぬ男らしい點を有つてゐる本店でも相當重んぜられてゐるご云ふがごうも一銀のやうに重役の異動の少ない所では上が閊へて進路は鈍り氣味である君も其點を寧ろ避遁こしてゐるか否か然し京城支店長は同行でも好い地位だご云ふから自棄自棄になるがものもなからう

▲殖産銀行も首腦部に新陳代謝を見た有賀新頭取の故三島太郎君に[illegible]つた如き石井理事の新任の如き深尾道恕君の入行の如き異例である尤も九年中に若干課長の異動はあつたけれご主要な方面は動かなんだご見てよいやうだ

▲有賀君は兩三年前まで總督府の一事務官だつたが殖銀頭取の任に就てから京城でも質に[illegible]

賀正

京城府本町二丁目五十二番地
愛知産業株式會社
京城支店
電話長三三七六番

賀正

どうぞ今年も相變らず御愛顧の程を
南大門通 カフェータイガー 電話二五七二番
八景園 新白水 龍山電話四六番

賀正

京城南山町
京城殖産會
電話二二五二番

賀正

京城府南大門通四丁目五十番地
土木建築請負 小杉謹八
京城驛前
小杉組製材所

賀正

舊年中は格別の御引立を蒙り誠に難有厚く御禮申上候尚本年も倍舊御愛顧を賜り度偏に御願申上候
京城府太平通二丁目
株式會社 大海堂
電話長一〇三七六番
振替口座京城一二〇番
取締役社長 [illegible]
專務取締役 [illegible]
社員 一同
工場員 一同

賀正

京城醫師會

賀正

資本金 壹千萬圓 振替京城七六八八
拂込濟資本金 參百萬圓
電話 一六二七 三三二 一五三九
朝鮮ニ於ケル鐵道運輸並ニ拓殖上必要ナル諸種ノ事業ヲ營ム
西鮮殖産鐵道株式會社
社長 山本悌二郎
常務取締役 賀田直治
同 西嶋新藏
既設營業線 黃海道沙里院載寧間十四哩 前記上海驛ヨリ分岐銀山面線十哩
出張所 京義線沙里院

謹賀新年

朝鮮森林鐵道株式會社
取締役社長 大川平三郎
專務取締役 長谷川太郎吉
取締役 田中榮八郎
取締役 津田銀雄
取締役 八木武三郎
取締役 藤田好三郎
取締役 下郷傳平
取締役 島德藏
取締役 熊澤一衛
取締役 永田甚之助
監査役子爵 松平直平
監査役 伊藤長次郎
監査役 渡邊甚吉
監査役 阿部房次郎
監査役 韓相龍
監査役 藤本清兵衛

謹賀新年

株式會社京城株式現物取引市場
附屬仲買人 (イロハ順)
井口陸造 池田準太
犬島新作 新田耕市
方圭煥 川崎良太郎
吉見岩吉 田中友吉
高松清太郎 塚野季三
中津留孫市 古閑豊記
權順承 洪殷柱
有田長 櫻谷與三郎
金應龍 三好喜六
金潤秀 南源兵衛
白井友之助

婦人問題の歸趨

日本女子大學校教授 高島平三郎

物質萬能の謬論 神様よりも金様

百年乃至百五十年以前から、科學が大變進步しました。始めは物理とか地理とかの自然科學から開けて、後には生理とか心理とかの生物科學に及びまして、之等の進步のお蔭を以て、物質生活は意想外の幸福を増して來ました。その結果物質許り偉んで居つて、精神とか魂とか神とか云ふものが、蔑ろにされたり甚だしきは否認されて、金さへあれば何でも出來る。神様よりも金様だと公然書いた人さへあつた位です。勿論物質も大切であります。生活を切半して、その一半をなすものは、確に物質であります。が、然しながら物質萬能、金さへあれば何でも出來ると思へば大なる誤りであります。私の知つた人に百萬長者の主人がありました。例に洩れず物質萬能の信者でありましたが、此の人が病に取付かれた。金があるから[illegible]治る[illegible]きますが、更に五千圓の賞を懸けて、醫者を驅動しましたけれども、捗々しく快癒しない。名醫を替へること十數人、費に八萬圓を盡したが効果が未だに見えません。其處で主人歎息して、遂に物質で購へないものがあると覺り今では[illegible]を呼んで精神問題の研究に入つて居ます。

ユートピアの世界は何處に

野蠻な生活から進んで、理想生活、即ち文化生活に向ふことは、眞善美の三つを兼ねた生活をしやうとするのであります。此の頃問題となつて居る社會主義も、或は勞働運動も、運動そのものが目的ではなくて、文化生活を萬人に擴めて、人々が幸福に浴さうとするのでありませう。然しながら文化生活は金だけでは出來るものではない。社會主義の誤つて居るのは、この點であります。

私の友人に熱烈な社會主義者がありました。足尾の鑛毒事件に連座して入獄した時に、獄窓の内で沈思默考する間に、吾々は階級の打破と、富の分配の公平を叫んで社會運動を起して居るが、果して物質生活が平等になつたならば、ユートピアの世界が建つか。精神生活を度外した物質本位の社會主義は、決して萬全でないと悟つて、只今では勞働者に道德主義を鼓吹して居ます。之等は自ら實驗して、死生の間に味はつた、人生問題の旋律であります。

解放もする參政權も與へる

婦人問題、婦人運動も、文化生活が目的である。婦人の開放、婦人の職業、婦人の參政等、諸種の問題がありますが、何れも文化生活を求める運動に外なりません。婦人を無窮に壓迫した、舊習を打破つて、婦人の人格も認めて遣る、婦人の自由も認めて遣る、さうして才能あるものは、社會に之を發揮して、職業も認めて遣る。之等の當然の歸結として參政權も與へて遣る。總て何處までを男子の領分、何處までを婦人の領分と、限るやうな考へを棄てゝ、男子も婦人も同樣に、各自の天稟を發揮させるのが、眞のデモクラシーであります。私は此意味で、婦人の向上運動には、滿腔の贊意を表し且つ[illegible]るのが、[illegible]りますから、此の[illegible]論じません。[illegible]段々此の方面に進み、內務省に於ても、治安警察法を改正して、婦人の政談演說を[illegible]とか、政社加入を許す方針だとか、[illegible]政談法もありますし、婦人問題の趨勢が、やがて實現することを疑ひませぬ。

難かしい蛋の殻程の小問題

然しながら之等の運動は婦人問題の全部でもなく、根本でもありません。九牛の一毛程の小さい一部であります。例へば、社會共産主義が、文化生活の一部の理論で、之を萬全な理論と看做し、全部に徹底する爲に、帝政を覆へし、勞農政府を立てゝ見たが、露西亞はユートピアともならず、却つて彼の甘味と[illegible]。婦人が開放されやうが、參政權が與へられやうが、之に依つて理想生活は完成は致しません。他に大なる問題が伏在して居るのであります。

總て物事に熱中すれば、その物事が大きく見えて、果てはその物事以外に、何もないやうになる。婦人參政權論者が參政權を、婦人解放論者が開放を、婦人問題の全部と思ふやうになるのは、人情ではありますが、實は之等のことは、婦人生活の極めて一小部分であります。エレン、ケイの如きは、夫婦別居說を立て、時々會ふやうにしたいと云つて居ますが、婦人開放を徹底するには、茲まで進まなければならぬが、實際は子供が出來れば、子供と一緒に住まねばならず、夫の手を藉ることが、何彼に就て便宜であり、必要であり。幸福である。人間は先天的に孤獨生活は出來ないやうに作られてありますから、家庭は必ず必要であり、從つて婦人問題が、大部分家庭に繋ることは申す迄もありませぬ。

家庭に歸れ家庭から出發すべし

既に婦人生活の大部分が、家庭に繋るものとすれば、婦人問題は、家庭に歸り、家庭の文化生活から出發しないと駄目であります。實際人間の育つ所は何人も家庭であります。家庭が善ければ善く育ち、家庭が惡しければ惡く育ち。人間の善惡は、大部分家庭が作る。今日日本人の品性が、大變荒んで來たことは、取も直さず日本の家庭が紊れた結果で、家庭の文化生活こそ急務ではありますまいか。

米國で行はれたクエッションネーアと云ふ研究法がありました。或る質問を發して、多數の回答を求める遣り方でありますが、或る時幸福は何であるかと質問を發した所、全國から集まつた夥しい回答の中、大多數を占めたものは。スヰート、ホーム、樂しい家庭でありました。富も名譽も幸福であります。然し幸福と申すことは、不快な分量に比して、快樂な分量が多い場合を云ふのでありますが、家庭は何人も常住坐臥、不斷接觸する所で、その家庭の愉快なことは、何よりも幸福であり、理想でなければなりませぬ。

婦人の文化生活上の大使命

されば家庭は、現在の世界には幸福の海である。將來の世界には將來を形成する善惡の泉がある。家庭の文化生活は、現在の人生には、ユートピアの世界を築き、將來の人生には、好き人間をうみ出して、理想生活の基礎を作る。婦人はこれ程重大な使命を持つて居ます。何を苦しんで之を忘れて、徒だ末葉にのみ走りますか。

然らば幸福なる家庭は、如何にして作りますか。或人は答へて曰く『そんな事は何でもない。金さひあれば皆笑つて、家庭に風波は起らない。生活難が何よりも家庭を亂す本だ』と云ふのは、一理あることであります。人間の生活は物質を離れては、固より出來ない譯ですから、物質の方面も充實せねばなりませぬが、然し先年山口縣では、保險金を取る爲に、自分の妻を四人も殺した、極惡非道な人もあつた。金さひあれば一家團欒するものとは云はれないと思ひます。其處に精神生活の光りがある。

人生は大海の如く人は海の如し

家庭の團欒を破るものは、個人本位の考へであります。自分は自分、人は人と孤立するからであります。然しながら人間は孤立しては生活出來ない。ロビンソン、クルーソは、絕海の一孤島で、孤獨の生活をしたやうでも、家を造ること、食物を料理すること、衣服を拵へることなど、既に本國にあつた時知つて居つたお蔭であつて、矢張り眞宗の文化と、世人の恩澤に依つて居ます。セックスピアが、[illegible]と惡魔とは孤立して居るが、人間は孤立出來ないと云つたのは、平凡な樣で眞理であります。然らば如何にして[illegible]を保つか。人の心を取らへて、自分の心と結付けるのは、至つて六ケ敷いやうですが、實はそれ程六ケ敷くない。スピノザが、人生は大海のやうなもので、人間の一人一人はその上に立つ波である。波となつた時が人間、消えた時は同じ水で、各人は水と同一の共通の點がある。この共通な所を捉へなければならぬと云つてゐますが、その共通な心を捉へて、同一の心持ちとなることを同情と云ふのであります。之が家庭のみならず、共同生活の[illegible]であります。

デモクラシーは感情を遮へぬ事

佛蘭西のリボーと云ふ學者は、此の同情を三段に分つて說明して居ます。第一が生理的同情と申しまして、例へば嬰兒が無意識に笑ふのを見て、親が微妙な同情を起し、他の嬰兒が泣くのを見て、其の嬰兒が貰ひ泣きする如く、譯もなく人の表情に感ずることであります。斯樣な同情は、無意識の間に行はれることでありますから、實際上の交渉はない樣でありますが、其處が人間の微妙な所で、朝出會つて『お早う』と云ひ、『お寒う』とか無意識に挨拶するのでありますが、それに應答しなかつたら怎うでせう。『彼奴生意氣だ』となる。分り切つたことであるが、『分り切つたこと』とも云はうものなら、鐵拳の二つ三つは覺悟しなければならぬ。デモクラシーは人格の尊重で、人格の中樞はフイリング即ち感じでありますから、斯樣な無意識的な利害關係を伴はない生理的同情も共同生活を完ふする上には大いに心得なければならぬことであります。

日本に缺けて居るは同情心が第一

第二は心理的同情と申して、例へば人の病氣を見て、如何にも苦痛であらうと、自ら苦痛を感じ、人の喜びを見て喜ぶ心、即ち同喜同憂のことであります。ロイドが言つた樣に、一人で苦しみの壓迫を受る時には、遂にヒステリーになる。甚だしいは發狂する。然し之を打明けて話す人があると、その人には何の役に立たなくても、悲しみが非常に輕くなるものであります。斯う云ふ心理作用は、數學等では割出せるものではない。實に微妙な作用であります。

この心理的同情を家庭の中心に應用して御覽なさい。必ず家庭は和樂致しませう。例へば女中を使ふにしても、この嚴冬に女中だけを叩き起して、朝まだきから水仕事をさせ、主婦や娘は寢て居ますと、女中は此の辛い勤めを、『[illegible]』と、人生を儚なみませう。然るに主婦等も共に起出て、お前早くから御苦勞樣と、嚴寒の水だけ汲み替へて遣つても、女中は此同情に苦痛を忘れて働きませう。女中だけではありませぬ、社長が社員を使ひ、長官が部下を使ふにも、總て變りはありませぬ。然るに今日では長上に此の心が乏しいのみならず、電車に乘れば車掌の不親切、役所に行けば役人の不親切。實に今日日本の社會に缺けて居るのは、金でもなく、武力でもなく、この心理的同情心であります。

愛とは理解の別名なり

先年印度のタゴールが來た。[illegible]しく說を聽いたけれども、大體[illegible]思想で、歐米には珍しくもあり、如何にも文章と識者とが、[illegible]でありますから、[illegible]人は傾服したが、吾々には珍しくもなく、さう感服もしなかつたが、只[illegible]の中に『愛とは理解の別名なり』とあつたには、頗る共鳴したのであります。理解がなければ同情はない。從つて愛もない。[illegible]の偉大な所は、自ら艱難辛苦を嘗めて、萬人の爲めに理解があるから、行く所として慈悲忍辱の美德が發露したのであります。

私は此の意味で、婦人の修養を高唱するものであります。夫の事業は何であるか、夫は如何に苦痛を[illegible]ひ如何に努力をされて居るか。之等の理解がありませねば。夫に對する眞の同情は起りませぬ。即ち理解するに足る智識を準備する必要がある。今では怎うか知りませぬが、私が學習院で敎鞭を執つて居ました頃は、雨中や雪中に、宮樣を始め奉り、貴族の子弟一同を、箱根や其の他の山中に、演習に出したもので、これは心身の鍛練よりも、此の苦痛を實驗して、將來貴族として立つ時、使用人を始めとして、一般に同情する理解を與へんとしたのであります。

家庭の理解があれば、眞の同情が起ります。ラポート即ち共感と云ふものは、理解し合ふ所に起る。モーズレーの書いた書物に、母親が引窓の硝子障子を引く機勢に、何處の加減か硝子が外れて、寢かして置いた娘の上に落ち懸かり、頸を切つて氣絶させた。母親は狂氣のやうに吃驚して娘を抱へ醫者に驅け付けて息は吹返したが、肉親の同情と、觀念の苛責に堪へなくて、洗滌して居る裡に、給も切られた娘の傷と同じ邊の母の頸に、切られた傷に充血して、[illegible]一緒に入院したことがあつたが、かく[illegible]共感は、內證にまで及ぼします。これ程同苦同憂の心がありましたら、家庭に怎うして風波が起りませう。

同情ある一言は惡漢をも泣かせる

第三は道德的同情であります。佛教で抜苦與樂と申しますは、此の上に、共鳴を呼ぶことで、此の間有島と申しまして、學習院で私の教へた生徒がありましたが、今日では文壇の流行つ兒となつて居ますが、それが『惜みなく愛は奪ふ』と云ふ本を書きました。私の意見を求めて來ましたが、固より私は同感である。自己の愛するものは自己のもの如く感じる。非常に愛撫する時には、コップ一つでも自分の生命が宿る樣に思へて、離れでもすると、自分の肉體中の或ものを失つた樣な氣持になる。これ愛するものは自己のものにする。即ち愛は奪ふのでありますが、[illegible]は自己擴張となり、一身より一家、一家より一國、一國より世界と、漸次同情範圍を擴張する時、自己は漸く偉大を加へるのであります。

孤獨の悲哀と云ふ言葉が、一時流行したことがありましたが、之等はその時代の眞際を語るもので、過渡期に當つて、智識に於て、境遇に於て、新舊の隔離甚だしい爲、互に理解し合はないから、茲に孤獨の悲哀を感じたのであります。理解は同情を生み、同情は[illegible]せます。

先年獰惡な鬼金強盜賊が、東京[illegible]近在を荒したことがあります。人も殺人して、幾度か捕まつても脫走して、盜み歩るくと云ふ手におへぬ剽悍な男でありましたが、最後に捕へられて市ケ谷監獄に繋がれ、愈々典獄が巡視して此の獨房を見ると、深い寒中に袷一つで顫ふて居る。典獄は、突嗟の間に憐れみを催して、折しも小さい切窓から差し込む日光を見て、『寒からう、看守日の當る方へ出して遣れ』と云つて去つた。然るに鬼金強盜は、惡口暴言の昨日に引きかへ、生れ變つた樣に遷悔し出した。餘りの不思議に看守が聞くと『私は生れて以來茲の典獄樣のやうな優しい言葉は、生みの親からも聞いたことがありませぬ。始めて人間の情が分りました。私は大罪惡を犯しましたから、怎うで處刑されるならば、斯樣な同情深い典獄樣の下で死にたい』と、熱々述懷して、全く別人のやうに悔悟したさうであります。道德的同情の力は、豈に恐るべきものではありませぬか。私は小さい諸種の婦人運動に沒頭する前に、此の同情美德を養ふて、眞善美の文化生活を、實際に踏まんことを希望に堪へないのであります。

賀正 京城明治町 小林靴店

賀正 石川時計店 京城時計修理工場 京城本町三ノ二八

賀正 京城本町二丁目 壽館 電話七八五番

賀正 京城櫻井町 公みのや京染店 電話長一四六二番 振替京城三六三八番

賀正 京城長谷川町 河野出張所 電話三〇七五番

賀正 京城長谷川町七四 印刷紙器 近澤茂平商店 電話九四三番 二二七五番

賀正 京城西界洞 京城鐵工場 土宮常一 電話一一二三番

賀正 御料理 清華亭 京城黃金町三丁目 電話長二五番 八一三番

賀正 京城長谷川町 株式會社 京城食堂 電話長二二六番

賀正 京城本町二丁目 中村再造 電話三六五番

賀正 京城南大門市場 食料品雜貨 辻本商店 電略(ツ)電話長七五番 六四一番 振替京城三八番

賀正 京城府御成町十七番地 漢陽旅館 電話二七四四番

賀正 京城本町一丁目 山岸天佑堂 電話 三七二番 [illegible] 長一〇六番 藥品部 器械部

賀正 御料理 松葉亭 京城南山町一丁目 電話二三五番

賀正 福田又 京城支店 京城南大門通三丁目 電話六三番 長一一二二番

賀正 土木建築請負業 多田順三郎 京城太平通一ノ四〇 電話長二二一九番

賀正 內外興業株式會社 京城出張所 建築材料部 京城黃金町二丁目 自働車部 京城長谷川町

賀正 內外洋紙・紙製品 販賣所 各國產紙 合資會社 渡邊商店 京城支店 京城南大門通三丁目 電話二九〇六番 本社 金澤市安江町

賀正 石炭商 井上商店 京城太平通二丁目 本店電話一六一九番 [illegible]

賀正 人力車帳場 金川組 京城太平通二丁目 電話一二八四番

賀正 人參ミルクキャラメル製造元 富士製菓株式會社 京城岡崎町參番地 電話一三一二番 振替京城五九七三三番

賀正 鷄林自動車商會 營業部 京城永樂町二丁目 電話一二七七番

賀正 中山洋紙店 中山秀一 京城南大門通一丁目 電話一三四一番

賀正 カフエーキリン 品川秋藏 京城本町二丁目三九 電話三〇二六番

賀正 ホテル並西洋料理 フアミリーホテル 京城南大門通三丁目 電話一二一八番

賀正 印刷製帳 大養帳簿製造所 電話二二七九番 振替一五九六番

賀正 京城明治町二丁目 小川旅館 電話二五五一番

賀正 京城水標町五〇 松田自動車部 松田常男 電話二一三八番

賀正 京城黃金町二丁目 司材木店 電話一一四八番

賀正 京城本町一丁目 製藥博士 本城屋 電話二三四三番

賀正 京城南大門通三丁目 東京火災保險株式會社 京城出張所 電話一〇六〇番 振替京城二六六番

賀正 中華高等御料理並玉突場 金谷園 京城長谷川町九十七番地 電話一五二五番

賀正 京城本町二丁目 林田金次郎 電話六五番

賀正 京城岡崎町七拾番地 宮川組 電話一四二八番

賀正 京城府北米倉町 大正館 中津留孫市 京城明治町二丁目 電話一七八五番 株式仲買人 中津留孫市

賀正 京城南山町三丁目 株式會社 高嶋屋出張店 電話一五九六番

講談 紀の國屋お浪

松林伯知口演

徳川十一代御治世の時分のお話でございます江戸の花こいはれましたのは先づ魚河岸に芝居町に吉原さ斯うなつて居ります、その中でも人は河原物こ卑しんで居りますが芝居町の盛り大奥の女中その他あらゆる人の娯樂場になつて居りました葺屋町には中村座こいふ櫓がある葺屋町には市村座こいふ櫓があるその裏を樂屋新道こいふ、その前面の方は大茶屋小茶屋で埋つて今の葭町方面のこころには結城座薩摩座こいふ二座がございました、この榮町から木戸を一つ距つたこころが和泉町こゝは今でもその名殘を止めて居りますが玉鐵こいふ鳥料理屋こいふこ大仰でございますが軍雞屋がありました、昔はこういふものが鷄肉屋なんて云はないで通常軍雞屋汚いこさ夥しい、また食べる人も少なかつた、主人が胡坐を搔いて鳥の羽毛をむしつて居るたばかりだ毛を拔いて縊り殺します一寸一杯やつて見んなさい』こいふ風でございました、この玉鐵のこころは好い鷄を五十羽も七十羽も飼つてその頃ほひ非常に流行つて居りましたのが鷄の蹴合ひ何時の世にも勝負事こいふものは廢らぬもので文明的になれば競馬こいふものが盛になる、また株券の相場こいふものも一つの勝負事で德川時代には米相場油相場これだけでありました、此の外には德川十一代の頃は寺に社に御富籤こいふことがございました、これが非常に盛でこれにこの鷄の蹴合で鷄を持つて居る者は皆やる大層もない金の遣取りをしたこいつて千兩萬兩こいふ大きなことではない五兩か十兩ですがこの玉鐵が鷄を見別けて

○『ウムこの鷄は地鳥だ、この鷄は旅だなイヤこれは强いぞ』なんこいふ、中村座の小屋紀國屋辰五郎こいふこれは大茶屋でございましたがこの男が蹴合が道法界にすき地鷄の極く良いのを十羽も十五羽も飼つてこれで勝負をして居りました、辰五郎の娘にお浪こいふ絶世の美人芝居茶屋の娘だから見やう見眞似瀬川菊之丞の八百屋お七の眞似をして見たり岩井半四郎の白木屋お駒の風が好いこ八丈の着物黑繻子に鹿の子の帶を締たり評判の汎ッぱい格子縞の着物に縮緬の遂のお六の姿が好いこいつては[illegible]こいふ仇姿をして樂むそら今年十九才こなりますが女の十九は前年のお側御用を取次ぐ一度は奥中にも相成つた小野川[illegible]こいふ方の公用人の

で土方紀之進こいふ方がある羽振の好いこご飛ぶ鳥をも落す勢ひ[illegible]でこそあれ時に老中の說を動かすこいふ腕のあるその土方紀之進が或日深川藝者を連れて芝居を見て來てこの紀國屋の娘を見た、食指頻りに動いて『彼を妾にしたいものだ』こ云つたのを辰五郎が 辰『有難うござ[illegible]』こいふお浪も[illegible]ざいます』こいふ 浪『そんなら彼の人の所へ參ります』こいふに富んで居るのかこで承諾をしました金子を受取つて仕度をする緣に行くより花も土方樣へ上る有象無象が寄つて頭を下げるその方が餘程響いこいふのですること時は文政の始めでございます然も三月彌生の花盛り芝居は四代目團十郎でモウ數日で終りだこいふそこで紀國屋の旦那好い雞でもありますか 辰『ごうだい此はお前さん』こころの雞ご一番やらせやうか 玉『イヤ何うも三月は花時分、無暗に精かなきやがつて仕やうがありません』こ話のこころへ杉の森の大工の棟梁で新太郎こ云ふ棟梁こいひながらまだ若い獨身でお屋敷の出入りも少い殊にこの新太放蕩者で仕事に精を出さぬが流行の鷄の蹴合が大好きで毛並の好い鷄を一羽持つてこれも同じく玉鐵のこころへ見せに來た一方は十九になる娘のある辰五郎一方は背中に[illegible]を刺青て樂平新太さまで云はれる若い者こ 新『お父んお前の鷄ご俺の鷄ご一つ勝負なさせて見やうぢやないか 辰『ウム新太蹴合も好いがお前もヅッタア餘がねちや好くねね見りやア粹な着物に縮緬の三尺こんな扮裝をして職人が居るやうぢや何うも不可ねいものだ 新『大方三代目菊五郎の眞似でもして居るんだらうが何も音羽屋や成田屋の眞似をするには及ばねね 新『大きいお世話だお前は何だ、唯一人の娘こいふ話だがそれで能く人のこなこごが云へたものだ、がまあ其んなこごはおいて一ご勝負しやうぢやねへか 玉『さうだな大內山の鳥合こ云があるが大工の雞ごの好からう玉鐵こりや面白い毛並は何方も好いが辰五郎さんのは地鷄で新太さんお前のは旅だな 新『旅だらうが何だらうが構はねへぢやないかさア演らう 辰『だが勝負に貝こいふこごはね、こりやア、然うだ 辰『新

[illegible]

〈なんてそんなこごは云ひますまいがワイ〈囃いて居る鷄ご鷄こは一生懸命になつて爭ふ暫らく相爭らて居るこいふきなり羽叩をして新太の方の鷄が國屋の方の鷄の咽喉へ食ひついたするこ哀れな聲を立て、もかく咬んだ儘遠くへ嗾でピユーッこ投げつける息も吐かせず又食ひ附かせる紀の國屋の方の鷄は血塗になつて斃れた 新『[illegible]から紀の國屋お浪さんは與れるだらうな 辰『まア待つて 新『イヤ待つてる 辰『けども本人が承知しなければ…… 新『本人が承知するも何もない親この約束何も俺は貰はなければ 辰『そんな無理なこごを 新『無理ぢやアねへ何でも俺は貰はなければ、 辰『そんな事を、新『そんな事をつてあるものか貰ひに行くぜ』辰五郎は自分の家へ歸るこ奥座敷の火鉢のこころへ坐つて 辰『お浪一寸こい』浪『何だへお父さん 辰『その帶は何うしたんだ 浪『これは成田屋さんから貰つ

使ひにやづたか鏑もホロロの淡椽だこいふ、こころへ土方の用人で民谷武左衞門こいふ人が來たこれに話をした 武『よろしい俺が引受ける』こ三十兩の金を十兩足して杉の森の新太の家からりこ入つて見るこ新太湯から上つて來たものか、薩摩の大絣の景物に三尺をしめて胡座をかいて酒を飲んで居る 新『ア、醫いな三月こいへモウ未だオッお武家さま何か御用で 武『某は水野出羽守公用人土方紀之進の用役をして居る民谷武右衞門 新『あゝ然うですかい用人の又用人で小前はこの家の新太だが大方紀の國屋のお浪の一條だらう 民『斷り申すこは何だ我等の方が彼女のこごなら斷ります、の妾奉公こいふので金子を遣はし召し抱へたもの然も本人が承知しないのに天下禁制の鷄勝負に金子をかけ…… 新『へイお言葉ですが金子はかけません人間で 民『人間を賭けるのは尙ならぬ 新『こころが人間をかけたこ

の妾ア鷄の蹴合なんかアする人は大嫌ひだよ加之お前さんたら外の芝茶屋に三四人も惚まれた女もあるこいふ、そんな所へお嫁に行かれるものかねらお前の性根が直つて立派に働く時が來たらそりやア又來ないものでないが、まア折角の三十兩これでも買つておいたらよからうに 新『ヤオ〈其らや女は愛想を盡しに來やがつたんだな、この阿女奴 浪『さう怒つたつて仕やうがないいよ武士なら刀で斬れるが大工ぢやア手斧でつゝく位のものだらうまア辛抱をなさい、このお金はこオッ其處に居るのは小僧の松さん 松『へイ松ですか紀の國やの娘さん 浪『あの氣の毒だかねこの金子は親方が取らぬこいふからお前さ氣の毒だか捨つて溝へ捨て、しまつてお異れ……サア民谷樣長居は無用行きませう』こ出て行く 新『うぬ畜生ッ 松『親方ア金子を捨て、參りませうか 新『其れには及ばねへや捨て、持つて來い……イ

殺したこころで[illegible]あ三十兩のおれは賞分小何かおつたら紀の國や付けてやらう』こ其頃だ一方お浪は土方の所小梅の別莊へ來る此にお政に、お直に、お三人の妾も居るが、おの間にやら此三人を押紀之進のお氣に入り丁で文政五年の春でござの香薰るこいふ時分、三人を土方紀之進小梅招いての御馳走奉公人お濱、お政、お直が給美酒佳肴のありだけお局數奉公だけに扮に黄緞子の帶を締めてび上げて居るか何時のが一巡する 縫『浪辨ふ浪が一振り舞ふ主客の何かこはづむこ庭を縫の方が騷々しい 縫『何うかいたしか見て參れ○『エ、申し上げます職人か何か口論をいたしたので 縫『左樣か御客來の折に職人などを入れては不可ない○『こころが餘儀ない儀で前夜務が破損いたしましたので、兎に角御客來のころ騷がしい取鎭めるやうに○『畏まりました』するこお浪が 浪『明の方では御騷がしくなるこ不可ませんに妾が止めて參ります』こ勝氣な女ですから出て見るこ片目で顏中に隈が爛れて居る男が大勢の職人に取卷かれて打たれて居る ×『[illegible]奴、碌に仕事も出來ねらくせに割込んで來やがつてそりやアこの以前なら棟梁であつたらうが今日のその身體で何が出來る鋸一つ持つてるか、歸れ〈〈歸らねへこまた打つぞ』浪『これ〈[illegible]に今日は當屋敷では御客さまお家中人は明日にして引取つて下さい歸りがけに御酒を上げるが勝手の方へお廻りなさい可哀さうに唯一人を多勢て打つては不可ないぢやないか何うしたのです……オヤお前は新太さん 新『エッ貴女はお浪さんですかい 浪『一體何うしたんだね 新『イヤ何うも面目ない譯でアノ時にお別れしてから三十兩の金子で蹴合の資本にしましたが、その度毎に當方の鷄が負けるやうになつて飼つた大鷄を締めて食つたのが始まり、その中に一羽締めやうこするその鷄が私の身體に飛び掛つて來た、これさ思ふ中に左の目玉へ食付かれて、この樣に左の眼は潰れるその中に居酒屋で飲んで居る時に喧嘩をして引かれた機みにその酒屋の銅壺の中へ顏を突込それから顏の爛ればかりぢやねね鷄に蹴られて生れもつかねへ[illegible]『重ね〈の不幸だつた一人の母親にも不幸をして居りますが今日此處を通り掛るこ昔の家の奴等が仕事をして居る聲を掛たが私に來られて謝前でも取られるこ思つてか恩を忘れて伜で報ずる金の仕義ナアニ不具でなければ斯んな目に逢はされはしないのですが、イヤこれは飛んだ愚痴を申しましてお浪さん貴女は御榮耀で結構でござい

ますイヤ私のやうに不義理をするこ身の分のないものでお斃一人が何も彼も世話をして吳れるイヤもう身から出た錆こは思ひながら世界が狹うなりました、一伴始終を聞いて居たお浪が、浪『成る程ね、お前さんも隨分色男だつたが身を過まつてこの身、然し妾だつて斯くやつて妾が出たこはいふもの旦那樣へ……るより手鍋提げても人の女房になつて苦勞を爲る方が人の道こア、然へば妾奉公で一生を送れに三人も四人も一人の旦那に仕へて其の寵愛なんて、ものはないアア妾になるなら新太さん妾がアノ時にお前の處へ嫁つてゐたらお前もそれ程にはならなかつたらうに私の心得違ひだつた 新『冗談をお浪さん云つちやア不可ませんよ』こころへ立ち出でました土方紀之進 縫『浪、奉公に其の覺悟ではないこいふ 浪『ハイ 縫『成程好い量見だ妾[illegible]らば今でも貴方は新太郎の處へ嫁く氣があるか』浪『何です』縫『目偏で顏は半分痳けて居る見る影もない姿者に迫る新太郎の家へ榮へ歸り土方を棄て女房になつて共に稼ぐ心があるか』大抵の女なら御免なさいこいふが流石にお浪だ 浪『御前樣がお許し下さればねね新ちやん貰つてお吳れるだらうね 新『エッ何分りません 縫『浮嫁け新太郎貰へ 兩人『有難う御座います、縫『イヤ左樣あるのが人情道理の方にこれを與へるここ三百兩の金子に前の花の一枝以來この花こ操を鏡へよごいふ教訓です新太郎此處に杉の森に再び裏屋に居たのを表へ出て以前の株を求めて若い者を集めて棟梁をして屋敷へ出入りをするこになり紀の國屋夫婦も昔を忘れて何かご世話をする新太不具であるけれご二人のお浪の[illegible]で幸らし鷄の蹴合をさした罪を消すために鷄十羽の形を[illegible]の森稻荷ご淺草の觀世音、成田の不動尊三ヶ所へ都合三十羽の鷄を奉納したこいふ、其の頃ほひの事實を新年に因て一席に纏めて申上ました御退屈さま。

新年吟

○若水汲び二三人に逢う地平線の白らみ　島堂

○白兎が又の子を設けた正月すゐ　秋風嶺

○幼きものゝら太箸を握りのあらたまの雑煮食ふて出づ海明る海の色　麥哉

○初荷積む甞が高うついさゝる體者いさゝかのぬかるみをさ　紅一六朝

○入さんの彈初の手つきが輕くて醉ふてすつた今年幸福の新年を迎ねたる袖の葉の水玉　不考郎

○官舍町の三ケ日の塀の月當り三ケ日の酒が女の顏をグロテスクにするのだ　貴丘

○醉潰れた元日の温突の晝過ぎ元朝詣づる石段のほの暗き靄し　眞綾

○そくばくのものらに逢ふて元日のマントで包まんさすたおろかもの元日の日暮のもの拾はんさす　貞三

○正しく向つて女にさす屠蘇の盃元日は小さな神棚を仰く母に倣つて

賀正
大連市台東町
大連木材株式會社
電話 二八六番 二四八番
受信略號 オレンモクザイ
支店 安東縣 電話五〇一番
出張所 京城府
製材工場 新義州 電話一〇〇番

賀正
營業科目 請負、保險、土木
大連市山縣通百六十三番地
本店 福昌公司
電話代表番號五〇四番
店主 相生由太郎

謹賀新年
南滿洲安東縣
木材商 興村組
電話一八六番

謹賀新年
安東縣五番通八丁目
池永建築事務所
電話六二四番

謹賀新年
新義州濱町
鴨綠江運輸株式會社
電話三一番

賀正
北華運送株式會社
加盟店
電話 三四一番 三三番 一〇一番 五九九七番

謹賀新年
南滿洲安東縣
南地貸席組合

賀正
大連市濱町四拾號地（電略ドック）
株式會社川崎造船所大連出張所

賀正
大連市近江町
東洋拓殖株式會社
大連支店
安川和三郎

賀正
本年も倍舊の御引立奉希上候
安東縣五番通
五龍閣

賀正
大連市山縣通
大連汽船株式會社
電話 六六三番 九六二番 一六四番 一六六三番

賀正
鴨綠江製紙株式會社
安東縣六道溝
電話 三〇五番 一六三番

賀正
朝鮮銀行安東支店 電話三番 五番
滿洲商業銀行 電話四二番 一六八番
協成銀行 電話三三 八四番

賀正
朝鮮製紙株式會社
平北新義州府外
電話 一六九番 二七〇番 一七二番 三五番 一七一番

大邱錦町
今光成友三郎商店

大邱府東本町
山中商會

謹賀新年
仁川松坂町
京城電氣株式會社
仁川支店
電話二一四番

海運業
株式會社野村商會
仁川出張所
電話長八四番

米穀貿易
籾摺精米業
仁川濱町
力武精米所
電話長七〇一番

仁川
酒造組合

仁川本町四丁目
輸入貿易商
河野本店
電話一八番・一三八番

謹賀新禧

全州本町二丁目 銘酒若松 若松醸造所

全州大和町 完天合資會社 電話二七番

全州面協議會議員 全州學校組合會議員 貞原忠兵衛 電話一〇四番

全州大正町二丁目 岡村醫院 電話二〇番

全州本町 綿糸布雜貨 樋渡商店 電話二七番

全北全州本町 銃砲火藥商 山本悦藏 電話一三五番

全北全州 全州金融組合 理事 菅野三四郎

全州高等普通學校長 高木善人

全州高砂町 全州面協議會員 野口東一

全州多佳町 西洋料理 二陽軒

全州大正町二丁目 岩田茂吉

全北全州 全州木曜會有志

全州大正町二丁目 にしき屋洋服店

中外電氣會社全州支社 支配人 山縣運惠

全州大正町二丁目 加登屋商店

全北裡里旭町 矢野不二雄

全北裡里榮町 久保亮二 電話二三番

全北裡里榮町 裡里印刷所 電話一二八番 振替口座京城三三三番

全北裡里幸町 會席御料理 舞鶴樓 電話三三番

全北裡里榮町 武市知十郎 電話一七番

全北裡里榮町 田部寫眞館 電話二六番

全北裡里善町 扇米助

全北裡里榮町 横田呉服店 電話二四番

全北裡里榮町 呉服太物商 和洋雜貨 堂本五郎松 電話二三番

全北裡里新町 土木受負業 森次春次郎 電話二九番

全北裡里 田野村竹三郎 電話一六九番

全北裡里榮町 福原忠治 電話一〇番

全北裡里榮町 藤岡豊三郎 電話五七番

全北裡里榮町 中島彦吉

全北裡里大正町 兒玉醤油店 電話四四番

全北裡里幸町 支那料理 手打うどん 萬利樓 電話一六〇番

全北裡里榮町 材木商 那須網二 電話二三番

全北裡里榮町 米穀委託販賣 木材石材 靜川商店 店主 靜川昇 長電話一四九番 電話一七四番

全北裡里 兵頭泰

全北裡里榮町 土木建築受負業 加藤松太郎 電話一二五番

全北裡里幸町 左官 在間甚太郎 電話一四一番

湖南線裡里幸町 會席御料理 むさしの 電話一二六番

全北參禮 山本長三郎

全北全州 南門精米所 岡田弘

全州旅館組合 (イロハ順) 銀杏屋旅館 菊の屋旅館 平野屋旅館 日の丸旅館

全州大正町 辯護士 山田彦光 電話五〇番

東亞煙草株式會社 全州分工場 町田彰 鹿山清 鶴岡十九二

全州裡里 營業科目 蠶種製造 林業 農蠶具肥料 朝鮮蠶業株式會社 電話一〇八番 一〇九番 振替京城六四三八番

全北裡里榮町 銘酒白兎、金龍醸造元 矢野酒店 電話一一三番

全州郡東上面大雅里 益沃水利組合出張所 水野廣之進 柴田晩彦 西野傳雄

咸興本町一丁目 高等洋服店 山本佐伍次

咸興公立尋常高等小學校 校長 天野司

咸興郵便局 局長 道元孝助 電話三番

咸興東拓派出所 池村養成

咸興朝日町 土木建築請負業 豊島柳慶 電話一百四番

咸興朝日町二丁目 土木建築請負業 河内彦吉 電話一十五番

森林鐵道株式會社咸興技術員派出所 內海就三郎 電話百八十四番

咸興大和町二丁目 活版業印刷 芝田忠弘 電話百五十三番

咸興錦町一丁目 御用達 春田九太郎

咸興炭礦鐵道株式會社 支配人 木村重樹 電話百四十六番

殖產銀行咸興支店 支店長 近藤禑三 電話十三番

咸興大和町二丁目 內鮮雜貨貿易商 秋山五郎商店 電話百十二番

咸興大和町二丁目 會席御料理 仕出し 東京壽し 世界 電話九十四番

咸興高等普通學校 校長 重田勘次郎

咸興金融組合 理事 信田泰一郎 電話十八番

咸興大和町三丁目 西鳴社出張所 小澤角太郎 電話百四十八番

咸興金融組合 組合長 金文善 電話百六十四番

全北裡里幸町 西洋料理 玉川 電話一〇三番 藝妓 小三

全北裡里 印刷和洋紙 文房具商 (初田印刷所支店事) 古井逸雄 電話一〇五番 振替京城七一四番

全北裡里幸町 會席御料理 觀月 電話一七一番

全北裡里榮町 雜貨商 高橋文治 電話六四番

全北裡里幸町 印章彫刻 名刺 萬年筆販賣 駒井南光堂

全北裡里幸町 東京牛そば 御料理仕出し たみや 電話五五番

全北裡里榮町 支那料理 萬歳屋 電話一〇二番

全北裡里市場 陶器卸商 古田松太郎 電話一三八番 振替京城七七〇番

全北裡里驛前 御菓子司 白水日進堂 電話二九番

全北益山郡 益山面長 裡里學校組合管理者 大澤甚太郎

全北裡里驛前 全北商事株式會社 電話一二〇番

朝鮮蠶業合資會社

全北裡里榮町 古物商 表具師 婦紹介業 松梅堂 佐伯芳太

全北裡里 益沃水利組合理事 篠原辰三郎 電話八番

全北裡里驛前 米穀精米業 澤田精米所 電話二三五番

銘酒 澤之松 澤田酒造部 電話二三六番

全北裡里驛前 雜貨商 古川商店 電話一三二番

新義州倉庫株式會社 新義州本町 電話一七八番

滿鮮運輸株式會社 本店安東縣大和橋通 電話五九番 支店新義州本町 電話一七八番

全州本町 酒類 安武酒場 電話二四番

全北裡里榮町 雜貨 合資會社 大房商店 電話二九番 振替口座京城七八四番

全北裡里榮町 渡邊呉服店 裡里支店 電話一五番

全北全州 全羅北道金融組合聯合會

全北裡里末廣町 末廣內 權小秀花光 太菊香子子

全北裡里幸町 明月內 勝八千富玉 千代美 久代香子榮

全北裡里末廣町 玉の浦內 仙文新歌玉金 吉彌駒次七時

群山醫師會

全羅北道群山 沃溝郡縄叺改良組合 電話四〇二番

大阪商船株式會社 群山代理店 長電話一〇番

木材商 大澤商會 長電話一五四番 群山本町通 店主 大澤藤十郎

東亞煙草株式會社 群山販賣所 電話二六三番

全北 熊本農場 場主 熊本利平 鈴木信太郎

輸入貿易商組合 群山商友會

新義州木材商組合

群山府榮田町 群山酒造株式會社 長電話二六番

群山港 香原酒場 電話四〇八番

群山港 赤松醤油醸造場 電話五〇番

群山港 群山電氣株式會社 電話一七番

群山港 大倉米吉

群山港 不二商業株式會社 電話二七三番

群山港 群山水產株式會社 電話一一五番

群山港 東洋組長 飯塚忠三郎 電話二七一番

群山港 佐藤政次郎 電話一三番

群山港 群山運輸株式會社 長電話一四〇番

群山港 日本歯科醫學士 群山歯科醫院々長 野中松太郎 電話四三一番

群山港 谷口旅館 長電話四六番

群山港 神林藥店 長電話一四一番

群山九條通り 光富印房 電話一五八番

群山港 西洋御料理 東洋軒 電話二六九番

群山港 鮮南勸業株式會社 電話三三〇番

全北裡里 大橋農場 電話四〇番 電話三九番

群山銀行團 土曜會

湖南線裡里幸町 會席御料理 明月 電話五二番

全羅北道廳 食堂倶樂部一同

全北裡里末廣町 會席御料理 末廣 主 江口末次郎 長電話四八番

湖南線裡里末廣町 會席御料理 玉の浦 電話五二番

安東縣貿易商組合 (イロハ順)
育田商店 日東洋行 柿本商店 達磨商會 興東公司 三有公司 三巴商店 紀陽商會 芝玉洋行 鈴木商店 卵鮮肥料會社
日隆公司 貝原商店 滿洲商會社 村木洋行 佐上洋行 三省支店 共益社 三井物產出張員 西播洋行 竹本商會 鈴鹿商店

京城日報

其の二

十年の朝鮮財界
殖銀頭取　有賀光豐氏談

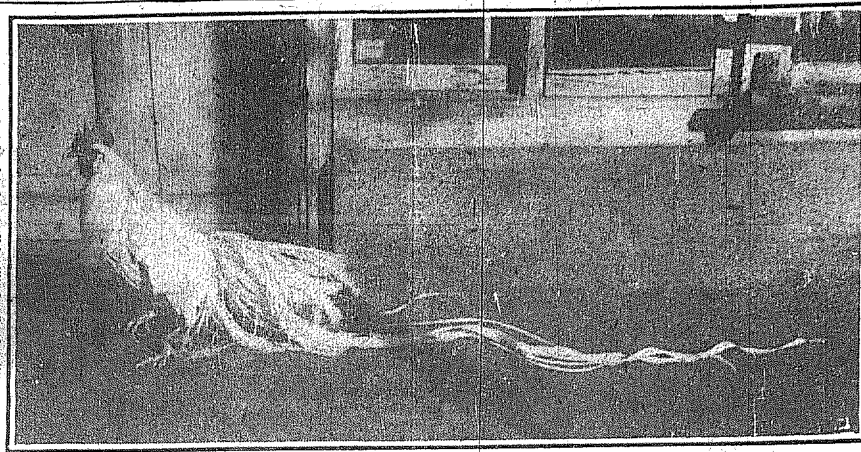
大正十年は財界甚だしく不況なりし大正九年の後を承けたる年なるを以て他に何等悲觀的新材料無しとするも尚昨年の惰性的影響を蒙るは免るべからざることなるに不幸にして本年の財界には大宗農產物たる米を始めとし棉花繭等に至る迄

非常の安値 にして且つ內地の豐作其の他の事情に壓せられて例年の如く多量の移出を望む能はざる等幾多の弱き悲觀材料を有するが故に本年も亦當分警戒態度を脫すること能はざるべし尤も現下の狀勢より見るときは各銀行は手許遊資の多きに苦しむの狀況にして金利も自然低下の傾きあるべければ一時極度に緊縮せられたる信用も多少緩和せらるゝ時期あるべく其の結果として商業界及事業界の沈衰が幾分恢復せらるゝことなきを保せざるべく又本年度の總督府歲計は內地の一般會計より一千五百萬圓の補給を受くる由なれば是亦朝鮮の經濟界にとりて一つの好材料として數ふるを得べきも前記不況の大勢は未だ容易に之を轉換することを得ざるべし況んや昨今の經濟界は昨年三四月の反動以來

未だ迷路を 辿りつゝあるが故に何時第二第三の動搖を惹起すべきや知る能はず殊に物價は綿絲布、絹織物、穀物の如く低落したるものなきにあらざるも概して尚好景氣時代の呼び價と大差なく此物價は早晩農民及被傭人階級の購買力の減退に依りて低落を現すの時期あるべきに於てをや昨年來の商品滯貨減少既に大打擊なるに更に又一般物價の低落に遭んか多量の手持品若くは約定品を擁する製造家及び商人の苦痛之を察するに餘りあり然れども今日の物價が每品著しく高低の步調を異にし中品の下落に拘らず乙品の依然として高價を唱ふるが如きは是れ明かに經濟界が常調にあらざるを示すものにして惟ふに好景氣時代に慣ひたる製造家及商人の財的潜力と各金融業者が擁護商品に對し平時の如く

果斷の處置 を採る能はざる事情とが相合して僅に物價の崩壞を維持し居るに過ぎざるべく早晩損失を忍び大いに價格を引上げ潛提の處分をなすの止むなき時期あるべきは之を想像するに難からず此時こそ一般經濟界に取りて一大難關にして或は破綻續出の不祥事を惹起するやも知るべからず是固より好ましきことにあらずと雖も一度此難を經過するなくんば昨年來の經濟界沈衰の狀態は遂に其終熄を見る能はざるべし若し之に依つて財界安定を得衆人疑懼の念を去ることを得ば事業家も商人も其金融業者も皆

心機を一轉 し健全なる基礎の上に新活動をなすの端緒を得べく消費者も亦公平なる物價の下に安定せる生活の保障を得て財界茲に一陽來復の瑞祥を見るに至るべきか唯其時期の出現が何時來るべきか今俄に之を豫斷し難きのみ



初鷄の羽叩往運の爽かさ

朝鮮產業の開發
新附民の安定策
東京商議會頭　藤山雷太氏談

新春と共に財界の前途が如何なる道程を辿るべきか其は暫らく措いて論ぜざるも余は世間の所謂悲觀論者の如く極端に

財界の前途を 悲觀するものに非ず世界戰爭の結果は凡ての經濟組織に一大變動を與へ今日の經濟界の不況は正に當然の歸結なりといはざるべからず我が國に於ける財界不況は歐洲列國に比較すれば稍其の軌を異にせるが如し我國が直接戰爭に因つて受けたる經濟上の打擊は歐洲の如く激甚ならず而して今日の財界は不況なるも國家の大局より達觀し打算せば決して世間の云ふが如く悲觀の必要なかるべし何んとなれば我國の正貨は激增して個人の富力增加せるが之を

戰前に比較す れば更に著しきものあり國民の富力增進せるは即ち國家の富強を示すに外ならず而して將來と雖も產業開發の必要上交通運輸を便ならしむる爲め鐵道敷設の如きは最も國家的事業なるべしと思料して亦獎勵すべき國家的事業は水力電氣の如き物なるべし之等は世間の不況時代に處するに於ても極めて安固なる放資的の好事業なりと思惟す此の意味に於て余は嚢に朝鮮產業鐵道會社創立に際し餘儀なき勸誘に依り之を承諾し

再來鋭意之が 完成に努力するの覺悟なりしも偶々昨春來の財界不況に伴ひ遂に株式申込の大多數は會社の解散を要求するに至り臨時總會の結果は遂に解散說多數を占め茲に該會社は解散の決議を見るの運命に遭遇せるが尙之が決議を有効ならしむる爲め朝鮮總督府の認可を得るの必要あるを以て現に之が申請中にあり余は往年屢々朝鮮に渡り人情風俗より經濟上の關係に付き觀察し考慮する所ありしさりとて又當時の朝鮮總督たりし寺內伯並に長谷川伯にも會見し

朝鮮開發に關 する意見を述べたる事あり當時總督は朝鮮產業開發の爲には是非とも幹線に通ずる私設鐵道の必要ありと述べ同時に余に對し將來實業家の奮起を望むと語れる事を記憶せり今や朝鮮には不逞鮮人橫行するあり尤も昨今には頗る靜謐なりしも半島統治上當局者の苦心を多とせざる可からず勿論統治策としては諸種の施設あらんも先づ鐵道敷設の如きは最も緊要缺く可からざる事業たるべし而も此の事業たるや巨額の經費を要し個人の力を以てしては到底成就し得べきものに非ず宜しく協力一致して事に當るの覺悟なからざるべからず況んや

內地に對して 投資するに非ず新領土に投資するものなれば前途の目的安定を前提とせざる可からず余は之に對しては總督府に於ても充分の保護を與へられたき旨を希望したるに總督府にても亦之に對しては可成的希望に添ふべき旨言明せられたり我が財界の有力者は今後大いに此の方面に向つて放資し朝鮮の交通發達に資し產業開發の途を講ぜられたきものなり朝鮮は天然的の富源少からず內地資本の流入を促さ之が開發を試みるに於ては

新附一千五百 萬の鮮民は之が爲生活の安定を得るや明なりされば內地人は朝鮮新附の民に向つて深甚の同情を以て眼前の小利のみに汲々たらず國家的見地よりして將來此の方面への放資を必要なりと思惟す余は目下齋藤總督並に水野政務總監等にも屢々會見する處あり此等產業に對する政府要路者の意中を忖度するに何れも之を吝ならざるものあり此の言明を得たるを以て當局者の誠意に信賴して朝鮮產業の開發に努力せん考へなり

懸賞文藝
課題『朝』（和歌）　尾上柴舟選

一等　龍山　百瀨千尋
この朝け米が下ゐるよろこびを親と申してきみゝら答ふる

二等　海鷗　露木まなぶ
鄕のたらちねの前に見たくなて盃月にむかひ節づくわれは

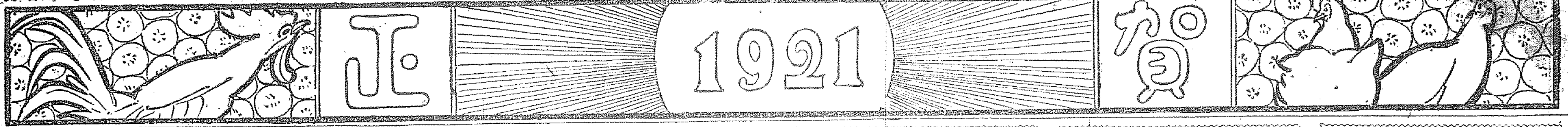
三等　木浦　伊部千代子
赤鷄ひく朝の光もろもろの樹に沁み入らゝ春は來にけり

秀逸　馬山　武永正人
朝寒のしらくあらは鷄らのうかぶが如くあらはれ來るも

京城　朱草子
巢に近くこまりて啼かぬ鷄のすがたさみしき今朝の寒けさ

○
雲のひくゝしたれて鷄のこゑた啼けれは朝はさびしも

野田遞相試筆



一般銀行業務及貯蓄取扱
資本金式百萬圓
株式會社 東海銀行
京城府南大門通一丁目

京城府岡崎町
朝日石鹸株式會社
電話二五六四番
振替京城四〇〇番
電略（ア）又ハ（アサヒ）

京城黃金町二丁目
京城府川龍山間乘合自働車並貸切營業
京江自働車商會
主任 中島七郎
電話 長一三八三番 原田多喜三

京城ホテル
京城南山町三丁目
電話 旅館 長一二三 / 食堂 別館 本川 三九四 / 二三

京城黃金町二丁目
東京建物株式會社 京城支店
電話 一八三一番 長一六八一番

京城本町一丁目
御料理 江戶川
電話 一四六 九二八番

店是三則
一、品質は優良
一、價格は低廉
一、應對は叮嚀
京城本町
堀内滿輔
尙本年も倍舊の御愛顧奉願候

京城旭町一丁目　電話三一七番 一三九一番
懷石御料理 白水
龍山八卷岡跡 會席御料理 新白水 電話四六番

農產器具機械並種苗肥料販賣
戶田農具株式會社
京城南大門通三丁目 電話長三八六番
工場 京城北米倉町

撫順炭
南滿洲鐵道株式會社特約販賣所
京城 三國商會
西村商會
一撫順炭ハ續々入荷地方ハ一貨車以上市內ハ一叺以上御用命次第迅速御屆可仕候
○滿鐵撫順炭安內地炭モ貯炭豐富

朝鮮龍山漢江通十三番地
合資會社 福壽洋行
電話龍山 長六四六番 一〇三八番
出張所 京城府大平通り二丁目電話京城一三四六番

京城府南大門內市場
京城穀物商組合
電話二八四 / 五六六 / 九六四 / 二三番
市場用 同

京城大和町一丁目
株式會社 淺野セメント京城出張所
電話長六六二番

內外雜貨卸商
合資會社
玉植商店京城支店
京城府大門通二丁目
電話二五二番
◎本店仁川外里◎

京城本町二丁目
鳥料理 喜久家
電話一參八參番

京城東新地
御料理 南山莊
電話一五一參番

志岐信太郎

鐵鋼並工業用品
合資會社 南方商店
京城南大門通二丁目
電話一六八・九一七五五番

アイゼル 高麗人參
本舖 井上藥品部

京城本町二丁目八十九番地
株式會社 第一銀行京城支店
電話長一三一一番 二三一七番

京城府本町一丁目十一番地
株式會社 百三十銀行支店
電話長一五八番 九四番

京城府南大門通一丁目十四番地
株式會社 漢城銀行
電話長六〇一一番（同銀行長距離）

京城府本町二丁目五十一番地
株式會社 朝鮮實業銀行
電話四三一番 二八三番

京城府南大門通一丁目十九番地
株式會社 朝鮮商業銀行
電話長五八番 六〇七番

京城府南大門通一丁目四番地
株式會社 韓一銀行
電話長一八九五番 六四三番

京城府黃金町二丁目三番地
株式會社 十八銀行京城支店
電話長四〇二番 五八〇番

京城本町二丁目
巴城館
電話長三二一番 五〇七番

京城旭町二丁目
不知火旅館
電話三二一番 長七一九番

京城南山町二丁目
天眞樓
電話六四九番 長七一三番

京城本町三丁目
山本旅館
電話長三五番 三三六番

京城本町一丁目
淸光館
電話一三五〇番

京城本町三丁目
浦尾旅館
電話長一〇三番 一一七番

有名發賣元 首藤京城支店
京城黃金町二丁目
電話一一七一番振替京城三七一番

（京城酒商組合）

一手發賣元 本莊酒店
京城永樂町二丁目
電話六五四番振替京城六二〇番

菊の譽 世界發賣元 富安京城支店
京城永樂町二丁目
電話長一〇三九番振替京城四五三番

金露 長谷 醸造發賣元 合名會社 大塚京城支店
京城明治町二丁目
電話四〇一番振替京城五七〇番

菊正、白鶴、二羽鶴、澤龜
大日本麥酒株式會社特約店
京城本町三丁目
田中支店
電話七四六番

櫻正宗 櫻 魂 發賣元
京城明治町二丁目
株式會社 山邑京城支店
電話八四七・一四五四番振替京城七五番

菊正宗 白鶴發賣元・サッポロビール特約店
京城本町二丁目
前田合名會社
電話一三七番 振替京城四二五番

金釜、銀釜、大鵬發賣元
京城黃金町一丁目
三巴京城支店
電話八〇番 七五三番

大和心、菊之鶴、部、金露 麥酒特約店
京城本町一丁目
佐藤牧酒店
電話一九・二四八番振替京城二九

淸力正宗發賣元
京城本町二丁目
淸力京城支店
電話長六七四番振替京城一五五六番

有名發賣元 首藤京城支店
京城黃金町二丁目
電話一一七一番振替京城三七一番

元旦倶楽部

童話 鶏林の話

テルミ生

朝鮮の國名を別に鶏林とか鶏林八道とか云ひますが皆さんは何故鶏林と云ふ名が出來たか知つてゐますか。

慶尚北道に慶州と云ふ所があります茲は今より一千八百年も前から新羅の王様が代々ゐた古い都です。此慶州に始林と云ふコンモリした林がありました。此林には神様がゐると云ふ噂が昔から傳はつてゐるので、誰一人林の立樹を切るものもなく林の中へ入るものなぞは一人もありませんでしたから、林は晝間も薄暗いほど繁茂と枝々が重り合つて梟や鵂などの寂しい啼聲さへ時々聞ゆました。新羅の四代目の王様は脱解王と云ふ偉い人でした此脱解王の九年三月日本の時代に較べますと今から一千八百五十餘年前で、丁度垂仁天皇の御代に當るので彼の日本武尊が熊襲御征伐の前頃です

或る朝の事でした始林の傍を通る慶州の人達は始林から黄金色の御光りがパッと射てゐるのを見て誰も吃驚しました。サア神様が居ると傳へられてゐる始林から御光が射したのですから何か不思議が起つたに違いないと噂は口から口へ傳へられ忽ち都中の大評判、物見高い都人は黒山のやうに始林を取圍んで[illegible]

さしてゐました都人はソレ大臣が御出になつたと道を開いて瓠公の行列を通しました、瓠公は轎からおりて此の不思議な有様をながめましたが王命なので恐ろしい様子も見せず二三人の家臣を連れて中へ入りました。見て居た都人は大臣が林の中へ入つて行く有様をながめて乾度神様か魔物か出るに違ひないと息を凝して凝乎と見詰てゐました一分二分と過ぎても何の騒ぎも起りません、林へ入つた瓠公は光を頼りに草木の茂みを掻分けて中央に進むと太い槐の樹の枝に眼も眩む程に輝いてゐる黄金の櫃がかゝつてゐて丁度其頂に眞白い鶏が一羽立つてゐました。そして其鶏は瓠公達が入つて來た姿を見て驚いた様子もなく却て喜んでゐるやうに羽搏きさへして清く澄んだ『コケッコー』を幾度か繰返して啼きました。

大臣瓠公は餘りの不思議に一時は棒立ちになつてゐましたが正直な人間には恐ろしい事は何もありませんので正直な大臣は漸く決心をして樹の枝から金の櫃を家來に下させてよく調べると蓋が開くらしいので其蓋を取りました。中からはオギアオギアと云ふ啼き聲と共に立派な赤兒が出たので大臣も吃驚しました そして此赤兒は人並はづれて身體も立派、顔も氣高い神様の赤兒のやうでありましたから、大臣は兎も角自分の著てゐた絹の[illegible]に包んで大事に捧げ金の櫃を家來に持たせて元來た路を引返して來ました。林を取捲いて居た都人は先刻から大臣が殺されたのではあるまいかと噂をしてゐた時に、鶏の聲が賑やかで赤兒の啼聲がしたので一體如何した事かと待つてゐる處へ大臣が赤兒を抱き家來が金の櫃を持つて出[illegible]く定められてしまひました。大臣瓠公は直ぐ城へ戻つて斯様云々と出來事を細かに申上げて赤兒と金の櫃を王様に捧げましたので王様も殊の外御喜びになりまして此赤兒を御手許で育てられる事になりましたが此赤兒こそ金閼知と申して後に新羅の英主朴赫居世の後をついた王様になつたのです。新羅は小さな國でしたが赫居世の王様の時から段々盛になつたので後々の新羅の王様はみんな此始林を尊び白い鶏に因んで鶏林と改め國號をも鶏林と云ふ御布令を出され遂に御名を継て千餘年の後迄傳へる事になりました。今でも此石碑が鶏林の碑として現存してゐます。此れが鶏林の噺です。（をはり）

トサカの褒美

長野生

或國に情深い王様が居られました。其お后は男勝りで何事に就いても王様より先に口を開き何事も男より女が偉いと云つて威張られますが王様は常にお后に勝を譲つて居られました。それで國中の女は皆男より偉がり我儘で暮しました。

王様には一人の王子がありましたが父王様に似て氣立の優しい情深い方でした。或日の事王子がお后の部屋で遊んで居らるゝ時、何うした機みか、お后の大切な花瓶を落して壊してしまつた。王子は泣いてお詫しましたがお后は仲々宥して下さらず『何か一つ功を立つる迄歸城してはならぬ』と厳しい申し渡しに、王子は泣く〜城を出て何處を目當もなく、彷徨ふ中、大きな森の邊まで來ました。其時森の中から二羽の鶏が、狐から追はれながら王子の傍に逃げて來て、助を請ひました。王子は可愛想だと思ひ劔を抜いで狐に向はれたので狐は敵はぬと見て、一目散に元の森に逃げ込みました。鶏夫婦は涙を流して御禮を述べそして御供させて下さいと願ひました。王子も一人旅で淋しいから伴れて行く事にして右の方に曲り深い谷川の傍に來ました。橋が無いので向ふ岸に渡る事が出來ず思案に暮れて居りま[illegible]助力して貰つたのです。[illegible]の前は深い川で飛び渡る[illegible]餘り離れて居るし後からは狼が牙をならして追つ掛て來るので危險は刻一刻と近づく、王子も只死を待つ計りでした。其時お供の鶏は、王子を慰め王子が持つて居られた絹の端を啣へて、向ふ岸に飛渡り、それを木に結び付け乍ら早く渡りなさいと叫びました王子は喜んで其一端を木に結び[illegible]

に縋つて難なく向ふ岸に渡る事が出來ました。其時狐と狼は唸り乍ら悔しがつて居りましたが幸ひ絹が向ふ岸に縋つて居るので二匹とも絹を傳つて渡り初め、恰度絹の眞中に來た時王子は劔を拔いで絹を切られたので、二匹共眞逆樣に川中に落ちて死にました。それから王子は鶏を伴れて一日中歩き續け腹が減つて一歩も行けなくなりました、牝鶏は之を見て直に卵を生んで王子に進めました王子は喜んで食ますと非常に元氣がつき、お腹も一杯になりましたが、急に睡氣がさして大木の下に、やゝ〜と眠られたので鶏は木の枝に止まり、王子の見張をして居りました。夜はだん〜更け渡り空には星がギラ〜と光り草木も靜かに眠つて居る頃、一頭の大蛇が人の臭を嗅ぎ付け目を光らし、大口を開いてノソリ〜と王子の傍にやつて來たが王子は什麼事は夢にも知らずスヤ〜と眠つて居られました。大蛇が間近に來た時鶏は一番の時を告げ知らす爲め一聲高く羽叩きして『コッケコッコウ』と鳴きましたから、王子は其聲に驚き眼を醒まして四邊を見廻せば目の前には大蛇が大口開いて今に一呑にせんとして居りました。王子はガバと跳起劍を拔いで斬り懸りましたが大蛇は少しも驚かず益々猛り立つて恰度二時間許りも闘つて居る中王子は疲れが出て今は危く見ねました。木の上の鶏は眞暗で目が見え[illegible]

『王子様御固なさいませ助太刀致します』と叫び乍ら枝から飛び降り二羽が大蛇の左右から飛掛り大蛇の眼玉を嘴で啄き足で蹴立てたのでさしもの大蛇も目が見ねず只ノタ打つて悔しがつて居りました。之に勢ひを得た王子は到頭大蛇を斬り殺し多くの人に害を與へた大蛇を退治して功を立てそして大蛇の頭に在つた玉を取りましたから急いで鶏を連れて王城に歸り、王様とお后に御目通りしてその物語をされましたので王様とお后とは非常に喜び供の鶏は城内に養つて置く事になりました。すると牡鶏が毎晩々々時をつくつて鳴きますからお后は不思議に思はれ或日鶏に向つて

『お前達は毎晩時を違へずに何故鳴くか』と問はれますと牡鶏は

『ハイ私は人間の寢て居る時に夜が明けるのを知らせる爲に時を違へず鳴いて居ります夫れで人間は私を時告げ鳥と申して居ります』

お后は感心されて更に牝鶏に向ひ

『お前は同じ鶏で何故鳴かぬか』と問はれましたすると牝鶏は直に

『お后様夫れは妾は女ですから鳴きません妾は卵を生み子供を立派に育てるのが私の役目です妾達の仲間では女が男と一樣に口を出すと何か惡い事が有るとて非常に嫌がります』

聞かれたお后は身を顫はせ乍ら王様に可嘆に頭を下げ

『妾は今迄女の身を誤つて居りました今鶏の話を聞いて女が男同樣に口出しする事は惡いと始めて氣が付きました今から心を入れ替へ改めて王子を立派に育てます』、

と涙乍らに謝まられました王様は大層喜ばれ、そして國も亦非常に能く治まり國民が幸福に暮す樣になりました。王様は鶏夫婦を召して

『王子の危險を助けて呉れたのみならず國内を幸福にする事を教へて呉れた……先生である……』

とお褒の言葉を賜はり褒美として庭に美しく咲いて居た紅い綺麗な『けいこう』の花を取り鶏の頭に冠らしてやりました……鶏は夫を今も何記念として冠つて居ります……鶏は嬉しくつて堪まらず東を向いて『コッケコッコウ』と鳴きましたそれから國中はよく治まり榮えました。

七つの星

ひとし

むかし朝鮮のあるところに、一人の殿様がありました。臺灣の半分と同じ位この廣さの土地は皆この殿様の領分で、すばらしい威勢でありました。で領内も穏かに治まり何も御心配はない筈だのに、何故か[illegible]

御家來のたれかれは皆いひ合はせたやうに、

『どうしたわけでせう』

と心配でなりません。

ある一人の忠義な御家來が、そのわけを伺つて見ますと、殿様は奥様との間にお子様がありません。そればかりを苦にせられてゐる。といふことがわかりました。

× × ×

ある夜の明け方、殿様は何時になく早く床をおはなれになりあはたゞしく一番お氣に入りの御家來をお招きになつて、

『私は昨夜、不思議な夢を見た、北門のあたり、城壁の上から空を眺めてゐると、何處からともなく、七つの星が一時に長い〜綺麗な尾をひいて、私のすぐ前に並んで落ちた。と思ふと、あまりのことに眼を醒ましたきり眠られなかつた』

と聞いた御家來、

『それは何かのよいお知らせに違ひありません。兎に角、私が北門に行つて見て參りませう』

御家來は大急ぎで北門まで驅け着けて見ると、これは不思議今まで見あたらなかつた大きい岩、小さい岩が殿様の夢の星の數と同じく七つずらりと並んでゐます。そしてまだ不思議なことは、その岩の傍に玉のやう

な男の子が、桃太郎が桃から生れた時のやうに威勢よく立つてゐました。

このことを歸つて申し上げると殿様はもとより、奥様の喜びは一通りでありません。

『これは日頃私達が子供がなくて歎いてゐるのを神様がお憐みになつて、授けて下さつた子供に違ひない。何よりのことである。』

と仰せになり、俄に殿様は馬、奥様は駕、それから多勢の御家來を從へ北門までお出懸けになつて、かねて用意の七つの駕へ七人の子供を奥様御自身で一人〜お抱き入れになりました[illegible]うとする頃でありました。

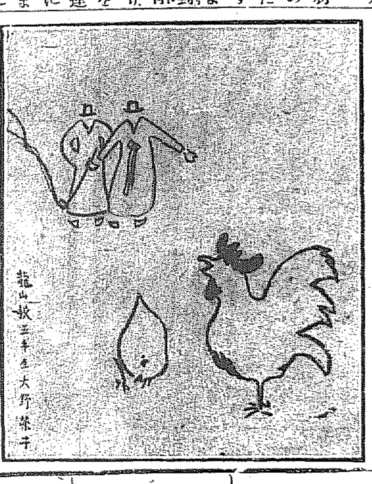
これを聞き傳へた御家來は代る〜お喜びを申し上げにと御殿へお伺ひする。町人や百姓までが

『これはお芽出たい』

とお城近くまで押し掛てまゐりました。

× × ×

こうしたお芽出たいぞめきの裡に夜はもうすつかり明けはなれて。東の空からは、うら〜と朝日がのぼります。今まで愁はしく曇がちであつた殿様のお顔には晴れやかな色が浮いて、御家來達も生々した氣持になりました。そして御殿はこれまでとはうつて變つて、お正月のやうな賑やかさとなりました。



山手校五年生 大野[illegible]

龍山校五年生 大野茶子

笑話

忘八

○

物識り『鷄の尾 長いのは馬來半島が本場だと云ひますが内地では土佐へ行くと深山飼つて居ますが然し何ですか本家本元は朝鮮だと云ふ事です 朝鮮の慶州の方には今でも あの長い〜尾を垂れた鶏が林の中に居ると相です』

半可通『夫れで 朝鮮のことを鶏林と云ふのですな………』

○

坊『お正月は日本から來るつて[illegible]お母さん……』

母『さうよ』

坊『それから何處へ行くの』

母『滿洲の方へ行くよ』

坊『それから何處へ行くの』

母『西伯利亞の方へ』

坊『それから』

母『露西亞の方へ』

坊『それから』

母『獨逸を通つて佛蘭西の方へ行くよ』

坊『それから何處へ行くの』

母『英吉利に行くよ』

坊『それから』

母『大西洋を渡つて亞米利加へ行くのだよ』

坊『それから何處へ』

母『それから太平洋を渡つて日本へ來て又朝鮮へ來るのだよ』

坊『お母さん僕はお正月と一緒に旅行したいなア………』

○

甲『近頃は色々な變態な熟語が出來ました例へば法螺吹の事をプロパカンダと云ひますし字の下手な事を六[illegible]

乙『左様々々常識の無いのを肛門に栓（コンモンセンス）が無いと云いますな』

○

[illegible]云ふので何處かへ逃乗りと洒落込んだ[illegible]

正賀

- 仁川宮町二番 米雑穀肥料商 橋本貞一商店 電話三五八番
- 海陸運送業 内外船舶代理店 野口商會 仁川本町四丁目 電話一七三番
- 新義州三井物産出張所 長澤紀代司 電話一一二番
- 新義州常盤町 木材商 横江商店 電話一四六番
- 鮮滿木材車輛株式會社 本店 神戸市榮町 支店 新義州鴨川町 電二四〇番
- 新義州常盤町 新義州金融組合 電話一七五番
- 新義州電氣株式會社 新義州府濱町
- 朝鮮商事信託株式會社 新義州本町 電話一四一番
- 安東縣大和橋通 全科 土井醫院 土井朝松 電話一三七番
- 安東窯業株式會社 營業所 大和通六丁目 電話一三二番 工場 安東[illegible] 電話三〇二番

- 朝鮮仁川港 合資會社 足立組 電話九一五番
- 仁川本町一丁目 艀人夫請負並通關業 福島組 電話五三五番
- 仁川支那町 仁川水産株式會社 電話二八六番
- 仁川海岸町 米雑穀委託賣買 尼ヶ崎汽船元扱店 高杉昇商店 電話長五五番
- 仁川本町一丁目 運送並ニ通關業 慶田組本店 電話四二番
- 仁川 吉松憲郎
- 仁川 郡山智
- 仁川内里 諸雑貨卸商 赤松誠吉商店 電話七六六番
- 仁川本町 藥種卸商 北島藥店 電話二三四番
- 仁川港町六丁目 内國通運株式會社 仁川支店 電話長二二八番 五五九番
- 仁川海岸町 海陸運輸業 税關貨物取扱 各種保險取扱 協同組 電話長五二番 八二〇番
- 仁川本町 諸雑貨卸商 井上吉藤商店 電話八六番

- 仁川濱町 仁川造船鐵工所 電話二三八番
- 朝鮮精米株式會社 仁川支店 仁川濱町 電話長三五番 九二五番
- 仁川本町 砂糖麥粉卸商 合名會社 中嶋仁川出張所 電話長六二番
- 仁川驛前 増井運送本店 電話二三〇番
- 仁川宮町二丁目 御料理 榮亭 電話四二九番
- 仁川仲町 銃砲火藥商 共榮社 電話七五番
- 仁川仲町一丁目 御料理 朝日樓 電話五三番
- 仁川仲町一丁目 仁川ホテル 電話五一二番
- 仁川通關組合
- 仁川海岸町二丁目 貿易商 庄野仁川支店 電話長五四番
- 仁川海岸町 不二商業株式會社 仁川支店 電話六三三番
- 仁川吳服商組合
- 仁川濱町 諸機械製作 鑄造物一式 土井鐵工所 電話[illegible]八番

- 仁川本町 綿布砂糖商 麥粉 森文治郎 電話七二九番
- 仁川海岸町三丁目 米雑穀仲立業 共益組合 電話一〇一四番
- 仁川宮町八番地 富永嘉藤壽
- 仁川驛前 中條榮藏
- 仁川本町築港通角 浦崎商店 電話一〇八番 五〇番
- 仁川濱町 吉田精米所 電話一七番
- 仁川本町四丁目 磯永洋服店（電話二五番）
- 仁川山手町 料亭 うろこ 電話六八番
- 仁川金融組合
- 仁川仲町二丁目 米雑穀貿易 安井商店 電話長五一七番
- 仁川萬石町 籾摺精米業 朝鮮物產株式會社 電話四〇一番
- 仁川宮町 上田文次郎

- 仁川 水道局員一同
- 仁川花房町 稅關貨物取扱人 滿鐵小運送店 合資會社 中村運送店 電話長二八五番
- 仁川宮町 履物商 村上商店 電話六一二番
- 後藤連平
- 天下の名釀 白鶴 特約賣捌元 合資會社 増田屋商店 仁川本町 電話長一〇九番
- 貴金屬時計商 糸岐商店 仁川本町四丁目 電話三七〇番
- 仁川山手町三丁目 株式會社 奥田精米所 電話長六〇八番
- 仁川本町 米穀商 平山松太郎 電話一五三番
- 艀船人夫請負 通關手續 物運送 大和組 仁川仲町 電話五三八番
- 仁川築港前 旭旅館 電話二五一番
- 仁川外里 日鮮人向雜貨商 玉植商店 電話六五一番
- 仁川本町四丁目 回漕業代理業 浦崎商店 電話長一〇八番 五五五番

- [illegible]
- 本年[illegible] 平壤運送業組合（イロハ順） 大[illegible]株式會社 平壤支店
- 賣京竹[illegible]製 [illegible]特約店
- 貿易商 [illegible]
- 全北全州大正町 [illegible]

…は早速御前を…て行列を造つて安詳しながら大國や家來からすこし、遠か森の方から。前の狐…て咳を出まして姉林に駆け著けました。林の中の不思議を聞いて驚きましたが、此時も前と同じやうに林の立樹から黄金色の光りが…したが是は必ず神様の御子様だ…師の子に違いないと誰云ふとな…が狼と共に砂を蹴立て追つ掛けて來る樣子でした。狐は先刻の敵打ちに…狼を顧ん…たが王子が危く見ゐた頃ほのぼのと東の空が白くなつて、夜が明けました。雞は見るなり…顔の色がすぐれません。平生の元氣はなく、たゞ一間に閉ぢこもつてばかりゐられました。…から内へ撒き込んだ時は、もう東の空もほの\/と明け放れ…

ゆめ物語　百年後の京城（上）
鳥山博士びつくりの巻

一、航時機

鳥山理學博士は、今日も亦その苦心發明になる『航時機』を引つ張り出した。『航時機』と云ふのは、讀んで字の如く、『時』を航する機であつて、一度是を操縦すれば、現實世界から一足飛びに、過去未來何れの世界へでも、自由に往復する事が出來る、と云ふ至つて重寶な機體である。形態は大體に於て飛行機に似て居るが、飛行機のやうに翼はない。然も非常なる高速度を有し、百年二百年は瞬く裡に航走して了ふ。實に空前の大發明、近代文明の一異彩である。

鳥山博士は、颯て機首を京城に向けてスイッチを切つた。機は須臾にして發進を始め、恐ろしい勢ひで『時の流れ』を溯航し出した。不圖特別裝置の記錄計を見ると、針は丁度10のところを指して居る。

『オヤ、何時の間にか百年經つたぞ、宜しく\/、百年後の京城はどんな樣子か、一寸覗いて見やう』

鳥山博士は斯う云ひながら、バッタリ運轉の手を止めて、颯と機上から飛び下りた。

二、最初の失敗

百年後の京城に來て、先づ驚かされたのは、市街の馬鹿に廣くなつた事と建物の馬鹿に大きい事だ。寄せ木細工のやうに種々の形をした色石板を、配合巧に敷き詰めた、裝飾式道路の兩側には、十階、二十階、三十階なぞと云ふ大建築が、蒼穹を帶のやうに狹く且つ細く見せて居る。市街は何處まで行つても碁盤目のやうに、正しく整理され、百年前に見た日本建だの、温突だの、と云ふものは藥にしたくも見當らぬ。

『いや早隨分變れば變るものだ。桑田變じて碧海と化す、とは正に此の事だらう』鳥山博士は今更の如く、時の力の威大さを沁々と感じながら、宛ら外國にでも行つたやうな氣持で、唯キョロ\/と驚異の眼をみはるのみであつた。無論、今居るところが何處やら、何處を何う行けば何處に出るのやら、さつぱり見當さへ付かぬ。唯僅かながらも、昔の面影を止めて居ると思はれるのは、南山北岳など、一部の山の姿と、南大門位なものである。鳥山博士はすつかり途方に暮れて、折柄通り懸つた辻待自動車を呼び止めて

『御苦勞だが朝鮮ホテルまで案内して與れ』と云ふと、運轉手は怪訝な顔をして

『ハッハ……ハッハ……』と……『御冗談にも程があります。貴方は芝居をなさるんですか』博士は聊か憤乎と腹を抱ねる。

『おい\/馬鹿も休み\/云へ。吾輩は決して芝居はしてらぬぞ』と云ふと、運轉手は益以て堪らぬと云つた風に笑ひ轉けながら、

『芝居はせぬと被仰つても、其のお言葉其お身柔が既に芝居ぢやありませんか、今頃そんな古風な身柔をして、そんな古風な言葉を使ふものは、芝居より外には無いぢやありませんか』と云ふ。鳥山博士は驚いた。何處でも立派に通用する吾輩の言葉、吾輩の身柔を、百年と云ふ時の距りは、既に前世紀の遺物にして居る……鳥山博士は斯う思ふと、さすがに穴へでも這入りたいやうな、同時に此の世の中から一人取殘されたやうな、如何にも暗い寂しい心になつた。

三、自動車の下駄

斯うした經緯があつた後、博士は兎も角も車上の人となつた。そして目指す朝鮮ホテルに向つた。途次運轉手に就て訊くところによると、文化の發達は異常なもので、單に外觀上ばかりでなく、政治、教育、產業、交通など、すべての社會組織に亘つて、大變な變化があつたらしい。今の言葉の問題なども、人爲的の無意味な階級を打破する爲に、夙くから『です』『ありません』と云ふ風に統一され、博士の使つたやうな亂襍な言葉は、その服裝と共に古典派の演劇にでも行かねば、到底耳にする事は出來ぬと云ふ事である。博士は特に運轉手に頼んで徐行して貰つたので、途次、ゆつくり市中を見物する事が出來た。市中は自動車と人とで織るやうな賑ひである。そして車上のこ、

人、道往く人、何れを見ても百年前のやうに、和服や洋服を着て居るものはなく、男も女も皆輕業師のやうな變挺な風采をして居る。つまり衛生、經濟、活動と云つた方面から研究し、時代の趣味や好尚を參酌して、考案されたものであらうが、博士の眼には此の方が餘程可笑しく映じて、危く噴き出さうとした。道往く人などと云へば非常に呑氣に聞ねるが、實際はナカ\/何うして、歩くと云ふよりは寧ろ滑べると云つた方が適切な位速い。男も女も、丁度『氷滑り』でもして居るやうに、滑べるわ\/。さすがの博士も悔りして、好くよく注視すれば速いも道理、指小さな自動車を、兩脚に履いて居るのだつた。不思議な事には、是程繁華な市中に、電車も馬車も自轉車も見當らぬ。運轉手に訊いて見ると、

『何しろ當今は自動車が非常に發達して居ますから、百年前の古いお頭では迚もお解りになりますまいが、實は此自動車即ち電車です。昔は自動車にガソリンを使用したものださうですが、當今の自動車は、すべて發電所から送る電波によつて動くのです。尤も昔の、所謂電車に似た箱のやうな自動車はありますが、それは貨物專用として、地下道を運轉して居ます』この

『なつ地下道が……そんなものが何時出來たのです?』前の失敗に懲りて、博士の言葉は馬鹿に叮嚀だつた。

『もう餘程前の事です』

『實に驚きましたな、我々が京城に居た時代には、漢江の治水工事さへ出來ないで、沿岸一帶の住民は、每年洪水に苦んだものですよ』

『へゑそんな事があつたんですか、宛で嘘のやうですな』運轉手は斯う云つて、蓄音機仕掛の警笛を鳴らした。警笛は歌劇の合唱のやうな調子で、

『私や自動車、走るが仕事、往來あ好けれど、人様やうるさい、皆さん早く、避かれぬうちに、退いて下さい。ブウ\/\/』

と唱つた。博士は鳩が豆鐵砲を喰つたやうに眼ばかりパチ\/。（悉水）

西大門小學校五年生　吉池　浩

みかん
南大門小學校第五學年　加藤晉次

何といつても果物の中で、僕は一こうみかんがすきだ。第一あの味のいゝこと。こゝに湯からあがつて、先づ一ふくろふくんだ時のきもちは、何ともいへない。僕にくはしたら、十や十五はぺろりとやつゝけてしまふかもしれない。去年もあんまりたべたおかげで、顔や手足が黄色くなつてしまつた。これを僕が名づけて『みかんおうだん』といふのだ。第二にあの暖かさうな色と形が、冬の果物らしくてじつによい。お正月のかるた會のおざしきに、黒塗の大盆に、山のやうにもつてあるところなどは、見るだけでもいゝきもちになる。へやが一そう明るいやうな氣持がする。僕は一度でもみかんのなつて居る所が見たい。どんなに奇麗だらう。南國の海に近い小さな村の岡の上なぞに、黄色にみかんがなつて居る、遠くには白帆を一つうかべた海が見ゐる。僕はこんな景色をそうぞうして見るのだ。みかんといへば紀文大盡の話を思ひ出す。『沖の暗いのに白帆がみゐる　あれは紀の國みかん船』……をやつぱり思ひ出す。紀州から江戸まで、みかんをつんで、やみのやうなあらしの海をのりこしたといふ紀の國や文左衛門は、何といふ男らしい人間だらう。こんな話はみな死んだ祖母から炬燵の中で、みかんをたべながら聞いたのだ。小さい時分のことは、やつぱりみかんを見れば、思ひ出すやうな氣がする。

酉の歳
東大門小學校五學年　松田ゆき

『お母さん、私の歳がきてよ、酉の歳が、ごちそうしてちやうだいね』私はいつもこんな事をいつてゐます。だつて十三年目、十三年目に自分の年が來るのですもの。それに今年の酉歳は、元日がねずみの日で、お父さんの歳です。私の身に取つては、こんなにめづらしく、うれしい年は今までにありません。私は酉歳の生れが、大じまんなのです。おんどりは美しい尾をたれ、頭の上には王様がおかむりになるかんむりのやうなとさかを附け、毎朝早く起て萬物の長とまでいはれてゐる人間に時を知らせます。めんどりはおいしい、じやうになる、きれいな卵を生みますもの。

こんな事を考へ合せて見れば見る程、昨年の此の秋まで家にかつてあつた、雞のことが思ひ出されます。きつと今年は、『自分の歳だ』と、言ふので、學校へも一しよについて來て、皆と一しよにお正月の歌を歌つて、お祝ひしたかつたでせう。又『私の歳です』と。いはんばかりの顔つきや、樣子をして、私のやるお米を食た事でせう。

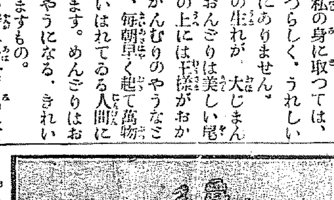
こんなことを考へて見ると、酉についての思ひ出が深い、思ひ出の多い酉……いや酉歳が來ましたのでこんなうれしいことはありません。お正月をすごさうではありませんか。

（一）
東の空は　明けはなれ
高く聞こゆる　とりの聲
今年はお前の　あたり年
たくさんごちそうして上げよ。

（二）
されどお前は　どこにゐる
雪降り積る　冬の野か
星のかゞやく　天國か
おしへておくれ　にはとりよ。
（終）

妻君の元旦

懸賞漫畫
一等　京城大和町三丁目　N生



凸坊『オヤお父さん又鷄を射つて來たの』
父『馬鹿!!今度は家鴨だよ』

賀正

京城本町壹丁目　引手金物商　橋口金物店　電話百四十貳番　振替口座京城四七三番

京城黄金町一丁目　滿陸川諸器械器具直輸入　米井店商京城出張所　電話一六九六番

京城本町二丁目　藥論書商　日之出商行　京城明治町本町角　同支店小賣部　電話九五六番　電話二二七六番

各國時計、金銀眼鏡、寶石指環、美術製品、貴金屬商　京城本町一丁目　平井勳賓堂　電話二一〇二番　振替京城二二六一番

各國時計、美術品　京城本町／　田中兄弟時計商會　電話一五七番

京城本町三丁目　野田時計店　電話長一八七四番

各國時計及附屬品一式　貴金屬用品寶石類美術品製作　京城太平通二丁目　向井時計店　電話貳四五番　振替口座京城三九七番

京種時計貴金屬寶石眼鏡製造販賣　京城本町二丁目（電話八七六番）　富士屋　本店京城明治町貳丁目　支店滿洲奉天・出張所・東京大阪

京城黄金町二丁目　時計卸商　喜多金光堂　電話一〇一五番　振替口座京城七八一番　貴金屬製作卸　豐國火災保險會社代理店

貴金屬品製作　高木勇商店　店舗京城本町一丁目四十七番地　工場京城黄金町三丁目二九一番地　電話九百九十一番　振替口座京城九百番

株式會社　東産社京城支店　京城漢江通四番地　長電話二一三〇番　振替口座京城二二一番　本社名古屋驛前

明治町一丁目十八番地　菓子商　大坪文吉　電話一四八番

龍山倉庫株式會社　電話一四八番

辯護士法學士　武智弘方　京城明治町二丁目百五番地　電話一七九五番

京城旭町二丁目　土木建築請負業　佐藤組　佐藤熊太郎　電話四七九番

陸軍御用達食料品諸雜貨卸商　藤田本店　京城本町二丁目　電話二一九番

本場大島紬織元　勝久商店　勝久堯義　京城本町壹丁目十九番地　電話一九〇一番

毛皮貿易商　馬場商店　京城府永樂町二ノ五六　長電話八九六番　電略（ハ）叉ハ（バ）

朝鮮京城本町二丁目　石川物産商會　長電話一八八四番　振替口座京城一六二〇番

京城岡崎町八　各種石灰製造・左官材料一式　淺野セメント特約　平井九一郎　電話一六七番

英油商會　川勝京城支店　京城南大門通三丁目　電話一〇三一番　振替京城一二五七番

京城府本町三丁目　貿易雜穀　藤富國太郎　電話長三〇八番　長二九〇二番

守屋組平壤支店

呉服物一式　京屋呉服京染店　京都出張龍山三角地　電話七五一番

望月勉

京城黄金町二丁目　自轉車及附屬品　高居瀧三郎　長電話二九六一番　振替口座京城四三三八番

宮崎商店　京城本町五丁目四八　電話一三六五番

海川魚一式御料理仕出し　權平庵　京城本町五丁目二六　電話二一二三七番

京城義州通一丁目　精米業食料品商　石田商店　電話二七一八番

綿糸布商　青見洋行京城出張所　京城長谷川町　電話長五一四番　一一四八八番

京城黄金町四丁目十番地　紡績高麗人蔘製劑所　電話二六七六番　二五九九番　振替口座京城四一三六番　福岡一一三三番

龍山元町二丁目　こまや　植西呉服店　電話九一八　店舗所在地　龍山京町・元町・大島町・…

京城明治町二　印刷文房具　瀬川中央堂　電話長二二八九番

食料品糧米業　下川益一商店　京城本町三丁目　電話一四七〇番　電話長四九七番

京城永樂町一丁目　貿易　關繁太郎　電話四七六番

龍山驛前　太陽舘本店　電話長一六番

京城本町一丁目　金物商　佐野彦藏商店　電話一六三番　振替京城二二一番　千代田火災保險會社代理店　千代田生命保險會社代理店

龍山水產會社　電話一一五番

京城黄金町　時計料商　山岡龜太郎商店　電話一三四八番

京城明治町二丁目　京染呉服　都たまや出張所　電話一一九六番

京城太平町二丁目　西崎源太郎　電話長七二七

サイダー　シトロン　タンサン　果實蜜水製造元　スター　京城清涼社　京城岡崎町八番地　電話一四一〇

梶原末太郎

京城府本町二丁目　和洋家具類　室内裝飾品　製造販賣業　一式　増田本店　電話長百〇九番　振替口座十七番

京城本町二丁目　太平堂名刺　電話三六七番

京城本町二丁目　松金　電話六八六番

美術婦人小間物　有名石鹼化粧品卸問屋　月本政次郎商店　京城明治町一丁目　電話貳八　振替京城七四一番

京城本町壹丁目貳拾壹番地　帽子卸商　淀屋商店　電話八百十一番

京城明治町二丁目　パン木材屋京城支店　電話八七〇番

諸雜貨、直輸入・卸商　瀬戸勝兵衛商店　京城大門通一丁目　電話二七一番　振替（口座）京城二四〇一番

福田家　明治町一丁目　電話一三〇番

京城府本町一丁目　印章彫刻名刺印刷　千代田號　電話八八七番　振替口座九八七番

京城本町二丁目　貴生堂藥房　電話一三八番

京城明治町二丁目　辯護士　小川勝平　電話長四一番

京城玩具商組合長　京城本町一丁目　内外教育玩具　婦人小間物　化粧品類卸商　織田東洋舘　電話二六九八番　振替京城一五六七番

京城龍山漢江通（停車場前）　材木商　大村商店

京城本町二丁目　和洋紙文房具卸商　小間紙　増田利作　電話四二五番　振替口座京城一二五五番

京城府本町二丁目百〇六番地　森啓助

旅行用大鞄及手提鞄各種製造　高木鞄店　京城本町二丁目三六番地　電話一二五四番　一三一三番　振替口座京城三四番　電略（ク）叉ハ（タカ）

慶安太平記

小金井芦洲講演

第五十八席

男『何だね　八『最前から多くの見物の中へ入つて其方の藝を見て居たが却々上手なものだな、　男『ソリヤ當前だ、夫れがどうした　八『ハヽア、貴様大層鼻柄な口の利やうをする、イヤ何は然れ我等先生が大層貴様の藝に御感服をなされ、屋敷へ一つ同道をして、改めて見物をしたいと仰しやる　男『ハヽア何處だ行く先は　八『牛込榎町と云ふ所だ　男『大層遠方だな、俺は酒が好きだが、どうだ往けば飲ませるか　八『酒などはいと易い、何でもお身の望みに任す　男『ウム然うか、では行かないでもないが牛込榎町と云ふと此の酒市中に評判の高い由井張孔堂橘正雪といふ大山師が居ると云ふが何か貴様の師匠と言ふのはその近所か　八『シツ、シイー　男『何だ、犬でもけし掛けるやうな聲を出して……　八『その由井張孔堂先生は我等恩師だ、我等其門人樋水八藏と申す　男『ウム、嫌な野郎だな貴様はその大山師の弟子か、フーン而して俺に來て藝を演つて呉れろといふのは、その大山師が言ふのだな……　八『さう大山師、大山師つて言ふな、ところで一つ同道して呉れ　男『厭だ、俺は往かねエ　八『何故だ　男『何故でも俺は厭だ、第一由井と言ふ山師が氣に入らねエ、そんな所へ往たくないからまァ後免蒙る　八『然んな事を言はんで來て呉ろ　男『どうしても俺は往くのは嫌だ、また、どうもあの位天下を惡にして居る奴は無いからな、どうも俺は蟲が好かない　八『さう惡く言ふものでもない　男『イヤ惡く言ふなと言つたつても、俺はどうしたつて氣に入らないと斯う言んだ、それがな、若し往つて酒一杯飯一碗でも出されて、それを食つたり飲んだりして見ろ、それが最後で自分の思ふ事を言ふ事が出來ぬからな、まア往かんでも縁もなければ由縁もないやうにして置くが好い、されば、こそ俺の黒い目で見て言ふところが本當だよ、惡口でも何でもない　八『汝は何しろ斯うして、供をして來て居るんだから恩師とも言ふが好いが、先生とも言ふが好い、他人の俺から言へば蟲の好かね大山師だ　八『コレ、汝のやうに大それた事を言ふな、でどうか兎に角俺が頼むから一つ往つて呉れ、俺の頼みだ是非往つて呉れ　男『フン然うか、イヤ夫れちや往つてやらう、貴様の頼みだからな』と大層、恩誼に掛けたもので、一方は腫物に觸るやうにして牛込榎町の張孔堂道場まで連れて來たが、何ぞ圖らんこれが秦野武部と言ふ天文學に通曉して居りまする學者で、これを見抜いたる正雪、自分の道場へ留置いて自分の師匠のやうに優待を致します、されば此の人の力を藉りて品川沖に於て當時旱魃に付いて雨乞ひをして、又復正雪が天下に名聲を博することゝ相成りまする、爰にお話し變つて、播磨明石に木下若狹守の御家來で戸村丹南と云ふ醫者がある、其人の總領を丹三郎と言ひ、家内が早く逝つて後妻を迎へてその腹から生れたのが甚之助、ところが此總領の丹三郎は醫者の家に生れながら骨太で肉付きが好く、荒いことのみが好きで幼少の頃から兎角に武藝を好んで親が教へる醫道の研究なごには更に心を向けない、丹南もそれには困つて了ひました、其處へ後妻の腹から甚之助と云ふ見供が出來て見ると一層此子に愛が増す、此邊から能く世間にある繼子話なんてものが始まるので、丹三郎愈長ずるに從つて、曾て傷寒論を一冊讀んだ事なく、腰に長やかなる大小を打込んで諸方の道場と他流試合なんぞに出掛けるといふ有様。

新刊紹介

▲改造（新年號）　吾國の象徴（白村）ラッセル評傳（高信）中産階級滅亡論（均）列國社會運動家及革命家評傳は堺利彦、加田忠臣外數氏の名著、自己の要求（武郎）新國民主義（孤雁）其他社會運動記事等趣味多きものあり、更に卷頭「愛國心の功過」と題するラッセル氏の論文及び附録として新進大家の創作九篇二百餘頁は正に之れ錦上の花ともいふべく新年雜誌壇の一異彩である（一冊六十錢東京芝區櫻田久保町改造社）

▲現代（新年號）　從來の偏せる窮屈な編輯法に依らず多年苦心研究の結果成された雜誌だけに斯の其奇抜な點に於いて無二、趣味實益共に備へたあたり凡ゆる方面の讀者を滿足せしむるに足る、本號の内容亦多くを説明せずとも六百頁の大冊なるに見るも如何に多くの努力を費されてゐるを窺ふに足る、實に最近雜誌界の驚異といふべきである（一冊五十錢東京本郷區駒込坂下町大日本雄辯會）

一月二日

舊曆十一月廿四日

▲日曜日▲乙丑▲二黑　▲暗劍未申

▼二黑▲僅の過失も福德離れ去る因となる、新事控へにして吉
▼三碧▲復雜な問題を持込まれ易く約束事はぬかりがち新事は凶
▼四綠▲行詰まり生ずる事あり營業は利なるも新事喰違ひ多し
▼五黃▲向上發展の日なるも急ぎては失敗を招く衛生注意肝要
▼六白▲信用を増すの日起業開店求職は素より金談婚約等亦吉
▲七赤▲内に和を保ち外に大發展の日元氣を出して進むに有利
▼八白▲晴に落ちざる事あり油斷すれば大なる破れを來す用心
▼九紫▲午前惱ね沈滯午後著しく活躍の日新事業の計畫有望
▼一白▲諸事總まげ惡くとも不平不足は言ふまじき日舊事は吉

一月三日

（舊曆十一月二十五日）

▲月曜日▲丙寅▲三碧　▲暗劍東方

元始祭

▼三碧▲過失なくとも恨まれ易く女子は特に行儀を守るべし
▼四綠▲内にあれば相當の利得ある日文藝方面に吉出商内に損
▼五黃▲諸事中庸を得ざれば大破れを來す遠くへの旅行は見合
▼六白▲自ら高ぶれば危く骨折損に終り易き日新しき計畫不利
▼七赤▲逆運の日なれば勢ひに乘じて飜りに進むは宜しからず
▼八白▲忠實に常業を守りさへせば安全の日思惑賣買破れ多し
▼九紫▲大なる幸福廻り來る日女は行儀を守りて出世の緒を得
▼一白▲日頃至難な事も此日順調に捗るべく遠巡はず進んで吉
▼二黑▲頻りに財物の出たがる日短氣は友を失ふ因と知るべし

謹賀新年

仁川宮町 茶菓雜貨商 青島商店 電話長七〇九番
仁川歌舞伎座前 近江屋旅館 電話六四九番
仁川仲町二 俵屋旅館 電話七四七番
仁川 各宗寺院
仁川宮町 西洋料理 東洋軒 電話三三四番
仁川宮町 洋酒煙草 越智商會 電話七三八番
仁川港青物市場 食料品問屋 若林本店 電話四一九番
仁川新町 諸雜貨商 津田兄弟屋 電話七六二番
仁川濱町 石炭セメント商 加賀田商店 電話四一二番
仁川 熊野惠賜
仁川 齋藏小一郎
仁川本町二丁目六番地 藤井八重藏
仁川寺町 蔬菜 芝モト 電話四一八番
仁川本町四丁目 日鮮向雜貨商 南方商店 電話一六六番
仁川支那町 村谷石炭部 電話八一九番
仁川濱町 木材商會 電話長三一二番
仁川本町四丁目 大清菓子店 電話一四八番
仁川濱町 馬場精米所 電話長六四二番
仁川宮町 舶來雜貨 明治屋 電話六二四番
仁川宮町 米穀雜貨肥料商 松本要五郎 電話長八一五番

仁川松林里 岩本牧場 電話七六七番
仁川本町一丁目 藤木商店 電話四〇番
仁川松函石油組合 電話七一五番
朝鮮燐寸株式會社 燐寸工場 仁川府金谷里 軸木工場 新義州府鴨川町
仁川 吉田秀次郎
織物雜貨貿易商 戸出物産株式會社 仁川支店 電話七八番
仁川本町四丁目 別府自働車部 電話六六〇番
砂糖麥粉直輸入商 京城德永商店 仁川出張所 仁川本町四丁目 電話一四七

京城府太平通二ノ一 自動車専門 人力車製造業 貸自働車 堀商店 電話二二九〇番
仁川本町一丁目 花屋旅館 電話五四九番
仁川宮町 和洋雜貨 伊藤商店
仁川宮町 木村幸三郎 電話四六番
仁川濱町 仁川旅館 電話四三五番
仁川 渡邊岩治
仁川龍岡町 材木建具 古家賣買 楢崎商店 電話一四四番
仁川仲町三丁目 磁器陶器一式 陶榮支店 電話四三一番
仁川宮町 御料理仕出し 三吉野 電話四〇八番
仁川新町三丁目 野田紙商店 電話四四四番
仁川新町 小間物商 岩見屋商店 電話九四〇番
仁川仲町一丁目 製粉並精米業 園田助五郎 電話八五・三五四
仁川新町 河井酒店 電話長三一五番
仁川新町二 鶴屋菓子店 電話八四六
仁川 福田廣吉
仁川濱町 御料理 新門 電話二〇九番
仁川青物市場 食料品問屋 中村嘉本店 電話九三七番
仁川新町 うどんそば 成金 電話三三四番
仁川本町四丁目 太田與吉商店 電話三三九番
仁川本町 大石商店 電話四〇〇番
仁川仲町一 原金旅館 電話三三番
仁川本町四 河野自轉車店 電話二六五番
仁川新町三丁目 松浦元三商店
仁川濱町 大二商會 電話長五一〇番
仁川本町二 龍榮堂 電話一五五番

仁川宮町 本田靴店 電話八二五番
仁川花町三 三巴醬油釀造所 電話七一三番
大阪商船株式會社 仁川支店 電話二一〇〇番 五五〇番
仁川穀物協會 電話三一二番
製鹽並回漕業 仁川海岸町 堀力太郎 電話長九七番 一〇番
仁川東公園 會席御料理 八阪樓 電話三六番
仁川山手町 會席御料理 銀水 電話一三二番
仁川本町四丁目 海陸運送業 朝日組本店 川手今吉 電話長五二九番

仁川船具金物商組合
仁川本町 德本商店（電話四二七番いろは）
仁川海岸町 加來榮太郎商店（電話七番）
仁川本町 村谷吉藏商店（電話五六番）
仁川本町 村谷勘一商店（電話一三〇番）
仁川新町 美濃谷榮次郎（電話一六番）
仁川本町 白神洋行（電話一八番）

（順序不同）
十八銀行仁川支店 電話長九一八番 一八番
朝鮮銀行仁川支店 電話長三一二番 一一番
朝鮮商業銀行仁川支店 電話八四九番
百三十銀行仁川支店 電話一〇二番
朝鮮殖産銀行仁川支店 電話二四〇番
朝鮮實業銀行仁川支店 電話三三三番

株式會社仁川米豆取引所
電話 二四番 二八四番

府立仁川病院
電話 受附用 一六番 病室用 一〇二四番 院長自宅 一〇二三番

謹賀新年

仁川米豆取引所仲買人組合一同（順序不同）

（へ）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長三一〇番
（仝）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長一〇〇番
（カ）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長一三三番
（太）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長四〇四番
（団）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長九〇五番
（正）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長一八三番
（仝）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長九一二番
（罡）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長六二八番
（弁）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長二四九番
（糸）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長二六四番
（廾）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長三六七番
（イ）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長三三七番
（張）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話八九五番
（カ）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長一七番
（ウ）仲買店 仁川本町三丁目 電話長六一五番
（マ）仲買店 仁川本町三丁目 電話長七〇番
（福）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話一五八番
（玄）仲買店 仁川本町三丁目 電話長五五五番
（十）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長三九番
（川）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長五五三番
（否）仲買店 仁川本町三丁目
（吉）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話二〇五番
（ミ）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長八三番
（一）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話七九六番
（北）仲買店 仁川海岸町三丁目 電話長三一八番
仁川海岸町三丁目 電話長三三一、七六三

京城日報　其の四

酉の年を迎ふ

醫學博士　賀　潔

酉の歳は鷄林問題の年であらう、其解決の年であらう、昨年騒擾事件の勃發以來、有識者間には朝鮮問題が眞面目に研究せらるゝに至つた、此現象は果して喜ぶことか或は悲しむことか、果して喜ぶべきか悲しむべきか、多くの人は悲しきこと悲しむべきこと、思ふて居るらしく見へる、然し觀ように依りては喜ぶべきことゝ善きことゝも考へらる、余輩は寧ろ後者の觀察に立つて見たいと思ふ。

彼の不祥事件は何に由りて起りしや、多くの人は內鮮兩者の疎隔に歸するようである、而して此疎隔は元より昨年始まつた譯ではなく數年來人々の心裏に芽ざし來つたのであるが、昨年の動機に依つて突發的に騒ぎ出したのである、而して雷同性を有して居る鮮人は譯もなく此騒動を大きくしたのである。余輩は元より此事情に通じない新來者であるから是非の判斷を下し或は其眞相を確かむる資格はない、單に人の說に依りて確らしいと思はれたのを取つて論ずるのみである。而して若し上說の所論を眞實とし的中したものとすれば昨年の騒擾事件は晩かれ早かれ又は何等かの形式によつて現れ來るべき性質のものであつたであらう、若し然りとすれば敢て大に悲しむにも及ぶまい、寧ろ喜ぶべく慶すべしとも言ひ得るかも知れぬ、若し之を病に依つて說明すれば病勢が烈しくならぬ中に病氣といふことに氣が付き其手當宜しかつたに相違ない、今日の狀態を以て觀察すれば決して手後れとは思はぬ。心臓麻痺に陥るような事はないのは確かである。今の中に適當なる處置を施せば本復するに相違ない、或は又一層健全なる狀態に進むことも出來よふ。然らば酉の年は鷄林問題を處理すべき歳と思ふ、吾人は其解決を與ふべき歳として酉の年を迎ふるのである。而して此酉の年を喜んで迎ふるのである。

病の起るには素質といふものが必要である、殊に傳染病に於て然りと云ふのである、素質とは病に犯さるべき性質であつて、病原菌が體內に侵入して夫れが繁殖を許すべき人體組織の性質狀態である、換言すれば病に犯されべき人體の弱點が存するのである。此弱點に乘じて病原菌が繁殖して其猛威を逞しうし遂に病症を發し生命を絶つのである。

識者の言を聽くに昨年三月勃發せる騒擾事件は一人の大なる原動者があつて之に附加雷同した爲であるが、朝鮮人には之に雷同すべき事が發生しつゝあつたのである、朝鮮人には合併以來不平の分子がきざして居つたのである、內地人の壓迫に對し不快の念を有つて居つたのである、故に之を誘發すべき導火線があれば直に勃發すべき狀態であつたのであると說明して居る。果して此不平の分子が原因であつたとすれば、之を緩和する方法は懷柔であらふ、德を以て之に臨めば不平の分子は消失し中和せらるゝ譯である、然し茲に一考を要するは此中和策は果して如何程度まで有効なりやといふ問題である。之を病の治療に例へんか、病菌の毒素に由つて中毒症狀を起した時には免疫血清即ち抗毒素を注射すれば毒素は中和されて病は一時に治する、其効果は誠に顯著なるものである、然し其經過を長く觀察するに血清療法を施したるものは一時の急を救ふに止まりて其効力は暫くにして消ゆる、故に其後に至り病が再發し或は再感染する事が多い。此の再發再感染を防ぐには如何にするかと云ふに、ワクチン注射を行ふ、ワクチン注射の効力は血清の如く一時に現れて華やかなることなけれども長時日に亘りて有効である、即ち之に由りて再發も防ぎ又再感染も防ぎ得るのである、但しワクチン注射には一時的反應がある、即ち注射部が腫れて痛んだり、輕き熱を發する等ある、即ち患者には多少の手答へがある、之が最も妙味の存る處である。

血清療法が德を以て施すの意ならば、ワクチン療法は威を以て望むの觀がある、德と威を併せ行ふて治療の道全うしと云ふのである、恩には馴れ易く、威には畏縮し易い、之を適當に用ゆるは獨り名醫の能くする所である。

血清を注射し而して病回復するは中毒の甚だしからざるの證であつて、恩を以て施し而して人民喜悦するは民心の全く去らざるの證である、病回復し中毒去りて健康狀態となるの時に、更にワクチンを注射すれば始めて勇壯健全なる發育を得るのである、民衆の教育、人心の修養には多少手答へのある方法を取らねばならぬと思ふ。斯くの如くにして始めて悠久の平和あり永久の歡喜があると信ずる。

茲に酉の年を迎ふるに當り鷄林八道の天地は春裝を新にして帝國の恩光に浴すべきを希ふのである、紅輪東天に現れて鷄鳴高く響く時一千五百の民草は皆無垢の淨心を以て此年の幸ひあれこ祈るのである、鷄林八道の天地長へに幸福なれ、長へに繁榮なれ。

石塚東拓總裁試筆

丸山應擧筆

酉年の運勢

一白水星＝午酉子卯＝ 四、十三、二十二、三十一、四十、四十九、五十八の人

萬事心のまゝに進む年で目上の引立を受け商賣は繁昌する△正月は兎角不如意がち△二月は利得あり△三月は諸事順調△四五六月は內外に不和が起り易い新取引は見合せて利△七月は目上の引立を受けて成功△八月も榮達の月であるが用心しないと病難劍難があるかも知れぬ△九月十月は面白くない△十一月十二月は平穩無事

二黒土星＝巳申亥寅＝ 五、十四、二十三、三十二、四十一、五十、五十九の人

調子に乘り過ぎたり我意を張らにするこ身を誤する基となる事さでさへあれば案外の福運に有りつく、△正月は凶△三月は稍や吉△五月入つてから又凶△六七八九月は物事の發展を見る月で新しき事業を企つるに誂へ向き△十月は平穩△十一月十二月になると少しく衰へるから此月は守勢を取つて過まぬが宜しい

三碧木星＝辰未戌丑＝ 六、十五、二十四、三十三、四十二、五十一、六十の人

漸く運の開ける年で思はぬ利潤を見ることがある、けれども始終進退に注意を怠つてはならぬ、△正月は惡い△二月三月は盛運で諸願成就する△四月は氣の挫けを生ずる△五月に入つてからは順調△六月七月何かと手違ひ生じ易く一年中を通じての凶月愼むべし△八九十は再び運氣旺盛△十一月十二月は平らかな月

四綠木星＝卯午酉子＝ 七、十六、二十五、三十四、四十三、五十二、六十一の人

發氣衰運の年であるから爭論を愼み賢者の意見に從つて方面を定むるに限る△正月は失敗が多い△二月三月は運氣平靜新計劃に利△四月は事の起る虞れがあり△五月は訴訟損耗氣は永引く△六月は財運惡く△七八九月は大發展の月で何事にも成功△十月亦幸運△十一月十二月は萬事に十分氣を配るべき時

五黄土星＝寅巳申亥＝ 八、十七、二十六、三十五、四十四、五十三、六十二の人

過氣の年である堅く常業を守つて時機の到るを待つべき年である△正月は吉△二月は失敗が多く三四五月は無事働き次第では意外の効果を收め得る△六月は大に吉△七月八月は宜しくない△九月に入つて調子づいて△十月十一月十二月と進むに從つて運氣旺盛災火の利益を見る妄動を避けて進むほご上首尾

六白金星＝丑辰未戌＝ 九、十八、二十七、三十六、四十五、五十四、六十三の人

相生の盛運年である、商工業は發展し總て永遠の計畫を樹てるに有利、但し女色は愼まねばならぬ、△正月は漸く福運到らんとする月△二月三月も四月引續き極めて幸運の月である△五月は爭論訴訟等に敗れ△六月七月は目上の引立を受け△八月九月は中運△十月は十分でない△十一月十二月は可なりの好成績

七赤金星＝子卯午酉＝ 一、十、十九、二十八、三十七、四十六、五十五、六十四の人

本年は西が本命宮であるから此の方に向つて火氣扱ふ設備をしてはならぬ、そして雜念を抑制して萬事愼んで利△正月は凶△二月は吉△三四五月は沈滯の月△六月より再び吉兆現れ運氣旺盛となる△七月八月は出過ぎて失敗を招く△九月は福分多けれど怪我訴訟等注意△十月十一月十二月は大體に於いて順調に物事の運ぶ月である。

八白土星＝申亥寅巳＝ 二、十一、二十、二十九、三十八、四十七、五十六、六十五の人

高ぶらず怠らず上位の人に謀つて事に從へば功成り名遂げ總ての方面に利を占むる年である△一二三月は幸運商賣繁昌の月△四五六七八月は運勢微弱で百事澁滯し易く殊に爭論怪我盜難に愼重の注意を要する△九月平穩△十十一十二月は引續いて開運期せずして福を併せ得るの月で何事も思ひの儘に運ぶ

九紫火星＝未戌丑辰＝ 三、十二、二十一、三十、三十九、四十八、五十七、六十六の人

此の年は死氣年であるが不如意がち進退共に考慮を缺けば取返しのつかぬ失敗を醸す△正月は諸事控目にして利△二月三月は衛生注意△四月は宜しくない△五六七八月は物事極めて有利に捗る△九月十月は不良△十一十二月は色々な損失を招くから當業專一を旨とし誘惑を斥け新事業には手出を愼んで不利を免る（完）

募集漢詩

高野竹隱選

新春雜興　平塚嘯雲

聖朝第十春。赤子仰深仁。風月年年足。醉歌爲逸民。

淑氣動蓬門。梅花雪後村。新年身幸健。一醉亦天恩。

論語易傷神。歲新感更新。[illegible]非所願。[illegible]

謹賀新禧

大連（民政署官舍）　白石保成

大連市松林町九號地　蠟燭石鹼製造販賣　萬玉洋行　電話二六二番

大連郊外土地株式會社

大連市臨海町シ區六號地　臭水子土地建物株式會社　事業　大連市外臭水子に於ける理想的田園都市の經營　電話一七八三番

大連市西通　滿洲殖産株式會社　電話三七三番　三七四番

最新式機械製造作品　商標ヤスリ製作　大連市小崗子南德政街六番地　滿洲機械工業會社　電話二二九一番　二八六〇番

大連市監部通（吉野町角）　春田旅館　電話六七六番　三三九番

大連市磐城町　磐城ホテル　電話一六七番　二四五四番

大連市紀伊町六十九號地　貿易商　興安號　電話長一七四番　振替貯金大連一二三番　天津支店天津佛租界二號路四五　電話三三四〇番

安東縣滿鐵醫院前　土木建築請負業　松竹事　松永九市　松永ミツ　電話四九八番

安東縣五番通　高等洋服裁縫　清水洋服店　清水貞一

安東縣市場通六丁目　合資會社安東晝夜金融會　電話一六〇番

安東縣大和橋通　特産物貿易商　紀陽商會　電話長一一四番　支三三五番

製粉並雜貨綢緞卸小賣　金子製粉所　安東縣四番通六丁目　本店前ノ小路街

安東縣　貸席　玉川樓　電話二三三番

大連市兒玉町滿鐵社宅　中西清一

大連市兒玉町滿鐵社宅　野村龍太郎

大連市大廣場　朝鮮銀行大連支店　大田三郎

大連市大廣場　朝鮮銀行大連支店　小西春雄

大連市土佐町官舍　中野有光

大連市播磨町官舍　湯淺秀富

大連市西公園町百十三區十一號地　日清生命保險株式會社　滿洲支社　横田瀧三郎

大連市外沙河口滿鐵工場社宅　横井實郎

大連市敷島町四十九號地　東洋スレート工業株式會社　電話一二四九番

大連市敷島町四番地　滿洲土木建築業組合　電話長六二三番　振替貯金大連八二五番

三井物産株式會社京城支店

朝鮮郵船株式會社
本店　京城南大門通一丁目　電話一九五弐・二一三一番
釜山支店　釜山佐藤町五番地　電話一八四番
元山出張所　元山港海岸通壹丁目　電話二三八番
◎各寄港地に荷客取扱店又は代理店あり

サクラビール
◎營業科目
米、大豆小麥、雜穀、豆粕、麥粉、綿糸布、サクラビール、サクラスタウト（黒ビール）三吉野サイダー、燒酎、佐賀セメント、原鹽、再製鹽、木材、諸機械金物類其他各種商品の輸移出入賣買及仲次業鑛山經營鑛石賣買保險業
合名會社鈴木商店京城支店
電話長一、三四七番
電話長一、四二二番
電話長一、二九〇番
電話長一、九二四番

謹賀新禧

各國時計類、貴金屬製品、眼鏡類販賣、測量製圖諸機械類修繕
京城府本町三丁目
市川啓藏
電話一一〇五番

京城南山町三丁目
書籍骨董
佐々木聚古堂
電話貳二貳三番

内外食料品穀物海産物問屋
京城府南米倉町
池尻林太郎
電話長三五一番
振替京城八六番
電略(イ)又ハ(イケ)

營業品目
一般藥局製劑、處方調劑、醫療器械、衛生材料、化粧品類、工業藥品、有効賣藥、染料、洋酒
京城明治町二丁目
橋爪彦平藥局

仁川宮町
和洋雜貨商
三橫商店
電話七〇六番

忠清北道忠州
土木建築請負業
本部由三郎

忠清北道忠州
御旅館
星光館

忠清北道忠州
醫師
鈴木宗一

忠清北道忠州邑町
鶴之湯
鶴田芳太郎

忠清北道忠州大手町
安田鐵工場
安田八十次郎

忠清北道忠州
金物商
佐藤綱吉商店

忠清北道忠州
内國通運株式會社
京城支店忠州荷扱所

忠清北道忠州日之出町
鶴屋旅館
宮地幸吉

忠清北道忠州
生そば
やぶ
中嶋龍助

京城本町一丁目五一
大和軒
電話四八九番

咸鏡南道咸興醫院
院長
久德隆篤

咸興監獄
典獄
平野彌吉

咸興公立農業學校
校長
松村豊吉

安東縣江岸通
安東海運株式會社

安東縣南欄通
海陸運送業
西村組
電話二七三番

安東縣江岸通
海陸運送業
日韓組
電話四一四番

京城府本町二丁目
浪華名産
忠臣昆布
堀崎茶舖
電話一七四〇番

仁川
川添三次

仁川松林里
日本醬油株式會社
電話長七五一番

仁川本町四丁目(電話長一〇二)
米穀雜商
松野商店

京城本町二丁目八八番地
日本自動車株式會社
京城出張所
電話一九二三番

大日本窯業會社製品特約販賣
中央ソーライト製品特約販賣
淺野スレート會社代理店
建築材料アスファルト特約販賣
京城黃金町東一前(電二一六二)
石田商店

時計眼鏡貴金屬商
京城本町一丁目
中村時計店
電話一二七番
振替京城三四六番

京城府崇仁面(東小門外)
平山牧場
電話一三三番

安東縣二番通四丁目四番地
海陸運送業
尖運送店
電話五〇二番

明治ゴム合資會社代理店
ノーザン火災保險會社代理店
直輸入商
米井商店
京城出張所
本店東京銀座
京城黃金町二丁目
電話一六九六番

安東縣三番通六丁目
北澤材木店

安東縣三番通四丁目
土木建築請負業
伊藤組
電話四七二番

安東縣市場通五丁目
渡邊支店
電話一〇五番

日支貿易並ニ、食料諸雜貨卸屋
土木建築業、京木並ニ製材、
和洋家具類、製作販賣
株式會社
村木洋行
安東縣大和橋通七丁目
電話六十七番
支電話二百二十番

東京ゴム輸入入力車製造
空氣入車輪タイヤ
其他附屬品一切販賣
クラブ足袋及ゴム製品
京城太平通二丁目
堀商店
堀善一郎
電話二二九〇番

京城本町五丁目
共濟金融會
電話一六〇〇番

淺野セメント特約販賣店
株式會社佐竹鐵工所出張所
京城水標町三七
田村商會
電話一〇四七番

仁川宮町
諸雜貨卸商
矢上商店

仁川仲町一丁目
上原新市

仁川
牛屋正雄

仁川花町一丁目
海老原縫工所

仁川花房町(電話一〇二番)
宮城運送店仁川支店
極峴驛前出張所
電話七五七番
京城南大門驛前(電話二四九九)
京城支店

仁川山手通(穴門通)
能治齒科醫院

仁川極峴驛前
各種盆栽苗木販賣
北垣華王園
電話一三二番

仁川精米組合

仁川宮町
加藤精米所
電話五五八四一番

仁川本町四丁目
長野齒科醫院

綿絲布諸織物
萬雜貨直輸入卸
鬼頭本店
仁川内里
電話長六六八番
振替京城六六六番

群山港
辯護士
大坪龍三
電話一五九番

馬山府驛前
常盤旅館
電話一六一番

井邑金融組合理事
舛澤龍吉

京城南山町二丁目
會席御料理
一日園
電話一四九番

京城旭町一丁目
會席御料理
烏丸
電話二一〇二番

京城本町二丁目
會席御料理すき燒
梅の家
電話七三五番

京城東四軒町
御料理
甘泉亭
電話二九八六番
▲四季雪月花共に御宴會の好適所

京城旭町一丁目
御料理
壽美家
電話一三四三番

京城旭町二丁目
御料理
喚良喜
電話一八二八番

京城南山町二丁目
會席御料理西洋料理
福住
電話一三三九番

京城旭町一丁目
食道樂
沖の家
電話一八六〇番

京城旭町一丁目
會席御料理すき燒
梅花
電話二三四八番

京城南山町二丁目
御料理
花仙
電話長一二七〇番

京城旭町二丁目
御料理
川梅
電話一一〇〇番

京城南米倉町
御料理
春本
電話九〇九番

京城府南山町三ノ三
西洋料理
巴洲亭
電話六三八番

原金旅館
京城壽町二番地
電話一二一五番

土木建築請負業
京城黃金町四丁目
荷福仁助
電話一〇三〇一九番

忠清北道忠州本町
藥種賣藥並食料雜貨商
上軒谷商店
振替京城三三四番

忠清北道忠州本町
御菓子製造卸小賣商
美やこ中島政六

忠清北道忠州本町
洋服調達並附屬品
村上洋服店

忠清北道忠州本町
中野次郎

忠清北道忠州本町
陶器並雜貨商
川本角一

忠州郡廳
田中勳

忠州郡廳
郡守
申昌休

忠清北道忠州大手町
忠北殖産株式會社
趙麟九
福田虎重
趙大衍

忠清北道忠州大手町
土木建築請負業
長谷德太郎

忠清北道忠州
會席御料理
重の家
倉重クニ

忠清北道忠州
會席御料理
加納屋
加藤二郎

忠清北道忠州
會席御料理
百名以上の宴會席設備あり
末廣館
稻田四馬治

忠清北道忠州
忠州運輸倉庫組合
飼原長藏

忠清北道忠州本町
吳服太物並西洋雜貨
水野吳服店

忠清北道忠州本町
食料品雜貨商
原日一二

忠清北道忠州本町
金物商麥麵製造卸販賣
帝國火災保險代理店
大石長作

京城府京町一
下川岩吉
長電話五二四番

京城本町二丁目
村上寫眞館
電話四一二番

京城府公平洞八十七番池鷹路
大昌貿易株式會社
電話長二七二番
工場專用 三七三番
皮物部專用 一〇六一番
振替口座京城 六〇九六番
外國電信略號 四一〇八二番

京城本町一丁目
和洋建築金物、並諸金物一式商
井原京城支店
電話八三六番

表具材料
疊材料
板硝子
花莚
京城黃金町壹丁目
日本建具會社
京城支店
電話二七二〇番
振替三七八番

岩田寫眞館
京城府黃金町一丁目
長電話五十三番

時計眼鏡寒暖計卸商
貴金屬製品
美術サック
萬年ペン
京城府南大門通壹丁目
登記商號
大學堂
店主 宮川太吉
電話長二九五八番
振替京城二一二九

京城黃金町二丁目
京城石油共同販賣合組
高井兵三郎
梶原末太郎
淺海助太郎
釘本藤次郎
前田統造
北垣市二郎
鬼頭千藏
鶴田綱太郎

京城材木商組合

商號	電話番號
石崎京城支店	京二八五五
磯貝材木店	京三〇二八
伊藤材木店	龍四七
新田洋行	京一八一六
日華木材會社	京一〇六六
北方材木店	京一九六八
東亞商工會社	京一六九
朝鮮材木會社支店	京二四六四
柏木材木店	京二三七二
金止材木店	京一〇四八
大一商會	京二〇九〇
高田材木店	龍九三一
竹村材木店	龍九五〇
松村捨二	龍八三〇
永田材木店	龍八二五
熊野商會	京一八二
山本村太郎	京三〇四七
滿鮮工材會社	京二七六二
丸一商會	京一二三八
小森商店	京一四四
淺見材木店	京一七八七
三幸洋行	京二八〇〇
岸野材木店	京四一四
三井物產木材部	京六〇〇七
淸水材木店	龍五三
新義州木材會社	京一九四〇
平井材木店	京二七九四
木材商會	京四二八四
須川材木店	龍四五四

安東縣二番通四丁目
山本材木店
電話一九一番

新義州鴨川町
新義州製材工場
電話二六四番

滿洲安東縣郵便局前
電機商
株式會社寶信洋行出張所
電話長五三五番

安東縣旅館組合(イロハ順)
大和橋通二丁目 花園旅館 電話三七三番
堀割北通り 鎭江旅館 電話架設中
市場通六丁目 松屋旅館 電話一六六番
市場通三丁目 元寶館 電話四五番
市場通四丁目 富久壽美旅館 電話四七番
大和橋通二丁目 小林旅館 電話架設中
五番通四丁目 安東旅館 電話五七番
大和橋通三丁目 新陽旅館 電話五四一番
五番通四丁目 日の出旅館 本店 二四七番 支店 一七〇番

京城電業會(イロハ順)
南大門通り三丁目 泉商會電氣部 長電話二九〇番
南山町二ノ四四 神奈川電氣株式會社京城出張所 大富愿
黃金町二丁目 加藤電氣商會 長電一四七番
明治町二丁目 株式會社 川北電氣企業社 朝鮮販賣所 長電一三四四番
南大門通五丁目 高岡洋行 長電一九六一番
明治町二丁目 高島組電氣部 長五七二番 三〇〇四
黃金町三丁目 山陽電氣商會 長電一四二五番
本町一ノ四八 越田電氣商會 長電一四三〇番
南大門通五丁目 木村商會 長一三六四番
本町三丁目 商銀前入ル 御手洗堂 長電三三八五番
本町三丁目 ミツバ商會 長取次 一六八九番
南山町二丁目 白上商店 長電九五五番
長谷川町鮮銀横 ヒオキ商會 長電二貳二番

京城白米商組合

龍山醫師會

京城本町二丁目
諸雜貨卸商
森久商店
電話長三五〇番

發賣元
賀茂鶴
河野酒店
京城公平洞五五番地
電話二二〇八番
支店 市内本町三丁目
電話一〇〇七番

コリヤツキモンド號自轉車製造販賣
シロタイヤ◆オツクスタイヤ◆サウスタイヤ其他附屬品一切自働自轉車
淸水自轉車商店
京城南大門通一丁目九十五番
電話一八九三番
振替京城三四〇六番
專屬工場 黃金町一丁目

京城旭町一丁目
會席御料理
千成
電話二五五二番
京城旭町一丁目(大久保辯護士横入)
新千成
電話六參〇番

京仁羅紗附屬品商組合

京城旭町一丁目(黃鳥谷)
會席御料理
靜陽軒
電話三〇四三・一七〇番

京城官煙元賣捌組合
玉植商店京城支店
鬼頭商店
廣江澤次郎

京城旭町二丁目
御料理
京喜久
電話一三一五・一九六七番

(いろは順)
花本洋服店
濱洋服店
巴屋洋服店
丁子屋
大屋洋服店
奥田洋服店
吉岡洋服店
吉田洋服店
菱川洋服店

日本自働車株式會社
京城出張所
京城黃金町四丁目
電話一三〇一番

京城旭町一丁目
御料理
千歲
鹽澤千代
電話七三〇・三八二七番

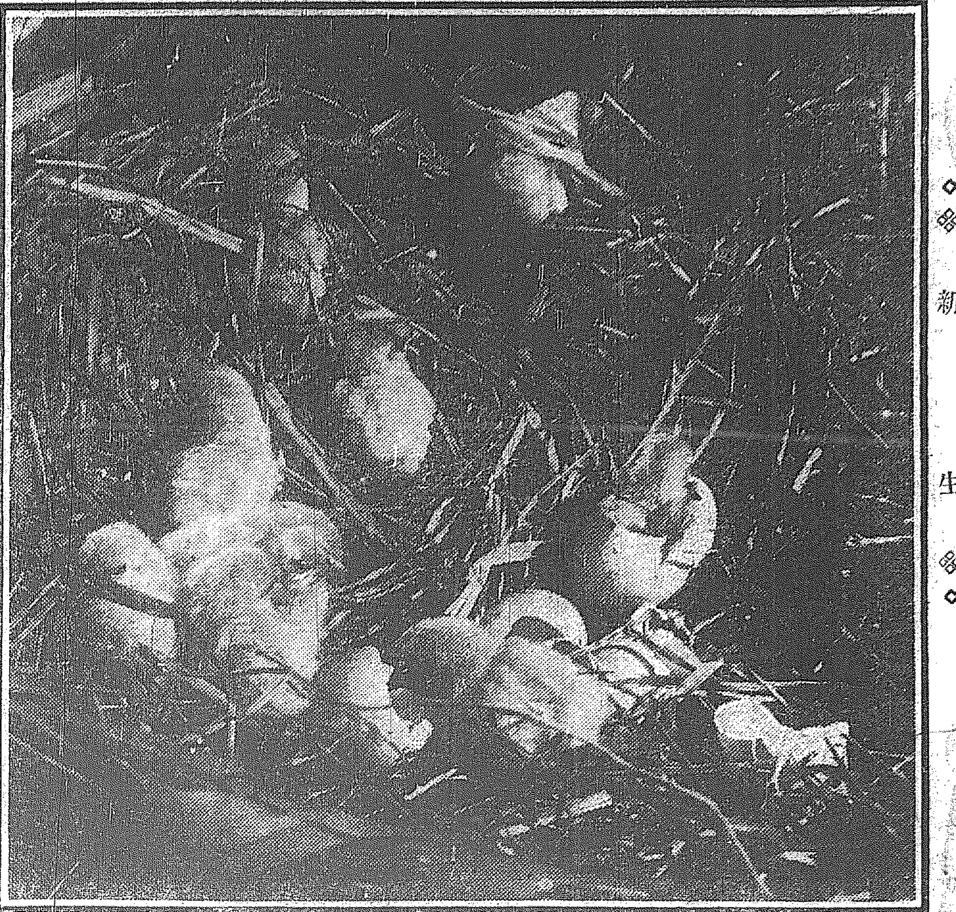
京城林町三四
土木建築請負業
今岡熊之助
電話三〇六九番

新町遊廓
組合員一同

南滿洲鐵道株式會社
電氣作業所
安東電燈營業所
事務所長 二九五番
同(社内) 二七番
同(中國) 一三三〇番
發電所(日) 一九〇番
建築係 三一〇番
同(社内) 一七番
主任(社宅) 五一番
同(日) 二六番
營業係長(社宅) 七八番
電氣係長(社宅) 七七番

土木建築請負業
安東縣市場通四丁目
松村組
村松脩平
電話四四六番

◇❀ 新生 ❀◇



財界の前途と救濟策

第百銀行頭取　池田謙三

大勢既に安定

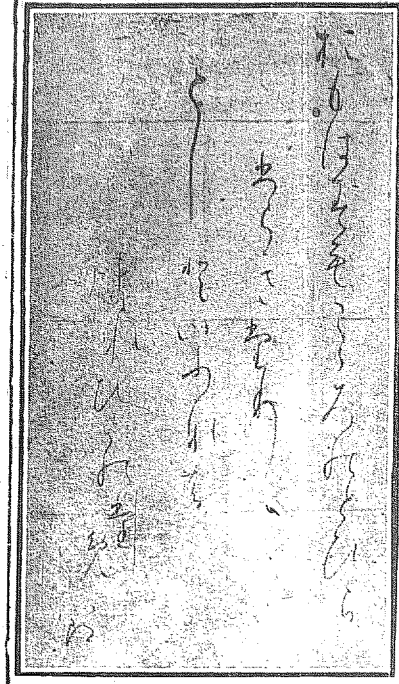
昨春財界の動搖は、戰時の好況に有頂天となり、生産の勃興、信用の膨脹、投機の旺盛等、極端に煽り立てられたる反動なれば、激甚なる動搖に襲來して、商品、有價證券の瓦落となり、信用の減縮となり、金融の梗塞となり、貨物は停滯して、殆ど運轉の途を杜絶し茲に事業家の破産に瀕し、銀行家の破綻をなすもの相繼いで、前途頗る暗澹たる有樣を呈したりしが、事業家の緊縮策と、日銀以下の救濟等に依り日を逐うて整理され、大なる恐慌を惹起せずして、今や殆ど平穩に歸したるは、何よりの幸福なり。即ち人心は安定し、資金の需要は緩慢となり、銀行の手許潤澤なる爲め、格別のこともなく越年して何等憂ふべき兆候を見ざるは、大勢既に回復の緒に就きたるものと云ふべし。或は安定せんとする際、間歇的に銀行會社の破綻するものあるを見るも、これ既に破産乃至は破綻の、素因を永く釀したる末路の暴露にして、決して今日の事にあらず何等恐るゝに足らざるべし

警戒中の苟安

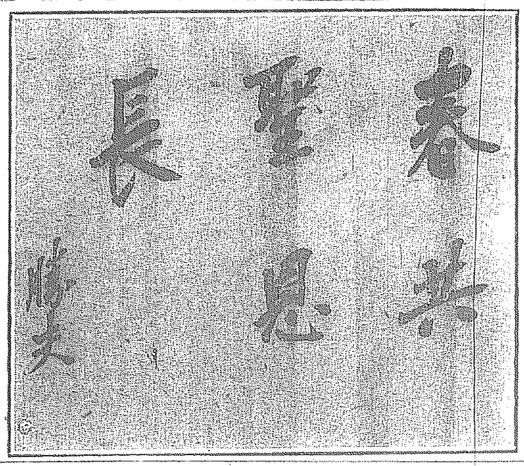
然しながら今日は未だ積極的好況を期待すべからず。何となれば財界の不安は暫く安全を得たるが如しと雖も、米價は下落して、農民の購買力は減退せんとし、事業は緊縮されて、失職者は多からんとし、内地の物價需要は、未だ頓に復活すべからざれば、物價の前途は、尚ほ低落を續くるものと見るの外なく、況んや海外の財界も、頗る暗澹低迷し、なほ物價の騰貴甚だしく、相當の下落を見ざれば、輸出の困難なる事情あり、之等の悲觀材料か、一掃さるゝに至るまでは、不景氣の繼續は、當然と覺るべからざるなり。從つて今日の安定は、畢竟減縮に於ける苟安にして、資金の需要減退も之に胚胎し、銀行家の手許潤澤なるも、貸出し手控へに因るもの少からず。整理を完了する迄は、財界の回復は來らざるべく、銀行家が一切の警戒を解くに及んで、始めて復活の端緒を開くべし

財界救濟根本義

然しながら悲觀材料の整理は、坐ら待つこと能はず、期待すべからず。進んで之が匡正を講ずるを要す。これ財界救濟の必要なる所以なり。然しながら財界の救濟は、從來の如く單に金融の援助、生産の縮少等の、消極的方策を以ては、決して復活を望むべからず。進んで販路を擴張し、生産を回復するを根本とす。我が財界の前途は、眼前の利害にのみ囚はれず、一時的の弥縫策を棄て、根本的基礎の確立に努むるにあり。即ち一度戰時の好況を思はざるにあり。生産過剩も顧みず、あらゆる投機的事業に熱中し、自ら營業を深くせず、一度反動に遭遇すれば、事業家は忽ち動搖し、一に當局の救濟を乞ふを事とし、自ら進んで整理すべき途を知らず。個々生産を制限して、價格の維持に努むるを、唯一無二の方策とす。これ誤れるの甚だしきものなり



尾上柴舟氏試筆



宇佐美勝夫氏試筆

不自然に價格を維持するは、内は以て國民の生活難を助長し、外は以て海外需要增進の所以に非ず、又販路維持の所以にあらず。急に生産を減退の處分に窮し、經濟界の退嬰萎靡は遂に免れざる所とす。蓋し經濟發展の要諦は多く生産し、多く販賣するの外なく、販路の擴張は財界回復の根本策ならずんばあらず

輸出振興の一途

販路の擴張策は、内は内地需要の增進、外は海外貿易の振興を圖るにあり。然るに内地の需要力は、俸給生活者は永き物價の騰貴に疲弊し、實業家は今回の打擊に屈息して、頗る減退せるにも拘はらず、物價の騰落は大取引場のみにして、殆ど小賣相場に及ばず、依然として高價なる故、未だ需要を增進するに至らざるなり。若し價格を低廉にして眼前の損失を甘ずるに努むる時は、尚ほ多少の需要を增進せざるにあらざるなり。然しながら内地の需要增進は、前途の状況に依り、大いに期待すべからざる點も、海外貿易の振興は、最も急務なりと信ず。蓋し我國は天産乏しく、到底自給自足の途なきが故に、貿易の振興は、實に我が經濟立國の唯一の基礎にして平常之を放心すべからざるは勿論なるのみならず、實に我が販路擴張の無限の發達と見るを得べし

薄利多賣主義に歸れ

海外貿易の振興策は、勿論二三に止まらざるべし或は金融機關の不備、海運機關の不足等の、所謂補助機關の整備を要するともその一なるべきが、之れ等は戰時中大いに發展を見るを得たれば、更に一段の發展をなす時は、決して歐米の人後に落ちざるを期することと、必ずしも困難ならざるべし。或は粗製濫造の弊あり、海外需要者の不信用を招練する所以にして、産業組織の整備と、商業道德の發展に待つべきこと大なるべし。然しながら最も實に大影響を及ぼすものは價格の問題とす。然るに我が實業家の短見なるや内地の好況に眼前の利を追ふて、濫りに價格を釣り上げ、爲めに物價の關係到底海外のそれと權衡を保つ能はざるに至るも、敢て之れを顧みず遂に海外への販路を失したるもの少からず。蓋し販路は之れを護るとの容易ならずして、一度之を失へば、再び回復するの困難なり。されば海外に於ける販路は、最も之に介するを要するに、兎角眼前の小利の爲めに、之を放棄したるは、千歳の恨事にして、また今回我が不況招來の、重要なる一因なり。されば貿易振興の爲めには、物價を低廉にして、海外のそれと競爭するに、優越の地歩を占むることを緊急とす。物價低廉策としては、生産費を低減して根本的に抑壓策を講ずることも勿論なるも、當面の問題として、既に海外の物價よりも、大いに騰りたるが際なれば須らく當業者は、製造業者と貿易業者との全體が、固く結束なしたる上、一時の犧牲を拂ふことを忍びて、價格を低廉にし、以て海外の市價より安價を期して、一大奮闘に出づること、背水の陣なからずんばあらず。要するに一攫千金の暴利維持策を棄てゝ、薄利多賣主義に歸するを以て、我が財界の病弊救濟の根本義とするなり

金融機關の改善

最後に希望に堪へざるは、經濟の根本たる信用機關たる銀行家の今少しく基礎を選び、且つ自重して、その職能を充分に發揮せんことなり。由來我が銀行家は小銀行分立して、頗る資力乏しく、大資金の運用に支障を及ぼし、經濟界の發展に寄與し難き憾みあり。之が資本合同を進めて、資力充實に努むるは其の一なり。而して兎角事業家の融通に乏しく、融通の圓滑を缺くの憾みもあり。之れが了解を進めて、融通圓滑を期するは其の二なり。更に銀行家が自重を缺ぎ、事業を深く吟味せず、徒らに眼前の小利に迫はれて、好況に際しては貸出を放漫にし、一朝不況に遭遇すれば回收を嚴にして、以て騷動を激ならしむるの咎あり。之が人物、事業本位となり、自重して融通し、財界の變動を緩和するは其の三なり。自重は銀行家のみならず、汎く國民全體への要望なり

偶吟

尾上柴舟

病癒ゆ

見ゆるもの形正しくなりにけり眠足らひて眼ひらけば

わが視線猶ゆがむやと試みにわきめもふらず道ゆきて見つ

病なき身こ今なりぬ新しくつよく生きなむ強く生きなむ

雪の日

庭隅の南天の實の多きこと雪にうつるにおごろかれぬる

朝をねてふる雪きけば山荘の温泉近き部屋にわが居る如し

玻璃戸より見やれば高き雪の面冬見し山のこゝちこそへする

懸賞情歌

編輯局選

天　京城　有賀保布

かるた取る手を押さへた謎に ほつと散らした頬の紅

評　類句は多いが調が整つてゐる

地　京城　小澤進

藝妓と云ふ字を目ざして指さし 指が重なるかるた會

評　氣まりが悪いやら嬉しいやら

人　平北　昇坊

雲の通ひ路吹きとぢかねてか るた會から立つ浮名

評　人知れずこそ思ひそめしか

秀逸

大田　名倉南亭

戀の朧は歌留多の夜から 月の朧も其の夜から

評　貫一の涙は一月十七日の月を曇らせる

抱川　鈴丸生

歌留多とる娘の白魚指に 謎がからむよあかく と

評　あかくさが可眠味だ

京城　窪田いつ子

思ふ戀歌あの娘にとられ 亂れそめにし歌かるた

評　入つてならぬで云ふよしもがな

京城　大崎郁雪

胸に秘めたる互ひの謎が 解けて嬉しい歌留多會

評　甚な不良少女奴が……

平壤　唐波千賀次

歌留多とる手が紅葉と散れば 花の振袖蝶る春

評　技巧纎致、文名手と謂ふ可し

南山　岡本鳥石

床のお宮にかるたがはねて 嫗が飛ぶよに梅が散る

評　あらまアごうしませう、梅を散らしちやつたわ

村田晩翠

好いた同志の歌留多の席へむべ山鼠の年始客

評　まア可服アな奴、早く蹴ればいゝのにれさ下駄においてるやら締め立てるやら いきな化粧も嬉者もみんな鼠に見せたいかるた會

（滝東）

大邱府幸町　米力商店

大邱府錦町　高麗窯業株式會社　楊在河

大邱　魚菜市場株式會社

大邱府　滿盛庵

大邱府　看護婦會

安東縣市場通五丁目　荒木式ペチカ　荒木組出張所

安東縣省橋通　三省精米所　電話一〇一番

賀正

安東縣六番通　土木建築並材木商　山口組　電話一〇一番

安東縣市場通　葡萄酒醸造元　東亞商會　電話長八七番

耳鼻咽喉科呼吸器病専門　安東縣大和橋通七丁目　神田醫院　電話六五五番

南滿洲安東縣　高橋貞二

安東縣鎭江山公園前　造庭植木盆栽　野村滿松園

馬山府　澤井積一郎

馬山府京町　昌原金融組合　電話一六番

馬山京町二丁目　望月庄五郎　本店 料理部 電話三八番　同 本町二丁目 支店 旅館部 電話三九番

新義州製函株式會社　新義州眞砂町　電話二二六番　振替京城七三七六番

東洋拓殖株式會社馬山支店　馬山金融組合　慶南銀行馬山支店　殖産銀行馬山支店

馬山府　南朝鮮鐵道株式會社　社員一同

馬山府京町　清水酒造場　電話一〇七番

馬山府元町埋立地　馬山倉庫株式會社　取締役支配人 金性玹　電話三一番

馬山府元町　馬山穀物商組合　電話一四〇番

馬山府元町　山中市之助

馬山府濱町一丁目　鎭海灣汽船株式會社　電話六八番

馬山府都町一丁目　馬山晋州間　馬山自動車組合　電話三七番

馬山都町一丁目　馬山病院　院長 徳永吾一

馬山府廳々員一同

馬山府本町一丁目　目賀田商會　電話一〇一番

馬山府　馬山郵便局員一同

馬山府　税關支署々員一同

昌原郡廳々員一同

馬山府元町　元東貿易株式會社　電話一〇七番

馬山府京町二丁目　呑月　電話三番

馬山府京町三丁目　東雲樓　電話二四番

大邱府東雲町　丸三合資會社

大邱府三笠町　大邱酒造株式會社　專務取締役 寺田賢作　電話三四三番

大邱府上町　銘酒醤油發賣元　平井商店

大邱府錦町　東亞煉寸株式會社　長途電話四五九番

大邱驛樓上　喫茶店蓬萊

大邱府大和町　松本誠一

大邱府八雲町　運動商　磯貝商店　電話四五五番

大邱府　東屋洋服店

古田信三郎　大邱府錦町

大邱　醤油醸造組合

大邱八重垣町　妻戀樓

大邱府　大浦精米所

大邱運送業組合

大邱府元町　田村賣品館

大邱府上町　千代田洋行　電話四五番

大邱　朝鮮物産商會

大邱　樂天食堂

大邱商業會議所書記長　佐瀬直衞

大邱府　松井信助

大邱府八雲町　平野材木店　電話四五五番

大邱府大和町　佐伯藥房　電話二六八番

大邱府市場町　佐藤伊三郎

謹賀新年

朝鮮銀行

東洋捕鯨株式會社
朝鮮支店

蛇目萬次郎
京城南米倉町
電話長九三〇番

京城質屋組合

市田オフセット印刷株式會社
大阪總本店　市外北海老江　電土佐堀長一四二八番　長二三〇九番　長二二〇〇番　特長八七〇番　特長八七一番
東京支店　京橋區北紺屋町　電京橋三五八番
上海支店　江西路七號　電七五四番
臺北出張所　撫臺街二丁目　電特長五五四一番
京城出張所　大和町三丁目
弊社の新モットー東洋一より世界一へ
宏壯なる理想的新工場は東洋一
十五臺の精巧無比なる最新式セルフフキーダー附自動オフセット機の撤夜作業の壯觀は東洋一
世界的大發明のHB式特許製版新法應用の弊社製品は東洋一
新春と共に益々活躍漸次世界一を期すべく候

富田屋洋服部
富田屋羅紗部
京城太平通一丁目
電話七二三番

淺野スレート株式會社工事所
岩出京城出張店
京城府太平通二丁目
電話一六〇七番
電略イワ又ハイ

小寺組
京城府竹添町二ノ一六五番
電話一七一九番

大倉商事株式會社
京城出張所
京城大和町一丁目
電話二五八〇番　一二〇四番

太平通り二丁目
株式會社常盤商會朝鮮營業所
元町一丁目
精米部

（いろは順）
京城南米倉町
今村精米所
電話長一四〇六番
京城府和泉町
朝鮮精米株式會社
電話長二四三番　電話三七一番　電話三三七二番
京城府南米倉町
株式會社朝日精米所京城支店
電話長一二三番　電話長八三一四番

土木建築請負業
咸興大和町三丁目
小野磯平

咸興大和町一丁目
齋藤運輸株式會社
咸興支店
電話一十八番

中券番
京城券番
新　　檢
置屋一同

京城府本町一ノ四八番地
電氣機械製造販賣
電話電燈工事請負
電氣諸材料販賣
コシダ電氣商會
電話一四三〇番
振替貯金京城六五六七番

清酒振天
金剛燒酎
ABU印酒精
釀造元
朝日釀造株式會社
京城府明治町一丁目
清酒工場仁川府松阪町
燒酎工場仁川府桃山町

仁川醫師會

新
玉
京城元町三丁目
電話三八一番
新
玉旅館
京城漢江通一三
電話六二一〇番

咸興大和町二丁目
土木建築用具鐵器並諸油塗料販賣
吉本商店
電話百四十一番

咸興本町一丁目
建築請負業
佐川寅次郎
電話百五番

土井一義

特許セメント瓦製造株式會社
工場所在地　京城、釜山、平壤、元山、羅南、若松、名古屋
京城府明治町一丁目
電話長九三七番
電話龍山一四四番
電信略號（トカ）
振替口座京城七〇五七番

新義州木材株式會社
新義州旭町
電話一三番
電話一〇七番

咸興大和町二丁目
內外藥種醫療器具機械販賣
小藤藥房
電話百十番

京龍在官業組合

名草源一郎

京城本町三丁目
洋家具製造
學校用器具
體操器械
各種運動用品
發賣元
松本製作所
電話二四八九番
振替口座京城六二三八番

京城府本町二丁目百十番地
綿糸布仲買
宮林泰次商店
電話長二〇四番　二六三九番
振替口座京城六二二四番

辯護士
特許辯理士
高橋章之助
京城府仁寺洞百三十六番地
電話二五六番

高島周祐
京城府明治町二丁目百四番地

京城日報

其の五

朝鮮鐵道の使命（上）

昨年に於ける鐵道網の發達と本年の新計畫

和田鐵道部長談

其の前途には大なる光明が輝いて居るものと謂はねばならぬ

交通機關の整備擴張が朝鮮半島の統治並に開發上最大の急務であることは既に異論なき所であつて朝鮮に於ける鐵道の普及改善に就ては官民共に漸次熱心なる注意を傾注するに至り大なる努力を致しつゝあるは誠に喜ばしき現象である抑も鐵道網の完否は

國運消長の如何

を示し運輸の繁閑は社會文化の程度を卜するに足るのであつて鐵道敷設の社會に及ぼす影響の大なることは今更喋々を要せぬ所であるが鐵道敷設の効果は運輸交通の便を進むるのみならず敷設工事其のものが社會に及ぼす利益も亦大であつて喔々たる鶏鳴の聲に山野自ら活況を呈し轔々たる車輪の響きに郷里自から新生面を開き

朝鮮の經濟界を

賑し衣食乏しきを憂うる朝鮮人に生業を與ふるの効果も亦甚大なりと云はねばならぬ而して朝鮮の鐵道の普及改善は獨り政府の力に依る許りでなく亦

大いに民間の力

を俟たねばならぬのであつて國有鐵道と私設鐵道と何れか一に偏しては其の効渉く政府と民間と相俟て共々に進むことを要するのである彼の歐洲戰爭の影響は國有鐵道業にも私設鐵道業にも至大の良果を齎し其の進歩發展の跡共に著しく

殊に私設鐵道の

如きは八九年に亘りて其の新設せらるゝもの多く私設鐵道業は將に大に活躍せむとするに至れるが昨年中に於ける甚だしき財界の不況は斯業にも多大の打撃を與へ急激なる進歩の階程に多少の障礙を被りたるは遺憾であるが財界の有爲轉變は蓋し社會に於て免れざる處であつて之に從つて鐵道事業の一張一弛も亦已を得ぬことゝ云はねばならぬ然れども固より大勢に於ては

頗る進歩の趨勢

を辿りつゝあるは明瞭なる事實であつて今や乾坤一轉茲に新なる年を迎へるに當り本年も亦朝鮮に於ける鐵道事業が益々多大の發展を遂げむことを祈ると共に財界不況の繼續を覺悟し多難の際の精神を以て事に當り官民一致して最善の努力を盡さむことを望まざるを得ない今左に國有並に私設兩鐵道業に付大正九年に於ける成績を回顧し大正十年に於る施設を豫想せむ

建設工事

大正九年に於ける國有鐵道の建設工事に付いて見ると建設總豫算額一千百四十九萬圓であつて其の主要工事及竣功程度を擧げると湖南線に於ては大田地下道新設工事を京元線に於ては各驛側線其の他設備增設工事を竣功し

咸鏡線南部

に於ける德源川、北面川假橋改築工事は全部及新灘川、島內川改築工事の大部分を竣功し同中部に於ては城津日新間土工其他工事の五歩通りを竣工し同北部に於ては會寧線初達川假橋改築工事の大部分を竣工し輸城、鏡城間土工其他工事及羅南鏡城間土工其の他工事を完成して十月一日より羅南鏡城間を開業し鏡城朱乙間土工其他工事の約八分通竣工したが同區間は十年度中に竣功の見込である又平壤炭礦線に於ては南江橋梁假桁一部架橋し美林停車場改築を了した其他龍山工場の設備を增設したる外車輛に在りては機關車十二輛客車十七輛貨車二百六十輛竣成の豫定中約其の四分通竣工することが出來た次に

改良工事に付いては

改良費の總豫算額三百八十三萬圓であつて其の主要工事名及竣功程度を擧げると金泉大田間線路改良工事、南大門水色間線路改良工事、草梁釜山鎭間一部改良工事、南大門龍山構內一部改良工事及平壤炭礦線改良工事を竣功し省峴隧道前後線路改良工事の約二分五厘竣工した

國鐵業績

次に九年中に於ける國有鐵道の營業狀況を見ると本年度に於ける鐵道運輸は財界惡化の影響を享け頗る不振を呈し殊に貨物輸送に於て其の打擊甚だしく數年來殷賑を極めたる當時と比すると實に隔世の感があつたのである從つて列車運轉に在りては七八の兩月及十月の三回に亘り貨物列車を漸次減少するの已むなきに至つた然し其の間に於て京仁線に急行旅客列車の新設があつて、午前午後の二回に之を運轉し京城仁川間を五十分間にて到著せしめ且□□線に混合列車一回を增發して大に地方交通の便を增進することゝなつた又鐵道改良工事中の南大門水色間新設線路は豫定の通り工事完成を告げたので十二月二十一日より京釜、京義兩

幹線の時刻改正を爲し兩線の列車運轉系統を改

從來京義線列車は龍山を經由迂廻して京城に出入したが此の改正に依りて同線列車は京城より直接京義線に出入し得ることゝなつた

營業成績は財界不況の惡影響上

前田憲兵司令官試筆

記の如くなる上に夏季に於ける惡疫の流行、稀有の大水害等に因り貨客共甚だしき不振を呈し十一月以來貨客共多少の增加を爲し來つたが尙大勢は不振たるを免れず大體に於て年內を通じて不況裡に終りたるは遺憾であつた本年に於て新に運輸營業を開始したのは咸鏡線北部羅南鏡城間五哩一分南大門水色間（直通線）五哩三分であつて現在營業總哩は一千百五十八哩三分に達することゝなつた今九年の四月一日以降十一月末日に於ける運輸の概況を示すこと左の如くにあり

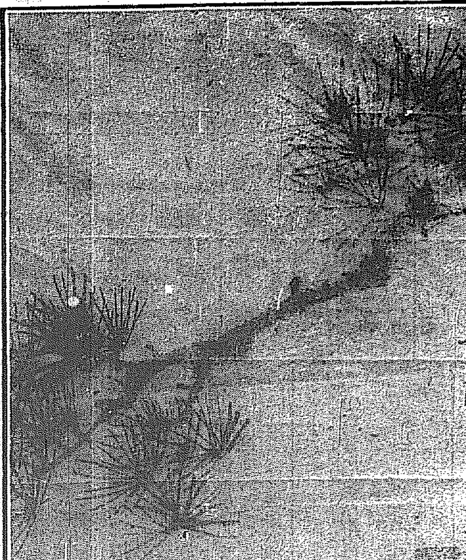
六二圓であつて之を前年同期に比すると人員に於て六四三、九三一人手小荷物に於て三、六三六、三〇〇斤客車收入に二、〇〇九、五八四圓を增加した本年の如き財界不況期に於て如上の成績を收め得たのは主として鮮人生活の向上其の他に依り交通機關利用程度の增進と旅客運賃改正の結果と考へられる貨物にありては輸送噸數二、一〇八、二九七噸其の收入六、七六八、一九五圓で之を前年同期に比すると數量に於て一七〇、九一六噸を減じ收入は三二九、三二八圓を增加したが前年は出貨に對應して極力輸送力の充實に努めたが尙且

常に滯貨を釀したるの盛況を呈したるに拘らす

昨年は財界變動の影響を受け亦昔日の盛況を見ることが出來なかつた昨年の運輸施設中主なるものは六月に於ける大貨物賃金の改正であつて本改正は昨年十一月第一回の改正を行ひたるもの當時の改正は主として噸扱ひの廢止最低噸數の制定遠近運賃の權衡等擇率構成上の原則を改めたのであつて併せて多少の增收を圖つたが生活必要品運賃の引下げ遠近距離運賃の引下げ等に依つて收益上格段の結果を齎さなかつたのである然るに財界の變動は、益々鐵道輸送を不振ならしめ其の影響深甚であつたから之が救濟策として再び賃金の値上げを斷行し收支の均衡を圖るの已むなきに至つたので此の改正に於て規定運賃約三割發著手數料五割其他料金三割方を引上げ新に運帶貨物に對しては接續費を徵し其他一般特定賃にありても約三割方の引上を爲したるも日滿連絡三線連絡及鐵道省線發朝鮮線著連絡貨物に對しては當分從前の儘之を据置くことゝし [illegible] 利用僅少であつた日本郵船及大阪商船との連帶貨物運輸は四月末日限りこれを廢止することゝなつた

純益金二百六十餘萬圓

此の如き運輸狀態であつたから其の九年度に於ける營業成績は當初收入約三千廿萬圓の豫想であつたが其後の減收を見込むで最近收支見込を收入二千八百萬圓支出二千五百卅萬圓と見込み差引益金二百六十餘萬圓の純益を擧げ得る豫定で目下進行中であるが幸ひに殘りの期間中に貨客の增加を見て當局の見込以上の好果を擧げさせたいものであるる而して大正九年度に於て總督府に納付すべき金額は約五百萬圓であるから之を差引くと滿鐵に於ては約二百萬圓の損失となる譯である滿鐵に於ても之れが對應策としては支出削減の方法として列車の整理、缺員、補充品及消耗品等に關する節約不急の見合石炭の節約其他鐵道諸用工事の繰延等各般に亘り極力經費の節約を計つて居るから損失は或は之以內に止まるかとも思はれるのである



美濃部鮮銀總裁試筆

懸賞漫畫

三等　糸瓜

童謠　歲の鍵

藤川淡永

鍵、鍵、歲の鍵
猿が腰から外した
白い白い歲の鍵。
『この鍵、渡そ
來い、來い、鷄。
猿の一年暮れました
なあぜ。また遲い
來い、來い、鷄、
歲の鍵、渡そ。』
紅い鍵嘴つけて
鷄冠を染めて
來た、來た、鷄。
『猿さんほんこにお待ち遠
長い道中歩いて
今やつこ來ました。
大正九年に鍵かけて
歲の鍵、渡して
お歸り、山へ。』
猿はきちんこ鍵かけて
雞に渡した
白い、白い歲の鍵。
その鍵、受けて
雞が開けた。
黑い、黑い歲の鍵。
パチンーこ開けて
鷄冠を立てゝ
東へ向いて、
羽ばたき高く
コツケコツコー
明けましてお目出度う。

賀正

京城若草町四〇　田中半四郎　電話一一四二番

京城鍾州通一丁目　東洋畜産興業株式會社　電話五六七番

鐵道指定旅館　一見旅館　館主　篠塚タマ　京城南大門驛前　電話長六八七番

京城蓬萊町　株式會社三巴酒造　電話長一〇六七番　振替京城六一八番
平壤壽町　三巴出張所　電話五一二番
太田春日町　三巴出張所　電話二五番

工事請負業　機械製造業　輸入販賣業　設計並ニ工事監督　朝鮮京城府竹添町二丁目五十七番地　杉山製作所　電話長一八一番　電略（スキ）

京城太平通二ノ一六　鈴木重成　電話一六〇二番

龍山質屋組合

京城府漢江通一三　大和與次郎　電話長一五番

朝鮮運輸聯合會

材木商　株式會社石崎商店　京城支店　京城府岡崎町十番地

旭町一丁目三一　大久保雅彥　電話八三九番
旭町一丁目九九　福田源一　電話七七番
黃金町二丁目一四八　赤尾虎吉　電話一六三九番
三角町七一　木尾虎之助　電話三七五番

元山府中町一丁目　御料理〇よし　電話六二番

京城府古市町四十二番地　馬糧商　林菅吉　電話三〇六番

（京城生命保險同業會）
日本生命保險株式會社京城支店長　大庭讃太郎
日清生命保險株式會社朝鮮支社長　吉田淳二郎
日本徵兵保險株式會社京城支社長　市川皓雄
日華生命保險株式會社朝鮮支部長　兵藤俊一郎
蓬萊生命保險相互會社朝鮮支部長　海老原太郎
東洋生命保險株式會社京城支店長　矢野近次郎
東海生命保險相互會社朝鮮出張所長　西岡光治
徵兵保險株式會社京城支部長　吉本薫矢
横濱生命保險株式會社朝鮮支部長　根本泰作
太陽生命保險株式會社京城支部長　樋木秀一
大同生命保險株式會社京城支部長　高田□忠
第一生命保險相互會社朝鮮地方部長　堀崎□□
太平生命保險株式會社京城支部長　宮部次郎
太正生命保險株式會社京城支部長　分田彥□
八千代生命保險株式會社京城支部長　志賀□□
富士生命保險株式會社鮮滿部長　三田□□
帝國生命保險株式會社京城支店長　篠田常□
愛國生命保險株式會社朝鮮支部長　爲野□□
共濟生命保險株式會社京城出張所長　一色太郎
共保生命保險株式會社京城出張所長　佐藤不二男
有隣生命保險株式會社朝鮮支部長　山路有近
明治生命保險株式會社京城出張所長　中村□□
國際生命保險株式會社朝鮮出張所長　安村□□

朝鮮京城府南大門通二丁目
和洋紙販賣　印刷、製本　土佐紙株式會社京城支店
電話長三五番　長四〇五番　振替口座京城八五九番　電略（トサ）
出張所　元山理立新町　同荷捌所　電話長四二八番

元山
元山水力電氣會社
元山酒造株式會社
內國通運株式會社
吉田倉庫株式會社
朝鮮郵船株式會社
吉田運輸株式會社
元山倉庫株式會社
朝鮮澱粉株式會社
東亞煙草株式會社
輸出食品株式會社

元山
朝鮮銀行元山支店
株式會社東洋拓殖會社元山支店
株式會社朝鮮殖產銀行元山支店
株式會社十八銀行元山支店
株式會社元山商業銀行

正　1921　賀

七本建築請負 中平岩藏 平壤本町 電話長五四九番

平壤壽町 練光寫眞館

平壤本町 遠忠洋服店 電話三三番

平壤港町 富田晋二 電話一三六

平壤守屋組支店 守屋柳治 松浦定次郎

平壤 大橋恒藏

上田寫眞機店 平壤出張所

平壤 久保鑛業所

銘酒金露 大塚平壤出張店

平壤栗委託問屋 久利屋商店 平壤大和町 電話四一四番

平壤賑町 貸座敷業組合

平壤府旭町 奥田洋行本店 奥田洋行大和町支店

平壤大和町 株式會社 丸京呉服店 電話長三五、八三五番 福袋 吉例に依り二日の初賣出しに御便益品致し候 支店 奉天春日町 丸京呉服店 電話七一七番

朝鮮商工株式會社 平壤本町 電話長五〇一番 四四一番

小川組 小川大吉 平壤山手町

旅館柳屋 平壤山手町 電話長二〇六番 長八二〇番

竹中呉服店 平壤本町 電話長四六五番

平壤黄金町 福井莊商會 電話長四一八番
平壤紅梅町 福莊製陶所

福井黒鉛製錬所 福井鑛業所
朝鮮平安南道新安州 福井武次郎
平壤山手町 福井鑛業出張所 電話一二四番
追而業務擴張の爲め出張所事務所新設仕候に付今年も不相變御引立希上候

平壤
篠田治策 李範來 岸秀次 中野太三郎 平井三男 高武公美 清田信一 安藤袈裟一 熊田信太郎 秋月榮次 桐山信之 李源甫

大翠亭 平壤櫻町 電話二三番

七星館 平壤櫻町 電話長二五一番

喜樂 平壤櫻町 電話五五四番

平安南道安州城内 藤村恒藏

平安南道安州城内 殖産銀行支店

平南价川驛前 內國通運取引店 坂口運送部 坂口事務所

旅館安州館 平安南道新安州

和洋雜貨 黄海道沙里院 田内商店 電話長三六番 電略タヘハタウチ

沙里院 永吉商店

平安南道安州城内 廣田鐵次郎支店 振替口座京城一一五四 電略ヒヌヒロ

沙里院 竹馬己代太

兼二浦 黒岩商店

鎮南浦 南浦材木商會

鎮南浦税關 中島覺之

鎮南浦 中華民國領事館 陳鑑

鎮南浦 高橋仁作

鎮南浦 柳原醸造所

平壤南門町 脇阪文鮮堂 電話八二一、一四六番

東西煙草商會製品 西鮮一手卸販賣所 青木組川島孫七商店 平壤櫻町 電話四八番

竹下齒科醫院 平壤壽町 電話八二番

洋家具製造販賣 村田茂太郎 平壤八千代町 電話七一一番

平壤酒造組合

飯田履物店 平壤大和町 電話一七番

洋酒食料品 平壤大和町 龜屋支店 電話長一六四番

喪中ニ付歲末年始ノ禮ヲ缺グ 鎮南浦 馬場嘉藏

南滿洲製粉株式會社 鎮南浦分工場

鎮南浦 西崎鶴太郎

東洋拓殖株式會社 沙里院支店

兼二浦 三星商會 電話五七番

黄州 小林靜

明けましてお芽出度う 平壤大同館内 染次 吉次 久枝 外一同

平壤慈惠醫院 職員一同

平壤府大和町 久川呉服店 電話五五〇番

平壤府大和町 丸橋呉服店 電話四六番

玉屋 平壤黄金町 電話一四一番

加納岩次郎 平壤郵便局

西鮮造林合資會社 平壤八千代町

平壤大和町 盛昌洋行 電話二〇四番

桑田平壤支店 電話長一六三番 長八五一番

時計並に貴金屬 福田商店 平壤大和町 電話五一七番

平壤 松井民次郎

平壤府壽町 材木商 武內商會 電話六四六番 倉庫置場 平壤港町

平壤 子爵 久松喬

丁子屋洋服店 平壤旭町 電話長一二七番

藤田時計商店 平壤大和町 電話長八三七番

鎮南浦 橋本豊太郎

鎮南浦汽船合資會社

鎮南浦明治町 久保組本店 電話四二番
龍井町 久保組支店 電話二六〇番

鎮南浦 釘本藤次郎支店

株式會社 南浦組

兼二浦金融組合

沙里院驛前 拾週年記念 岡田旅館 館主 岡田國造

平安南道軍隅里 旅館安州館支店

京義線新安州 柴田鑛業所 振替京城一五七五番

平安南道安州城内 河野出張店

平壤 佐土原岩熊

平壤 田中玄黄

鎮南浦商盛會（イロハ順） 濱田呉服店 巴商會 岡部呉服店 塚本呉服店 延田洋品店 松岡洋品店

平壤南門町 平壤自働車商會 李宗夏 電話長三三番

尋木商店 平壤旭町（電話四四五番） 尋木出張所 京城南大門通五丁目 營業種目 繩叺製品販賣

西洋御料理 武藏野 平壤櫻町 電話四三四番

金物機械 電氣材料 油類其他 工業用品 怡昇商會 平壤本町（電話七三一番）

平壤 齋藤欽二

平壤 楠野俊成

平壤 泰安洋行

平壤 齋藤金祐

平壤 赤木万次郎

平壤醫師會

平壤電氣株式會社

明けましてお芽出度う 平壤大同館内 若奴

▲材料精選▼ 平壤大和町十二番地 岩野朝次郎靴店 ▲迅速調進▼ 電話二二三番

平壤壽町 原商店 電話六八四

平壤 歌舞伎座 藤野宗次郎

朝鮮平壤府南門通二丁目 太刀川藥房 電話二〇七 振替京城一〇九番

柳原初平 平壤八千代町

平壤工電社 電話長八二四番

平壤泉町 無煙炭 木材 加藤商會 電話長八二三番

平壤府練兵隊前 石井商店 電話五六一番

大同館 平壤黄金町 電話二〇七番

平壤府大和町 天狗店 支配人 岸本彌治

平壤大和町 木村屋支店 電話七七五番

德本平壤支店 平壤大和町

宮崎自轉車商會 平壤大和町 電話四四番

平壤大和町 金川綿店 電話三一〇番

平壤大和町 森田藥店

平壤壽町歌舞伎座前 松木時計店

麥粉砂糖卸商 平壤府 井上日韓堂 電話長四一六番

株式會社 平壤魚市場

綿糸布雜貨卸商 淺海新太郎 平壤南門通 電話二〇八番

平壤 上野直記

場主 村松製車場 神谷伊之吉 平壤府本町

平壤大和町 筑前屋旅館履物部

平壤神社 松尾正技

平壤旅館組合

平壤大和町 三谷活版所 電話五二三番

安川松本京城支店 平壤出張所 安州炭販賣店

平松亮三 平壤本町 電話長一六一番

東亞煙草株式會社 平壤分工場

平壤府大和町七番地 鷄林商事株式會社 電話一八番

平壤港町 平壤信託株式會社 電話長五六五番

齋藤酒造合名會社

平壤大和町 金物商 矢野長太郎 電話長三三番

平壤南門町 秋鹿陶器店 電話一一二番 振替貯金京城四六四番

河村商會 平壤泉町二十番

平壤府大和町 磯村時計店

東洋電氣商事合資會社 代表者 吉川勝太郎 平壤瑞氣通

平壤 石隈信乃雄

氣力組工商 二百田序一 平壤本町

平壤 朝鮮燒酎株式會社

兼二浦 橋本組出張所 電話一〇一番

兼二浦 竹中吉之助

鎮南浦倉庫株式會社

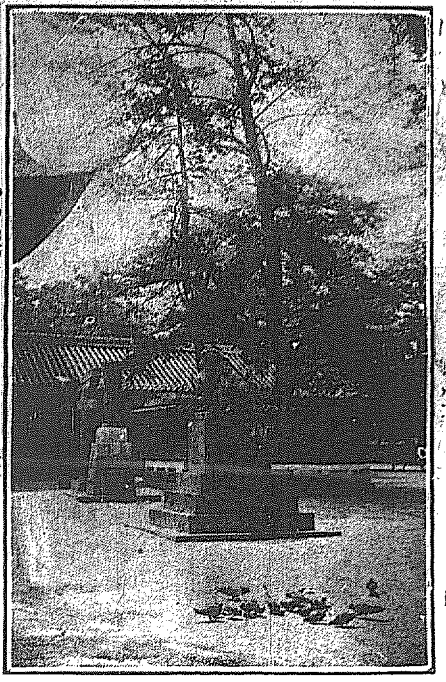
朝鮮無煙炭鑛株式會社 平安南道江西郡
江西支店
本社 大阪市東區今橋三丁目
煉炭工場 平南線岐陽驛前
◆事業ノ種類◆ 無煙炭採掘、煉炭及骸炭ノ製造並ニ販賣

朝鮮電氣興業株式會社

開業第一年 大日本製糖株式會社 朝鮮支店

朝鮮銀行平壤支店
朝鮮殖産銀行平壤支店
漢城銀行平壤支店
百三十銀行平壤支店
平壤銀行
東洋拓殖株式會社平壤支店

◇社頭曉◇



宇佐八幡宮

堅忍自重を要す

漢銀取締役兼支配人　韓翼教氏談

茲に大正十年の新年を迎へたると同時に久しく沈滯せし經濟界は頓に改變の兆を呈し人氣大に緊張し來れるが如し此際財界の經過を回顧するに既往數年間好景氣を呈したる財界は客年三月內地財界の動搖を來たし株式・期米、綿布を初め其他の諸品一齊に崩落の歩調を辿り各市場の亂調を現し財界惡化の影響は漸次激落となり物價の崩落と

資金供給難 は著しく人氣を不良ならしめ殊に綿絲布商解合問題等を發生し金融業者の警戒嚴重を加ふるに至りたるを以て一部思惑者の如きは資金の綜合上苦心を嘗めたるものゝ如し且つ財界は一昨年旱魃の影響淺からず剩へ帝國議會の解散の爲め繼續事業の休止と民間工事の手控其他にて都鄙財界の不況深甚となれり殊に綿絲布商に對する救濟問題は關係者の組織したる臨時金融組合と銀行業者との間に諒解を得て一部の不安を除去することになりたると同時に商人間に於ける綿布受渡し問題も大部分解合を行ふ事となりしと雖も容易に窮狀を脫すること能はざるが如し八月中旬初立會を開始したる京城現物株式取引市場も爾來場面引立たず寂々たる狀を呈し歲末季に際しても例年に比し寂寞たる光景なり斯の如く一般

商況は沈滯 して更に政變なきに似たりしも當年各地の農作は豐況に依り從來沮喪せる人氣を引立てしめ財界の情況も既に極端なる不安時代を經過したるが如き觀あるに到らしめたり去り乍ら株式、期米並に內地市場の不味前途不安見越に依る地方購買力の減退等依然たる財界の萎縮傾向により貨物の停滯を來し集散狀況不良を呈したると共に冬物仕入品の手控へを誘致し追々歲末の近接するにも拘らず市況は容易に活氣を呈せず十一月末日迄に於ける朝鮮貿易の輸移出入累計は四億百六十四萬圓にして前年同期に比し四千三百二十八萬圓の激減を生じたるが歲月人を待たずして概月となり

節季の到來 と共に幾分年末氣分を生じ市場は稍活氣付きたる模樣を現し一般財界に於ても格別不祥事の發現なく寧ろ凡調和に越年する事を得たり今や不況の最高潮時代は既に過ぎ安定の曙光に入りしが如しと雖も尚未だ海外の事情は容易に樂觀を許さず吾人財界に處する者は堅忍自重世界の大勢に順應し萬遺憾なきを期せざる可らず

松田源治氏試筆

酉の傳說

陽楳山人

干支の起源

本年の干支は辛酉である。干支を年に配するは、根僕の說に「十干を母となし、十二支を子となす。干は天に屬し、支は地に屬す。干を歳陽とし、支を歳陰となす」とあるが、その起源に就ては、諸說區々である。幹枝には、黄帝が大撓に命じて、甲子を造り、時を正すとあり、和漢三才圖繪には黄帝が子午十二辰を立て、以て日を名づけ、又十二名獸を以て之に屬し、子、寅、辰、午、申、戌を六陽となし、丑、卯、巳、未、酉、亥を六陰となすとありて、支那に於ける干支は、黄帝の時に起つたと傳へる。然しながら大集經の說に因れば十二支を十二獸に配するは、佛說より起つたとする。大集經には、虎がなくして、獅子がある。が、獅子は唐土にはなかつた爲め、虎に變へたらしいと云ふのである。實際印度には古くから十二獸のことがあつた。北朝を經て支那に入つたと云ふ說が有力である。兎に角、王充論衡に十二生肖の辨があり、漢趙曄の吳越春秋にも、方位に蛇、辰等のことを說けるに見れば、十二獸のことが、漢・晉の頃から唱へられたことは明かである。日本には推古天皇の始め、支那から曆の傳來すると共に、傳はつたものである。而して大化に至り、始めて年號の立てられるまで、凡て干支を以て年を紀した風があつた。

辛酉の緣起

十干の名義に就て云へば、辛は新である。萬物新に生ずるの義である。之を陰陽に別てば、辛は陰である。之を五行に配當すれば、金に屬し、その陰なるが故に金の弟と云ふのである。十二支の名義に就て云へば、酉は秀である。或は就にも作り、凡て萬物成就する義である。之を月に配當して八月とするは、周の正月が陰曆の十一月に當るが故に、十一月を子として、順次配月した結果ではあるが、また穀類成熟する時期を以て、酉の意を隠したものである。之を五行に配當すれば、酉は金に屬し、之を陰陽に別てば、陰である。蓋し鷄は盛りて感じないからである。然しながら易には、酉を兊に作り、悅ぶに通じて、物が備足して、皆喜悅すると云ふ、頗る目出度い意に解く。酉の正字は丣で、兩方より戶を閉める意味である。卽ち日の入つて、戶を閉める夕刻を、酉の刻とする所以である。

鳥の起源

十二支を十二獸に配するときは酉は鷄である。鳥の起源に就て、事物紀原に依れば、種々の傳說がある。羽嘉、飛龍を生み、飛龍、鳳凰を生み、鳳凰、鸞鳥を生み、鸞鳥、庶鳥を生むとなし、徐整三五曆には、天地の始めに三白鳥があつて、衆鳥を生んだとして居る。然し最近の動物學では、爬蟲類から進化して始祖鳥が出來たと說かれる。始祖鳥は中生代に、水成岩時代があつた頃、口には鋭き齒を有し、爬蟲類樣の長尾を垂れ、前肢は翼と變じて、尙ほ三本の指を殘し、逞しい爪を備へて、空中を飛翔するは、今日の鳥の如く、斷崖を攀づるには、その前肢の爪を以てし、羽毛頗る疎らにして、巨眼深く骨窩に保護され、鳥とも付かず、獸とも付かずの物である。此の始祖鳥が明治七年バヴァリアで發見された化石に依つて想像すれば、源は爬蟲類である。爬蟲類が陸上や、水中生活を遁る內に、空中飛行を考へ出し、今日の飛行家位に央ば飛行が遅れ出して、始祖鳥と云ふものになり、更に仕上げをかけた奴が、今日の鳥類である。此の邊から考へると、今日の飛行家は、未だ中生代である。鳥のやうに飛べだすのは、一世界後らしい。

募集漢詩

高野竹隱選

釜山　金鍋斗

一封浮寄賀迎新。如對清儀別有賓。我臨康寧能止足。君無憂患可安身。經霜殘柳初回色。冒雪寒梅漸覺春。栢酒高堂爭獻壽、人間壺裏樂雙親。

醉窺醺然、如唔言一室、

謹賀新年

安東縣六道溝　主任　前田伊左衛門　宮下洋行　電話長二三・一八三番

精米業　安東縣三番通六丁目　田中精米所　電話長三五二番

安東縣大和橋通　貿易商　岡村洋行　電話三三八番

南滿洲安東縣　內科小兒科　西川醫院　西川勝彥　電話九三番

南滿洲安東驛前　安東ホテル　主　船津房吉　電話長三八五・七一番　電話四七八番

安東驛前　安東縣市場通　滿洲建材株式會社　電話一三一番

和洋雜貨　安東縣市場通　天下堂　電話三七五番

安東縣五番通　高等寫眞　管原寫眞館　電話一五八番

安東縣市場通　田中大藥房

南滿洲安東縣　椿井三男　電話四五五番

安東縣四番通　蒿麥　更科　電話長一五六番

醬油　清酒　味淋　安東縣三番通七丁目　由原釀造元　電話五一番

安東縣四番通　育田文三　電話一三五番

食料雜貨　安東縣五番通四丁目　大川商店

安東縣三番通三丁目　村上四郎商店　電話三八番

土木建築請負業　安東縣六番通五丁目　清原初太郎　電話六三二番

各種鐵工　安東縣大和橋通五丁目　大森鐵工所　電話三二番

石炭商　安東縣五番通八丁目　橋野商會　電話長二〇九番

酒味噌醬油類　安東縣四番通　水野商店　電話一六九

安東縣市場通四丁目　安東鐵工株式會社

シンガーミシン會社安東縣市場　明河龜之助

安東縣市場通六丁目　岩本製靴店

食料雜貨小間物商　安東縣三番通七丁目　梶村商店

萬屋物　安東縣市場通六丁目　川端商店

大阪商船・朝鮮郵船代理店　合名會社木浦商郵代理店　木浦

木浦　泰平酒造株式會社

木浦　深川傳次郎

木浦　朝鮮製油株式會社

縄叺の元組　朝鮮縄叺株式會社　全南榮山浦　電話四五番

木浦　南北棉業株式會社　木浦繰綿工場

木浦穀物商組合

朝鮮興業株式會社　木浦管理所
朝鮮實業株式會社　木浦支店
鎌田實業株式會社　木浦支店
國武農場　木浦支店

木浦　野上代三郎

木浦　福田農事株式會社

木浦　木浦醬油株式會社

木浦水產株式會社附屬魚市場

合名會社　鈴木商店　木浦出張所

木浦　朝鮮棉花株式會社

木浦醫師會

東洋拓殖木浦支店
朝鮮銀行木浦支店
十八銀行木浦支店
殖產銀行木浦支店
湖南銀行木浦支店

和田常市　京城南米倉町　電話五一番

兆昌材木店　京城黄金町一丁目　電話第二八五一番

京城旭町二丁目　株式會社　京城葬儀社　電話一五六七番

名高屋酸素株式會社朝鮮代理店　京城酸素鎔接所　京城長谷川町九一　電話一三八九番

京城本町一丁目　むらさき　電話一七六番

古禮藏　京城府元町一丁目　長電話一四一番

藥種賣藥並ニ度量衡販賣　棕橋八十吉　京城府榮町角（電話二六）
內務省免許產婆　棕橋とみ子　京城府榮町一〇七　電話三一六番

京城本町三丁目　橋詰吳服店　電話一八〇　振替京城一五六一番

煎豆、製菓各種、內地ビスケット各種、水飴販賣、其他菓子、落花生　商品目錄　朝鮮京城本町三丁目　岡本福山堂　電話五八四番　振替京城四六〇二番　京城府黄金町三丁目　岡本敷山堂卸部

京城明治町二丁目　法學士辯護士　榎本隆　電話一八四四番

高山孝行

大藏大臣免許　京城黄金町二丁目百九十四番地　明治公債株式會社朝鮮支部　電話一九〇八番　振替口座京城二五五番

京城明治町二丁目　傘提灯商　大島良吉　電話一六三五番　振替口座一一三番

京城黄金町三ノ三〇二　犬島新作　長電話九八九番

京城府明治町　城六太　電話九六一ノ五七番

株式會社朝鮮殖產銀行海州支店　平原保

海州北本町鍋路　測量製圖　池戸鎭二郎　電話一四六

海州中町小學校前　菓子食料品文具類　池戸りの

海州南本町　材木商　三上爲輔商店　電話一〇五番

藥種賣藥問屋　林藥房本店　同　支店　海州北本町　電話二一〇番

海州南本町　京城名帥組　海州出張所　電話一七八番

黄海道海州　富士商會　西村守三

長淵郡苔灘　富士農場

土管煉瓦瓦類其他製造販賣　永柳與三太郎　海州南門外

樋口金物商店　海州南本町　電話六一番

黄海道原蠶種製造所

角松田　伊上遠雅　金剛恭平　金俊治成　金華寬七榮

榊原精米所　海州西榮町　電話三八番

海州公立農業學校
末松新　楠田正直　宮瀨耕三　横田俊郎

株式會社　石崎商店

本店　安東縣市通
支店　新義州府鴨川町
支店　京城府岡崎町
販賣所　大邱元町

安東縣銘酒店（イロハ順）
大和橋通　一鶴本莊酒店　電話一一七番
四番通七丁目　金露　大塚合名會社出張店　電話長三一〇番・五九六番
市場通四丁目　白鹿　鶴屋酒店　電話三二番
市場通三丁目　菊正宗　白菊盛　福田商店　電話長三〇番
大和橋通六丁目　櫻正宗　久正宗　三巴商店　電話長三四番・中一六〇番
四番通三丁目　白鹿　宮川支店　電話三〇番

京城大平町　三浦幸一郎　電話一六六九番

紙文房具並ニ石版、活版印刷商　江里口和吉　京城本町一丁目四八　電話一〇三〇番　振替京城一二三〇番　印刷工場　大平町　電話二一九番

京城消防組　組頭　伊藤友松　小頭　安達久次郎　外一同

株式會社　安東檢番　安東縣　料理屋組合　電話九二番・四七三番

日陞公司　阿部油房　南滿洲安東縣　電話長一九三番・長四九〇番・二九五番・五六八番・六五七番　中國電話三番

安東縣四番通　鈴木商店　安東出張所　南馬之助　電話三七八番

安東縣三番通六丁目　木材商貿易　永長號　電話長二八五番　同　三六六番　電略エイスハエ

大連木材株式會社　安東縣支店　本店大連市秋町　支店安東縣三番通四丁目　電話五〇番　製材所新義州鴨川町

朝鮮染料工業株式會社　新義州本町一番地　電話二五六番
支店安東染色工廠　安東縣六道溝　電話六〇番

京城府崇麟洞一三八（光化門郵便局東門向ひ）　李王職御用達、高等朝鮮料理　海東館　宴會席階上階下五百人收容　電話九八六番・七二五番
新鮮ナル料理ニテ新年宴會ニ限リ來ル十日迄デ三割引可致候

新年　天理至無私　半嶋春復來　辛酉元旦　大邱西城町　金熙旭

大邱府市場町　內田商店

大邱府上町　大邱印刷合資會社

大邱府元町　大東庵

大邱　醫師會一同

大邱旅館組合

大邱精米株式會社

中央鐵道株式會社

日の出煙付　安東縣六道溝大廟通　製造元　日支合辦　日の出商會　滿鮮工場　電話長四七三番

滿鮮一手販賣　安東縣九番通五丁目　正隆洋行　村地俊治　電話六三五番

賀 乙

京城承認運送店組合
京城運送業組合

京城本町一丁目
パイン萬年筆製作所
電話三〇七七番
振替京城五一九四番
市内販賣部　京城本町一丁目京城局前
同　鍾路二丁目
出張所　大邱銅町一丁目

營業品目
堀井謄寫版　鐵筆版　平維版　輪轉機　謄寫機
エヂソン輪轉謄寫機
サイクロスタイル輪
謄寫版用品
最新事務用品
文房具各種
石版活版インキ各種

堀井謄寫堂
京城出張所
京城南大門通二
電話四〇二番

東洋拓殖株式會社
京城支店

朝鮮京城府本町四丁目一五
土木建築請負業
靜岡勝呂組京城支店
長電話五四〇番
本店　靜岡縣庵原郡富士川町
長電話七番
支店　靜岡市江川町
長電話八九一番

砂糖麥粉　直輸入商
德永商店
京城水標町五拾參番地
電話長一二七三番
長信略號二四四七番
振替口座京城一九五番（トク）又ハ（ト）

京城本町二丁目五十八番地
釘本藤次郎本店
卸部　電話七七四番
小賣部　電話四五番
振替貯金口座京城一五六番
錦南浦三和町　釘本藤次郎支店
電話二〇三番
振替貯金口座京城七六三番
京城本町三丁目　釘本樂器部
電話一二八三番
振替貯金口座京城六八四番
京城本町二丁目　釘本自轉車部
電話二七七四番
京城本町二丁目　釘本鐵工場
京城西界洞　釘本鑄物工場
電話四五番
京城本町二丁目　釘本バケツ工場
架設中
京城本町二丁目　釘本金網工場
大阪南區鰻谷町通三　釘本大阪出張所
電話二七七四番

不二興業株式會社
京城黄金町一丁目
電話長八八九番

京城明治町二丁目
京城魚市場
電話一〇七八番

京城南大門通二丁目
大倉洋紙店大阪支店
京城出張所
電話四九〇番

京城府古市町四拾參番地
東亞商工株式會社
電話長（九四二）（七二七）（一六九）
大邱出張所　電話長三四二番

京城府黄金町二丁目
開平炭輸入元　株式會社松昌洋行
京城出張所
電話一七五番

揮發油　石油　機械油
テキサス油販賣組合
古舘又市商店
京城府漢江通リ四番地
電話龍七一四番
振替口座京城七八二五番

京城南大門通リ二丁目
朝鮮自轉車株式會社
電話一二三番
振替口座京城八一九二番
出張所　平壤本町十番地
大邱元町一丁目
清州道廳前
春川邑内
支店　全北全州大正町三丁目
電話一二〇番

三井合名會社
山林課
京城長谷川町
電話四一五番

京城本町一丁目
株式會社大澤商會京城支店
時計部　部長電話六貳番
寫眞機部　電話三三九番
自轉車部　部長電話四八〇番
振替二三番
社長　大澤徳太郎
京城支店長　鈴木仙次郎

三株式會社中村組農林部
松岡直温
京城府南山町一丁目四三番地
電話長一九六〇番

京城黄金町一丁目
朝鮮煙草株式會社
電話一三七〇番